

平成19年度

岩手県農業研究センター 年報

平成21年3月



## 目 次

### I 農業研究センターの概要

1 組織機構・職員数	1
2 会議、委員会、部会等の運営	2
(1) 農業試験研究推進会議等の開催	2
ア 新規試験研究課題の評価と選定	2
イ 試験研究成果の評価と採択	3
ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価	4
エ その他	5
オ 外部評価委員	6
(2) 企画運営会議、全体会議の概要	7
(3) 委員会等の運営	11
ア ほ場管理委員会	11
イ 図書管理委員会	12
ウ 研究報告等編集委員会	12
エ 参観デー等企画運営委員会	12
オ 特許審査委員会	13
カ 岩手県農作物病害虫・雑草防除基準編集所内検討会議	13
キ 備品導入検討委員会	13
ク 環境管理委員会	13
(4) その他会議	14
ア 全国農業関係試験研究場所長会議	14
イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議	14
ウ 全国農業関係試験研究主務課長・場長会議	14
エ 全国畜産関係試験研究場所長会議	14
オ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議	15
カ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議	15
キ 東北農業試験研究推進会議	15
ク 県内における開催学会	17

### II 試験研究の推進

1 研究活動の概要	19
2 トピックス	20
(1) 農林水産部長表彰	20
(2) 岩手県農業技術開発推進要綱・要領の制定およびセンター内規定の見直し	20
3 研究室の動き	22
(1) 企画経営情報部	22
(2) 農産部	23
(3) 園芸畑作部	25

(4) 生産環境部 .....	28
(5) 病害虫部 .....	29
(6) 畜産研究所 .....	30
(7) 県北農業研究所 .....	33
<b>4 平成19年度試験研究課題 .....</b>	<b>35</b>
(1) 細目課題分類 .....	35
(2) 試験研究課題一覧 .....	36
(3) 要望課題の措置 .....	60
<b>5 共同研究等の推進 .....</b>	<b>63</b>
(1) 国庫委託研究事業 .....	63
(2) 交付金プロジェクト委託研究 .....	63
(3) 委託プロジェクト研究 .....	63
(4) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 .....	64
(5) 民間委託研究 .....	64
(6) 夢県土いわて戦略的研究推進事業 .....	65
(7) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究 .....	65
(8) 大学との共同研究 .....	65
(9) 他の公設試との共同研究 .....	66
(10) A F R (岩手農林研究協議会) 研究会 .....	66
(11) その他共同研究 .....	67
(12) その他産学官連携 .....	67
<b>6 現地試験の実施 .....</b>	<b>68</b>
<b>III 試験研究の成果</b>	
<b>1 試験研究成果 .....</b>	<b>73</b>
(1) 平成19年度成果数 .....	73
(2) 外部評価結果(集計) .....	73
(3) 平成19年度成果名及び外部評価結果一覧 .....	74
<b>2 追跡評価 .....</b>	<b>79</b>
(1) 評価対象 .....	79
(2) 評価者 .....	79
(3) 評価方法 .....	79
(4) 追跡評価結果 .....	79
(2) 追跡評価に係る主となる評価項目と目標値 .....	79
<b>3 東北農業試験研究成果 .....</b>	<b>81</b>
(1) 成果数 .....	81
(2) 成果名 .....	81
<b>IV 試験研究成果の発表</b>	
<b>1 試験成績書等刊行物 .....</b>	<b>83</b>

2	研究レポート	84
3	岩手県農業研究センター研究報告	85
4	学会等研究報告	86
5	雑誌等掲載	92
6	新聞等掲載	95
7	テレビ・ラジオ放送	98
8	指導資料等掲載	98
9	図書資料収集・提供	101
10	ホームページ	101

## V 指導・啓発活動

1	技術伝達研修等の実施	103
2	現地指導・研修会等への講師派遣	105
3	視察者、見学者の受け入れ状況	115
4	春季一般公開及び参観デー	115
5	現地ふれあい農業研究センター	115
6	一日子供農業研究員	115
7	加工体験	115
8	研修生の受け入れ	116
	(1) 海外研修員	116
	(2) 短期研修生	116
	(3) 体験学習の受け入れ	116
	ア 小中学校及び高等学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの	116
	イ インターンシップ等に対応したもの	116
9	協議会、委員会等委員	117

## VI 職員研修

1	大学院派遣	121
2	海外派遣・研修	121
3	国内研修への派遣	121
	(1) 依頼研究員	121
	(2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修	121
	(3) 農業中核研究員養成研修	121
	(4) 農林水産研究高度化人材育成セミナー	122
	(5) その他	122
4	所内セミナー等	123

## VII 試験研究以外の業務概要

1	作物の原々種の採種	129
	(1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産	129

(2) その他原々種種子の生産 .....	129
<b>2 作物の原種の採種 .....</b>	<b>129</b>
(1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産 .....	129
(2) その他原種種子の生産 .....	130
<b>3 種苗等の配布 .....</b>	<b>130</b>
(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布 .....	130
(2) その他種苗の配布 .....	131
<b>4 県有種雄牛の精液の供給 .....</b>	<b>132</b>
(1) 黒毛和種 .....	132
(2) 日本短角種 .....	132
<b>5 種豚、種鶏等の配布 .....</b>	<b>132</b>
(1) 銘柄鶏の配布 .....	132
<b>6 寄託放牧 .....</b>	<b>132</b>
(1) 牛 .....	132
(2) 馬 .....	132
<b>VIII 人事、予算、財産</b>	
<b>1 岩手県農業研究センター予算 .....</b>	<b>135</b>
<b>2 建物、用地の面積及び飼養家畜数 .....</b>	<b>136</b>
(1) 建物・用地の面積 .....	136
(2) 飼育家畜頭数 .....	136
<b>3 種苗登録、特許等 .....</b>	<b>137</b>
(1) 種苗登録 .....	137
(2) 特許、実用新案 .....	138
(3) 一般に公開しているプログラム等 .....	138
<b>4 表彰 .....</b>	<b>139</b>
<b>5 職員名簿 .....</b>	<b>141</b>
<b>沿 革 .....</b>	<b>143</b>

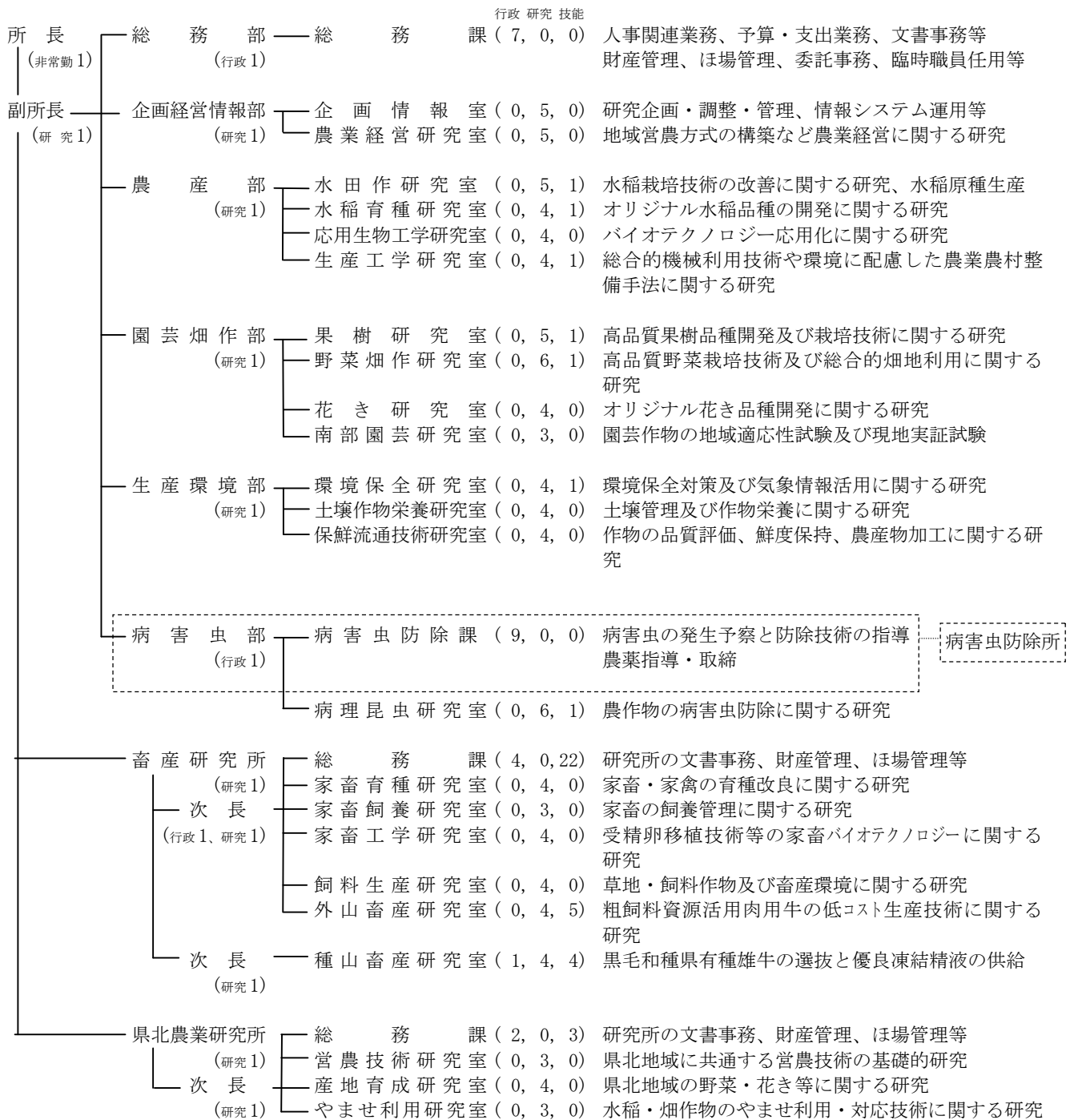
# I 農業研究センターの概要





# 1 岩手県農業研究センター 組織機構・職員数

(平成 20 年 3 月 31 日現在の実配置数)



	本部		畜産研究所			県北農業研究所 (軽米町)	合計
	(北上市)	南部園芸研究室 (陸前高田市)	(滝沢村)	外山畜産研究室 (盛岡市玉山区)	種山畜産研究室 (住田町)		
行政 ※	19		5		1	2	27
研究	65	3	17	4	5	12	106
技能	7		22	5	4	3	41
合計	91	3	44	9	10	17	174

※ 非常勤の所長を含む

## 2 会議、委員会、部会等の運営

### (1) 農業試験研究推進会議等の開催

#### ア 新規試験研究課題の評価と選定

##### (ア) 試験研究会議

###### a 協議事項

- (a) 平成 20 年度新規試験研究課題(案)について
- (b) 平成 20 年度試験研究を要望された課題とその措置(案)について
- (c) 平成 19 年度試験研究成果(案)について (園芸部会のみ)
- (d) その他

###### b 開催日及び参集範囲

専 門 部 会 名	農産・総合部会	園芸部会	畜産部会	
開 催 日	19. 8. 6(月)	19. 8. 7(火)	19. 8. 8(水)	
参 集 範 囲	(財)岩手生物工学研究センター	○	○	○
	農林水産企画室	○	○	○
	団体指導課	○	—	—
	流通課	○	○	○
	農業振興課	○	—	—
	農業普及技術課	○	○	○
	農村計画課	○	○	—
	農村建設課	○	○	—
	農産園芸課	○	○	○
	畜産課	—	—	○
	中央家畜保健衛生所	—	—	○
	農業大学校	○	○	○
	中央農業改良普及センター	○	○	○
農業研究センター	○	○	○	

##### (イ) 内部調整会議

###### a 開催日 19.8.27 (月)

###### b 協議事項

- (a) 平成 19 年度試験研究成果(案)について
- (b) 平成 20 年度実施要望課題の措置について
- (c) 平成 20 年度新規試験研究課題(案)について
- (d) その他

###### c 参集範囲

農業研究センター所長、同副所長、同各部長 (総務部長を除く)、同各研究所長

##### (ウ) 専門部会

###### a 協議事項

- (a) 平成 20 年度新規試験研究課題について
- (b) 平成 19 年度試験研究成果について (園芸部会のみ)
- (c) その他

b 開催日及び参集範囲

専 門 部 会 名		農産部会	園芸部会	畜産部会
開 催 日		19. 9. 4(火)	19. 9. 4(火)	18. 9. 3(月)
参 集 範 囲	外部評価委員	○	○	○
	東北農業研究センター	—	—	○
	東北農政局岩手農政事務所	○	○	○
	家畜改良センター岩手牧場	—	—	○
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	○	○
	岩手県農業共済組合連合会	○	—	○
	岩手県土地改良事業団体連合会	○	—	—
	岩手県農産物改良種苗センター	○	○	—
	岩手県植物防疫協会	○	○	—
	岩手県農薬卸商業協同組合	○	○	—
	岩手県農業公社	○	—	—
	岩手県農業機械協会	○	—	—
	岩手県肉牛生産公社	—	—	○
	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター	—	—	○
	岩手県畜産協会	—	—	○
農業研究センター	○	○	○	

(エ) 総合調整会議

a 開催日 18.9.13 (水)

b 協議事項

- (1) 試験研究成果の公表について
- (2) 新規試験研究課題の次年度実施について
- (3) その他

c 参集範囲

農業普及技術課総括課長、農業研究センター所長、同副所長、同各部長（総務部長を除く）、同各研究所長

イ 試験研究成果の評価と採択

(ア) 試験研究会議

a 協議事項

- (a) 平成 19 年度試験研究成果案について
- (b) その他

b 開催日及び参集範囲

専 門 部 会 名		農産部会	園芸部会	畜産部会	総合部会
開 催 日		19. 12. 10(月)	野菜 19. 12. 11(火) 花き、果樹 19. 12. 12(水)	19. 12. 13(木)	19. 12. 14(月)
参 集 範 囲	(財)岩手生物工学研究センター	○	○	—	—
	農林水産企画室	○	○	○	○
	団体指導課	—	—	—	○
	流通課	○	○	○	○
	農業振興課	—	—	—	○
	農業普及技術課	○	○	○	○
	農村計画課	○	○	—	—
	農村建設課	○	○	—	—
	農産園芸課	○	○	○	○
	畜産課	—	—	○	—
	中央家畜保健衛生所	—	—	○	—
	農業大学校	○	○	○	○
	中央農業改良普及センター	○	○	○	○
農業研究センター	○	○	○	○	

### (イ) 内部調整会議

- a 開催日時 19.12.21 (金)
- b 協議事項
  - (a) 平成 19 年度試験研究成果(案)の内部評価について
  - (b) 外部検討会議提案内容 (外部評価提案課題) の調整について
  - (c) その他
- c 参集範囲  
農業研究センター所長、同副所長、同各部長 (総務部長を除く)、同各研究所長

### (ウ) 外部検討会議

- a 協議事項  
平成 19 年度試験研究成果について
- b 開催日及び参集範囲

専 門 部 会 名	農産部会	園芸部会	畜産部会	総合部会	
開 催 日	20.1.8(火)	野菜 20.1.9(水) 花き・果樹 20.1.10(木)	20.1.11(金)	20.1.7(月)	
参集範囲	外部評価委員	○	○	○	○
	東北農業研究センター	—	—	○	—
	東北農政局岩手農政事務所	○	○	○	○
	家畜改良センター岩手牧場	—	—	○	—
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	○	○	○
	岩手県農業共済組合連合会	○	○	○	○
	岩手県土地改良事業団体連合会	—	—	—	○
	岩手県農産物改良種苗センター	○	○	—	○
	岩手県植物防疫協会	○	○	—	○
	岩手県農薬卸商業協同組合	○	○	—	○
	岩手県農業公社	○	—	—	—
	岩手県農業機械協会	○	—	—	—
	岩手県食品産業協議会	—	—	—	○
	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター	—	—	○	—
	岩手県畜産協会	—	—	○	—
	農業研究センター	○	○	○	○

### (エ) 総合調整会議

- a 開催日時 20.1.28 (月)
- b 協議事項
  - (a) 試験研究成果の公表について
  - (b) 要望課題の措置について (農業改良普及センター分)
  - (c) その他
- c 参集範囲  
農業普及技術課総括課長、農業研究センター所長、同副所長、同各部長 (総務部長を除く)、同各研究所長

## ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価

### (ア) 研究会議

- a 協議事項
  - (a) 試験研究課題の検討について
  - (b) 平成 19 年度試験研究課題の試験設計について
  - (c) その他

b 開催日及び参集範囲

専 門 部 会 名	企画経営情報部	農産部	園芸畑作部	生産環境部	病害虫部	畜産研究所	県北農業研究所
開 催 日	20.3.6(木)	20.3.4(火)	20.3.5(水)	20.3.3(月)	20.3.7(金)	20.3.10(月)	20.3.11(火)
参 集 範 囲	(財)岩手生物工学研究センター	—	○	○	—	○	—
	農林水産企画室	○	○	○	—	—	○
	団体指導課	○	—	—	—	—	—
	流通課	○	○	○	○	—	○
	農業振興課	○	○	—	—	—	—
	農業普及技術課	○	○	○	○	○	○
	農村計画課	○	○	—	○	—	—
	農村建設課	—	○	—	—	—	—
	農産園芸課	○	○	○	○	○	—
	畜産課	—	—	—	—	—	○
	岩手県中央家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○
	農業大学校	○	○	○	○	○	○
	中央農業改良普及センター	○	○	○	○	○	○
	久慈農業改良普及センター	—	—	—	—	—	—
二戸農業改良普及センター	—	—	—	—	—	—	
農業研究センター	○	○	○	○	○	○	

(イ) 内部調整会議

a 開催日時 20.3.19 (水)

b 協議事項

- (a) 年度評価について
- (b) 事後評価について
- (c) 追跡評価について
- (d) 平成 20 年度新規課題の変更について

c 参集範囲

農業研究センター所長、同副所長、同各部長（総務部長を除く）、同各研究所長

エ その他

(ア) 岩手県試験研究推進会議

a 開催日時 19.5.31 (木)

b 協議事項

- (a) 平成 19 年度の農業研究センターにおける技術開発について
- (b) 新しい試験研究推進システムについて

c 参集範囲

農政担当技監、農林水産企画室企画担当課長、団体指導課総括課長、流通課総括課長、農業振興課総括課長、農業普及技術課総括課長、農村計画課総括課長、農村建設課総括課長、農産園芸課総括課長、畜産課総括課長、生物工学研究所長、農業研究センター所長、同副所長、同各部長（総務部長を除く）、同各研究所長、同各研究所次長、農業大学校長、中央農業改良普及センター所長

(イ) 岩手県農業技術開発会議

a 開催日時 19.12.26 (水)

b 協議事項

- (a) 新たな農業技術開発システムについて
- (b) 農業研究センターにおける技術開発について
- (b) 財団法人岩手生物工学研究センターにおける技術開発について

c 参集範囲

農政担当技監、農林水産企画室企画担当課長、団体指導課総括課長、流通課総括課長、農業振興課総括課長、農業普及技術課総括課長、農村計画課総括課長、農村建設課総括課長、農産園芸課総括課長、畜産課総括課長、生物工学研究所長、農業研究センター所長、同副所長、同企画経営情報部長、同農産部長、同園芸畑作部長、同生産環境部長、同病害虫部長、同畜産研究所長、同県北農業研究所長、農業大学校長、中央農業改良普及センター所長

## オ 外部評価委員

専門部会	外部評価委員名	所属・役職	備考
農産部会	熊谷 太一	(有) 下館農産代表取締役 ・ 岩手県農業農村指導士	
	黒田 榮喜	岩手大学農学部農業生命科学科 教授	
	高橋 久祥	(株) 純情米いわて執行役員業務部長	
	高橋 静男	(有) 「夢農業たかはし」 代表取締役 ・ 岩手県農業農村指導士	
	吉永 悟志	(独) 東北農業研究センター東北水田輪作研究チーム 上席研究員	
園芸部会	伊藤 伝	(独) 果樹研究所果樹病害研究チーム 上席研究員	果樹
	近藤 哲治	岩手県農業農村指導士	果樹
	紺野 啓	岩手県果樹協会 会長	果樹
	高梨 祐明	(独) 東北農業研究センター省農薬リンゴ研究チーム チーム長	果樹
	森下 昌三	(独) 東北農業研究センター夏秋どりイチゴ研究チーム チーム長	野菜
	小川 清弘	全農岩手県本部園芸部 次長	野菜
	門田 育生	(独) 東北農業研究センター寒冷地野菜花き研究チーム 上席研究員	野菜
	三浦 憲蔵	(独) 東北農業研究センターカドミウム研究チーム チーム長	野菜
	武蔵 康	岩手県農業農村指導士	野菜
	稲本 勝彦	(独) 東北農業研究センター寒冷地野菜花き研究チーム 主任研究員	花き
畜産部会	及川 辰幸	(有) 及川フラググリーン 社長	花き
	日影 孝志	八幡平市花き研究開発センター 所長	花き
	萱野 裕是	小岩井農牧(株) 技術担当取締役	
	佐藤 剛	(独) 家畜改良センター岩手牧場 次長	
	須山 哲男	(独) 東北農業研究センター 研究管理監	
	高橋 雅典	全農岩手県本部畜産酪農部 次長	
	畠山 正宏	元岩手県青年農業士 ・ 肉牛農家	
総合部会	山影 典良	(社) 岩手県畜産協会経営支援部 部長	
	村澤 欣一	岩手県農業農村指導士	
	重石 桂司	(株) メルク代表取締役社長	
	河合成 直	岩手大学農学部農業生命科学科 教授	
	小池 俊吉	(独) 東北農業研究センター東北地域活性化研究チーム チーム長	
後藤 俊夫	(有) ライフクリエートK 代表取締役		
吉田 信一	富士大学大学院経済・経営システム研究科 教授		

内訳別	人数	部会別	人数	主な分野
A 学識経験者	14名	(1)農産部会	5名	水稲、畑作、生産工学など
B 農業者	9名	(2)園芸部会	12名	果樹、花き、野菜など
C 農業関係団体職員	4名	(3)畜産部会	7名	畜産全般
D 専門部会会長が特に必要と認めるもの	2名	(4)総合部会	5名	経営、生産環境など共通
合計	29名	合計	29名	

(2) 企画運営会議、全体会議の概要

開催月日	場 所	内 容（協議事項等）
19. 4. 6 (金)	特別会議室	(第 1 回企画運営会議) 1 協議事項 ・特になし 2 連絡事項 (1)平成 1 9 年度試験研究課題の最終調整結果について (2)「機関評価」の結果について (3)「農業研究センターの将来方向」の検討経過等について (4)4 月、5 月の行事予定及び年間スケジュールについて
19. 4. 11 (水)	大会議室	(全体会議) 1 議事等 (1)平成 1 9 年度農業研究センター研究・業務推進方針について (2)各部・各研究所の研究・業務推進方針について (3)その他・事務連絡
19. 4. 27 (金)	特別会議室	(第 2 回企画運営会議) 1 協議事項 (1)農林水産部長視察対応について (2)「情報発信」の改善について (3)「組織体制」の見直しについて 2 連絡事項 (1)「研究推進概要」等 PR 資料の共有について (2)研究目標の進行管理について (H18 実績報告) (3)交通事故等の防止について (4)試験研究等から生じた収入の取扱いについて (5)5 月、6 月の行事予定について
19. 5. 21 (月)	特別会議室	(第 3 回企画運営会議) 1 協議事項 (1)「組織体制」の見直しについて (2)「試験研究推進」に係る要綱・要領の改正について (3)農業研究センターホームページによる情報発信の改善について 2 連絡事項 (1)農業研究センター掲示板の「Ebient」への切り替えについて (2)「平成 1 8 年度研究成果」の概要 PR 資料の共有について (3)平成 1 9 年度岩手県農業試験研究推進会議について (4)6 月、7 月の行事予定について (5)平成 19 年度岩手県農業研究センター職員非常連絡訓練について (6)平成 19 年度東北地域マッチングフォーラムの開催について
19. 5. 29 (火)	特別会議室	(第 4 回（臨時）企画運営会議) 1 協議事項 (1)「組織体制」の見直しについて 2 連絡事項 (1)農業研究センター職員非常連絡訓練の結果について

開催月日	場 所	内 容 (協議事項等)
19. 6.25 (月)	特別会議室	(第 5 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 新たな組織体制構築に向けたセンター案について (2) 平成 19 年度第 1 回岩手県農業研究センター所長表彰の審査について 2 連絡事項 (1) 平成 20 年度新規研究課題設定に係る考え方等について (2) 全国場・所長会の復命について (3) 農林水産部重点推進施策進行管理表について (4) 東北農業研究発表会 (第 50 回記念大会) の開催について (5) 7 月、8 月の行事予定について
19.7.30 (月)	特別会議室	(第 6 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 農業試験研究機関連携について 2 連絡事項 (1) 試験研究会議の運営について (2) 「農業研究センター設立 10 周年の記録」(仮題) について (3) 平成 19 年度参観デーの開催について (4) 平成 19 年度現地ふれあい農業研究センターの実施概要について (5) 8 月、9 月の行事予定について (6) その他
19. 8.27 (月)	特別会議室	(第 7 回企画運営会議) 1 協議事項 ※特になし 2 連絡事項 (1) 北東北 3 県農業試験研究センター企画室長会議の復命について (2) 過年度試験研究成果の有効性の確認 (いわゆる「成果のたな卸し」) について (3) 9 月、10 月の行事予定について (4) その他
19.9. 25 (火)	特別会議室	(第 8 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 試験研究課題設計・管理要領の改正について 2 連絡事項 (1) 平成 19 年度農業研究センター等参観デーの実施状況について (2) 平成 19 年度第 2 回農業研究センター所長表彰について (3) 農林水産部重点推進施策の進行管理について (4) 10 月、11 月の行事予定について (5) その他
19.10. 9 (火)	特別会議室	(第 9 回 (臨時) 企画運営会議) 1 協議事項 (1) 県集中改革プログラムによる定数縮減計画への対応について 2 連絡事項 (1) 平成 20 年度予算編成について (2) 成果の提供について (気象災害関連成果) 成熟期冠水した土の付着の多い稲の籾摺り調製について (3) その他



開催月日	場 所	内 容 (協議事項等)
19.10.29 (月)	特別会議室	(第10回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成19年度第2回農業研究センター所長表彰について (2) 県農業技術開発推進要綱・要領の制定に伴う諸要領等の改正について (3) 新規課題(委託・競争型関連等)の提案について 2 連絡事項 (1) 平成19年度試験研究成果のとりまとめ日程等について (2) 農業農村指導士との懇談会開催について (3) 現地ふれあい農業研究センターの実施について (4) 第3回備品導入検討委員会の結果報告について (5) 過年度「研究成果」の有効性確認結果について (6) 11月、12月の行事予定について
19.11.26 (月)	特別会議室	(第11回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 県農業技術開発推進要綱・要領の制定に伴う諸要領等の改正について (2) 平成19年度予定成果について (3) 新規課題(委託・競争型関連等)の提案について(提案有る場合のみ) 2 連絡事項 (1) 平成20年度当初予算要求の概要について (2) 東北地域研究・普及連絡会議の概要について (3) 12月、1月の行事予定について
19.12.21 (金)	特別会議室	(第12回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 新規課題(委託・競争型関連等)の提案について(予定2課題) 2 連絡事項 (1) 平成20年度当初予算要求の概要について (2) 平成19年度第3回農業研究センター所長表彰について (3) 岩手県農業技術開発会議(12/26当日)の進め方について (4) 岩手県農業法人協会役員との意見交換会の開催について (5) 1月、2月の行事予定について
20.1.28 (金)	特別会議室	(第13回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 成果の提案について(タイムリーな成果) (2) 平成19年度第3回岩手県農業研究センター所長表彰の審査について (3) 新規課題(委託・競争型関連等)の提案について (4) 普及センターからの「要望課題」への対応について (5) 「追跡評価」の実施方法について(平成16年度普及区分) 2 連絡事項 (1) 平成20年度当初予算要求の内報について (2) 「農業研究センター設立10周年の記録」(仮題)について (3) 岩手県農業法人協会役員との意見交換会の開催について (4) 平成20年度依頼研究員派遣候補者の推薦について (5) 平成20年度本部参観デー開催等の骨子について (6) 2月、3月の行事予定について

開催月日	場 所	内 容 (協議事項等)
20. 2.18 (月)	特別会議室	(第 14 回 (臨時) 企画運営会議) 1 協議事項 (1) 組織再編について ア 研究室等の配置案について イ 研究課題の担当区分について ウ 予算配分の考え方について エ 研究関係施設・ほ場等の管理について オ その他
20. 2.25 (月)	特別会議室	(第 15 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 新規課題 (委託・競争型関連等) の提案について (2) 組織再編に係る研究課題の担当区分等について (3) 平成 20 年度業務推進方針の作成について 2 連絡事項 (1) 農業試験研究推進構想の目標値に対する進捗状況について (2) 内部検討会議 (試験設計) の事前承認案件等の確認について (3) 平成 19 年度農業研究センター年報の原稿作成について (4) 研究報告 (第 9 号) の投稿募集について (5) 組織改編に伴うファイル共有サーバの一時停止及び再設定について (6) 研究成果等に関する情報提供及び広報活動について (7) 外部評価委員について (8) 3 月、4 月の行事予定について
20. 3.19 (水)	特別会議室	(第 16 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 新規課題 (委託・競争型関連等) の提案について (2) 組織再編に係る研究課題の担当区分等について (3) 平成 20 年度業務推進方針 (素案) について 2 連絡事項 (1) 農業試験研究推進構想の目標値に対する進捗状況について (2) 試験研究課題の最終調整について (3) 平成 19 年度 2 月補正及び平成 20 年度当初予算について (4) 平成 20 年度農業研究センター全体会議の開催について (5) 4 月の行事予定について (6) 平成 19 年度農研セ (本部) における 5 S の取組結果について (7) 農業研究センター諸規程 (新組織体制に伴う改正状況)

### (3) 委員会等の運営

#### ア ほ場管理委員会

開催月日	活動事項	内 容
H19. 4. 5	水田作部会第1回	○圃場管理委員会水田作部会の年間活動計画について ○平成19年度の岩手県農業公社への作業委託内容について ○水路掃除について ○各研究室の4月及び5月の作業計画について ○圃場利用計画、水稻育苗ハウスの利用計画についてほか
H19. 4. 9	水田作部会 E地区水田等水路泥上げ、 圃場周辺のゴミ拾い	○E地区排水路、水稻育種研究室耐冷性検定圃場の泥上げ作業 ○E地区圃場周辺の環境美化、ゴミ拾い作業
H19. 4. 11	第1回畑作物部会	○平成19年度園芸および畑作物関係圃場利用計画の確認及び調整について ○その他園芸・畑作圃場の管理について ○圃場管理委員会において協議すべき事項について ・農機具庫の南側及び北側の下屋設置要望 ・早急に更新計画を策定し、備品要求をすみやかに計画的に進めるよう要望。
H19. 4. 13	水田作部会 E地区水稻育苗ハウス委託 管理人との打合せ	○農業公社育苗ハウス管理人と各研究室研究員との顔合わせ及び管理内容の確認 ○非常時連絡網の確認 ○自動灌水装置の動作確認 ○E地区2号井戸ポンプの復帰方法の確認
H19. 4. 27	第2回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 5. 7	第3回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 5. 24	第4回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 6. 29	第5回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 7. 27	水田作部会 圃場巡回説明会	○各研究室毎に試験内容について説明 ○研究員、日々雇用職員等約30名参加
H19. 7. 31	第6回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 8. 31	第7回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 9. 13	水田作部会第2回	○各圃場の刈り取り時期の見込みについて ○各研究室ごとの米の出荷数量見込みについて ○ハセの割り振りについて ○生ワラの回収について ○ミニライスセンターの運営について ○岩手県農業公社への作業委託について
H19. 9. 21	第8回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 10. 29	第9回畑作物部会	○当面する作業予定について（調整） ○その他園芸・畑作圃場の管理について
H19. 12. 20	水田作部会 E地区圃場野鼠剤散布	○E水田圃場を中心に、各区研究室から研究員及び日々雇用職員が出役し、野鼠剤の散布を行った。
H20. 3. 5	本部圃場管理委員会第1回	○H19年各部会活動状況について ○組織再編に伴う圃場管理体制について ・技能員の業務体制について ・日々雇用職員の雇用計画について ・生産物管理について
H20. 3. 19	本部圃場管理委員会第2回	○H20年業務体制について ・技能員の業務体制について ・日々雇用職員の雇用計画について ○圃場管理委員会設置要綱の見直しについて

イ 図書管理委員会

※平成 19 年度開催実績無し

ウ 研究報告等企画編集委員会

(ア) 委員会

※平成 19 年度開催実績無し

(イ) 幹事会

開催月日	場所	内 容
H19. 10. 1	(書面協議)	(1) 研究報告第 8 号審査員の推薦依頼について

エ 参観デー等企画運営委員会

(ア) 委員会

開催月日	場所	内 容
H19. 7. 30	特別会議室	【第 6 回企画運営会議】 平成 19 年度参観デーの開催について
H19. 9. 25	特別会議室	【第 8 回企画運営会議】 平成 19 年度農業研究センター等参観デーの実施状況について
H20. 1. 28	特別会議室	【第 1 3 回企画運営会議】 平成 20 年度本部参観デー開催等の骨子について

(イ) 幹事会等

(本部関係)

開催月日	場所	内 容
H19. 5. 25	特別会議室	【第 1 回】 (1) 平成 19 年度本部参観デー開催にあたっての情勢について (2) 平成 19 年度本部参観デー開催方針(案)について (3) 平成 19 年度本部等参観デーの実施体制(案)について
H19. 7. 2	特別会議室	【第 2 回】 (1) 平成 19 年度本部参観デーにおける開催イベントについて (2) その他
H19. 7. 27	特別会議室	【第 3 回】 (1) 平成 19 年度本部参観デーイベントの最終確認 (2) イベント、係ごとの人員等配置案、必要資材について (3) その他 (広報状況、実施体制の再確認)
H19. 10. 15	特別会議室	【第 4 回】 (1) 平成 19 年度本部等参観デーに係る反省事項及びその対応について (2) その他
H20. 3. 12	特別会議室	【第 5 回】 (1) 平成 20 年度本部等参観デーの開催に向けた方向性等の確認について (2) その他

(畜産研究所関係)

開催月日	場所	内 容
H19. 6. 13	セミナー室	平成 19 年度参観デー (1) 日程について (2) 開催期間中の人員について (3) 開催内容について
H19. 6. 21	セミナー室	(1) 実施体制・今後のスケジュールについて (2) 展示成果パネル内容について (3) 会場配置について
H19. 8. 9	セミナー室	(1) 平成 19 年度参観デーに係る最終確認について (2) パネルおよび配布資材の準備進捗状況について (3) その他
H19. 8. 20	セミナー室	(1) 実施体制確認 (2) 資材確認および会場配置確認

## (県北農業研究所関係)

開催月日	場所	内 容
H19. 4. 5	応接室	(1)平成19年度参観デー日程について (2)その他
H19. 6. 26	応接室	(1)平成19年度参観デー開催概要について (2)セミナー開催計画について
H19. 7. 20	応接室	(1)平成19年度参観デー開催計画について (2)開催内容・実行体制・今後のスケジュール(案)等について
H19. 7. 31	応接室	(1)開催内容・実行体制・今後のスケジュール等について (2)各班の準備進捗状況について
H19. 8. 3	応接室	(1)公開セミナー・ほ場公開の役割分担について (2)その他
H19. 8. 20	応接室	(1)「平成19年度参観デーに係る職員への説明会」の事前打ち合わせ (2)各班の準備進捗状況について (3)その他(併催行事の打合せ)
H19. 8. 21	中会議室	(1)平成19年度参観デーに係る職員への説明会 (2)質疑応答
H19. 8. 28	応接室	(1)平成19年度参観デーに係る最終確認について (2)その他
H19. 8. 31		参観デー当日

## オ 特許審査委員会

開催月日	場所	内 容
H19. 11. 12	特別会議室	1 勤務発明の審査について (1)水稻品種「岩手紫76号」「岩手酒79号」「岩手80号」「岩手香84号」「岩手巨胚87号」 (2)りんご品種「岩手7号」

## カ 岩手県農作物病害虫・雑草防除基準編集所内検討会議

開催月日	場所	内 容
H19. 10. 25 ～26	2階小会議室	1 平成20年度県防除指針への要望事項に対する回答について 2 平成20年度県防除指針の主な採用農薬・削除農薬について

## キ 備品導入検討委員会

開催月日	場所	内 容
H19. 6. 25	特別会議室	1 協議事項 (1) 研究用高額備品の調達に係る審議
H19. 7. 30	特別会議室	1 協議事項 (1) 研究用高額備品の調達に係る審議
H19. 10. 23	特別会議室	1 協議事項 (1) 研究用備品更新計画(案)の見直し検討について (2) 平成20年当初・施設整備費予算要求(案)について
H20. 1. 21	特別会議室	1 協議事項 (1) 高額備品の2月補正および当初予算執行残による購入に係る審議 2 報告事項 (1) 平成20年度更新を希望する研究用備品の予算要求に係る調整結果概要

## ク 環境管理委員会

開催月日	場所	内 容
H19. 7. 20	特別会議室	1 協議事項 (1) ISO14001規格改訂、事務の効率化等に伴う要綱等の改正について (2) 環境目的、目標等の見直しについて 2 報告事項 (1) 平成19年度環境マネジメントシステム年間スケジュール (2) 平成18年度第監視測定票測定票・環境目的達成状況について (3) 平成18年度職員提案について

#### (4) その他会議

##### ア 全国農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
H19. 6. 7 ～ 8	広島県	参加者：副所長 (1) 平成 19 年度全国農業関係試験研究場所長会通常総会 (2) 平成 19 年度研究功労者表彰式 (3) 平成 19 年度全国農業関係試験研究場所長会現地検討会

##### イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
H19. 9. 13 ～14	福島県	参加者：所長、企画情報室長 1 協議事項 (1) 平成 19 年度主要研究課題・成果について (2) 有機栽培・特別栽培等に関する試験研究の取組について (3) 次年度の開催県、研究功労者表彰候補者、会報執筆等について (4) 農業総合センター内「ふくしま型有機栽培実証ほ」調査 2 現地検討会 (1) 「二本松有機農業研究会の活動について」（二本松市） (2) 「総合的鳥獣害防止促進モデル事業の取組について」（福島市）

##### ウ 全国農業関係試験研究主務課長・場長会議

開催月日	場 所	内 容
H19. 5. 14	農林水産省 (東京都)	参加者：所長 1 主要情勢報告及び意見交換 (1) 農林水産技術会議事務局各課 ア 都道府県における人材育成プログラムについて イ 地域農業研究・普及推進について ウ 競争的研究資金等について エ 遺伝子組み換えに係る最新の情勢について (2) 省内関係部局 ア 新需要創造に関する事業について イ 東アジア食品産業活性化戦略について 2 その他

##### エ 全国畜産関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
H19. 6. 13	東京都	役員会 1 平成 19 年度通常総会の付議事項について 2 平成 20 年度畜産研究功労者ブロック別表彰予定数について 3 その他
H19. 6. 14	東京都	1 通常総会 (1) 平成 18 年度事業報告及び収支決算について (2) 平成 19 年度事業計画及び収支予算について (3) 平成 19 年度会費の額及び徴収方法について (4) 役員を選任に関する件 (5) その他 2 畜産研究功労賞表彰 3 研修会 「国際飼料穀物の需要動向と価格の役割」 講師：飼料輸出入協議会 専務理事 江藤隆司 氏

オ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議

開催月日	場 所	内 容
H19. 8. 20 ～21	青森市	1 開 会 2 挨 拶 3 議 題 (1)試験研究を要する重要問題について (2)国・独立行政法人に対する提案事項について (3)各道県試験研究機関における最近の動きについて (4)優秀畜産技術者表彰候補者の推薦について (5)畜産研究功労者表彰候補者の推薦について (6)次回開催地について (7)その他 4 現地視察 (1)青森県農林総合研究センター畜産試験場（野辺地町） (2)ディリーサポート北栄（東北町） (3)山口 政雄 氏 乳牛舎（東北町）

カ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議

開催月日	場 所	内 容
		平成19年度は未開催

キ 東北農業試験研究推進会議

開催月日	場 所	内 容
H19. 5. 18	盛岡市 (東北農業研究センター)	「評価企画会議幹事会」 1 今後の東北農業試験研究推進会議の運営等について 2 平成19年度東北地域農業関係試験研究機関及び研究調整・行政普及体制について 3 行政施策上で対応が必要な試験研究問題の取り組みについて 4 平成18年度試験研究推進会議報告（専門区分及び共通基盤区分） 5 平成19年度東北地域農林水産業研究成果発表会について 6 平成19年度における競争的資金の獲得状況と20年度に向けた取り組み 7 東北農業産地振興技術・短期プロジェクト「1.5年プロ」の対象課題の選定について 8 その他
H19. 7. 10 ～7. 11	福島県郡山市 (福島県磐梯熱海温泉)	「基盤技術推進部会・土壌肥料研究会（夏期）」 1 有機農業の推進に関する土壌肥料分野の技術開発の現状と課題
H19. 7. 11 ～7. 12	宮城県大崎市 (宮城県畜産試験場)	「畜産推進部会・畜産研究会（夏期）」 1 業際連携等で課題解決を図る試験研究の取り組み
H19. 7. 25 ～7. 26	宮城県松島町 (ホテル社観)	「野菜花き推進部会・野菜研究会（夏期）」 1 寒冷地における業務用野菜生産にかかわる研究と課題
H19. 8. 7 ～8. 8	福島県郡山市 (福島県農業総合センター)	「基盤技術推進部会・作業技術研究会（夏期）」 1 資源循環に向けた取り組みとバイオ燃料の今後
H19. 8. 23 ～8. 24	宮城県大崎市 (宮城県古川農業試験場)	「作物推進部会・畑作物研究会（夏期）」 1 大豆の雑草防除技術開発の現状と課題
H19. 8. 29	盛岡市 (東北農業研究センター)	「東北地域麦・なたね品種・系統検討会」 1 麦・なたねの有望品種・系統及び新配布系統の成績検討
H19. 9. 6 ～9. 7	青森県黒石市 (東北農業研究センター)	「東北地域水稲品種立毛検討会」 1 水稲育成系統等の試験実施状況の視察および立毛観察調査
H19. 9. 6 ～9. 7	山形県天童市他 (天童ホテル)	「基盤技術推進部会・病害虫研究会（夏期）」 1 環境保全型農業に向けた新しい防除資材・防除法についての現状
H19. 9. 21	福島県会津坂下町 (福島県農総会津地域研究所)	「作物推進部会・そば研究会（夏期）」 1 ソバ試験研究の取り組み状況および生産振興における課題と対応策
H19. 10. 17 ～10. 18	山形県金山町 (シェーンスハイム金山)	「野菜花き推進部会・花き研究会（夏期）」 1 東北地域における花きの新しい技術シーズ開発最前線

開催月日	場 所	内 容
H19. 9. 19	盛岡市 (東北農業研究センター)	「本会議」 1 平成 19 年度東北農業試験研究推進会議の運営について 2 平成 19 年度「現場段階での重要な技術的課題」の抽出と対応方策について 3 競争的資金獲得のための具体的な取り組みについて 4 東北農業産地振興技術・短期プロジェクト「1.5 年プロ」の対象課題の選定について 5 地域農業研究・普及連絡会議(仮称)について 6 重点検討事項「有機農業研究の現状と今後の展望」の検討 7 その他
H20. 1. 21 ～ 1. 22	盛岡市 (岩手労働福祉会館)	「果樹推進部会」 1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「リンゴわい化栽培における課題と研究推進方向」 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 4 次年度重点検討事項候補課題の選定 5 その他
H20. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市 (東北農業研究センター)	「野菜・花き推進部会」 1 重点検討事項「温暖化が東北の野菜花き園芸に及ぼす影響と高温回避対策」 2 1 年間の総括と情勢報告 3 研究成果情報候補課題の採択 4 試験研究の推進状況の点検 5 研究高度化事業等への提案状況について 6 その他
H20. 1. 30 ～ 1. 31	盛岡市 (サンセール盛岡)	「畜産推進部会」 1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「配合飼料の高騰に対応した代替資料の開発とその利用法」 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 4 次年度重点検討事項候補課題の選定 5 その他
H20. 1. 31	盛岡市 (東北農業研究センター)	「基盤技術推進部会」 1 平成 19 年度主要研究成果の選定 2 主要新規試験研究計画の検討 3 重点検討事項「有機農業における分野横断的研究課題」の検討 4 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 5 県が国・独立行政法人に解決を要望する課題及び共同研究を要望する課題 6 各県からの情勢報告 7 今後の会議運営 8 その他
H20. 2. 1	福島市 (コラッセふくしま)	「流通・加工推進部会」 1 情勢報告 2 平成 19 年度に得られた主要な試験研究成果 3 重点検討事項「有機農産物加工食品における課題と対応」 4 現場段階での重要な技術的課題、農研機構に解決を要望する課題、および共同研究を希望する課題について 5 その他
H20. 2. 4	盛岡市 (東北農業研究センター)	「作物部会本会議」 1 検討会・研究会報告 2 現場段階での重要な技術的課題の検討 3 重点検討事項「低コスト稲作の可能性」 4 次年度重点検討事項、共同研究課題の検討 5 作物部会の進め方、その他
H20. 2. 8	盛岡市 (東北農業研究センター)	「評価企画会議」 1 重点検討事項と課題の取りまとめ 2 主要研究成果の評価及び公表について 3 現場段階で重要な技術的課題への取組方針の検討 4 その他



ク 県内における開催学会

開催月日	場 所	学 会 名 ・ 内 容
H19. 8.27	県北農業研究所	雑穀研究会第21回シンポジウム



## II 試験研究の推進



## 1 研究活動の概要

県では、「岩手県農業・農村基本計画の目標達成に向けて平成 22 年度までの 5 年に重点的に取り組む施策」（平成 18 年 3 月）を踏まえ、地域の立地特性を生かしながら、意欲と能力のある担い手の確保・育成、安全・安心な農産物の安定的な生産・提供、活力ある農村社会の形成・農村の保全、環境に配慮した農業の振興を目指し、これらに貢献するため試験研究の指針として「岩手県農業試験研究推進構想の目標達成に向けた平成 22 年度までに取り組む研究の方向について」（平成 19 年 3 月策定。以下「後期推進構想」という。）を策定している。以来、岩手県農業研究センターでは、この後期推進構想に基づき、①担い手の育成や産地拡大、地域の活性化に寄与する分野の研究開発、②安全・安心な食を求める消費者の視点に立った生産技術の研究開発、③地域資源の活用や豊かな農村環境にかかる研究開発の 3 つの基本方向に即して、時代を先取りした試験研究を着実に進めてきた。

平成 19 年度は、現場ニーズに基づく課題等を選定し、内部・外部の評価を経て、新規 54 課題、継続 294 課題、合計 348 課題に取り組み、126 の成果をとりまとめた。

これらの試験研究の推進にあたっては、「試験研究評価制度」の円滑な運用や産学官との連携に努めるとともに、研究成果については、タイムリーな成果として公表（3 件）するなど、迅速な普及・定着化を図った。

## 2 トピックス

### (1) 農林水産部長表彰

職務に関し有益な研究を行い優秀な成果をあげ、著しい功労があった研究員が、高前田寿幸・農林水産部長より岩手県庁において表彰を受けた。

#### ア 平成 19 年度第 1 回・農林水産部長表彰（平成 19 年 10 月 1 日）

①被表彰者：企画経営情報部農業経営研究室 前山 薫 主任専門研究員

②表彰事績：「農業技術体系データベース・システム」の開発

前山主任専門研究員は、インターネット上で農業経営をシミュレーションできる「農業技術体系データベース・システム」を（独）中央農業総合研究センターと共同開発した。このようなシステムを開発し、インターネット上で無料公開するのは全国初の試みであり、4月16日に一般公開してからのアクセス件数は263,445件（8月31日現在）を数え、テレビ・新聞等マスコミにも多数とりあげられた他、その先駆的な研究内容により「東北農業経済学会奨励賞」を受賞したこと等が評価された。

#### イ 平成 19 年度第 2 回・農林水産部長表彰（平成 20 年 2 月 6 日）

①被表彰者：家畜工学研究室 細川泰子 上席専門研究員

②表彰事績：「血液検査指標を活用した正常卵率向上のための牛の飼料給与プログラム」の開発

このプログラムは、受精卵を生産する黒毛和牛の血液検査を行い、血中のコレステロール値などを指標に飼料の栄養バランスを調製するもので、正常卵率を向上させる効果がある。これにより良質な受精卵の安定生産が可能となり、生産コストの大幅な低減が期待される。牛の正常卵率向上のための技術を開発したのはこれが全国初であり、その先駆的な研究内容により「平成 18 年岩手県獣医畜産業績発表会」で知事賞を受賞したこと等が評価された。

### (2) 岩手県農業技術開発推進要綱・要領の制定及び農業研究センター内諸規定の見直し

#### ア 岩手県農業技術開発推進要綱・要領の制定

県では、農業関係試験研究機関の研究活動を核とした本県の農業技術開発を、総合的かつ効果的に推進するため、新たに岩手県農業技術開発推進要綱・要領を制定した。（平成 19 年 9 月 21 日付け農普第 385 号、農林水産部長通知）

これに伴い、従来の岩手県農業試験研究推進会議設置要綱・要領等は廃止された。

表. これまでの仕組みとの主な変更点

項目	これまでの仕組み (岩手県農業試験研究推進会議設置要綱・要領)	新たな農業技術開発システム (岩手県農業技術開発推進要綱・要領)
会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象：農業研究センター</li> <li>専門部会、試験研究会議の設置</li> <li>試験研究推進構想の策定、進行管理を所掌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象：農業研究センター、生物工学研究所（大学・独法等の専門研究機関）</li> <li>専門部会等は農業研究センター内で設置、運営</li> <li>農業技術開発基本構想の策定、進行管理を所掌</li> </ul>
長期構想	「試験研究推進構想」 農業研究センターで推進する試験研究の構想（10年）	「農業技術開発基本構想」 施策の推進に必要な農業技術の開発構想（10年） これを受けて、農業研究センターは試験研究推進計画、生物工学研究所はバイオ基本方針及び中期経営計画を策定
農業研究センターの課題及び成果の採択	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業研究センター所長が推進会議に提案し、決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業研究センター所長が決定し、技術開発会議に報告（要望への迅速な対応と課題化、成果の迅速な普及）</li> </ul>

イ 農業研究センター内諸規定の見直し

新たな要綱・要領の制定により、農業研究センター所長は試験研究課題の選定及び成果の採択が可能となったことを踏まえ、より顧客（成果の受け手）視点で、タイムリーな成果の提供を行うため、農業研究センター内諸規定を全面的に見直した。

(ア) 主な改正点

- a 試験研究推進計画、試験研究課題、細目課題等について、作成する者、進行管理する者などを明確化
- b 意志決定までのステップ数を削減
- c 内部及び外部評価の評価項目の見直し
- d タイムリーな成果を提供するためのルールを明確化
- e 競争型資金への応募等のルールを明確化

(イ) 諸規定の改廃

a 新たに制定した要領、細則

要領等名称	制定の趣旨
岩手県農業研究センター試験研究推進計画進行管理要領	岩手県農業技術開発推進要綱・要領の制定に伴い、課題の設定から成果の公表に係る会議・各部長等の役割等を定める。
岩手県農業研究センター試験研究推進計画進行管理細則	岩手県農業技術開発推進要綱・要領の制定に伴い、課題の設定から成果の公表に係る事務手続きの方法等を定める。

b 一部改正した要領

要領等名称	一部改正の趣旨
岩手県農業研究センター試験研究課題評価実施要領	岩手県農業研究センター試験研究推進計画進行管理要領・細則の制定に伴う所要の改正並びに効率的な評価を行うための所要の改正

c 廃止した要領、細則、事務取扱

要領等名称	廃止の趣旨
岩手県農業研究センター試験研究課題設計・管理要領	岩手県農業研究センター試験研究推進計画進行管理要領・細則の制定に伴う廃止
岩手県農業研究センター試験研究課題評価実施細則	
岩手県農業研究センター試験研究要望課題の措置手続きに係る事務取扱	

### 3 研究室の動き

#### (1) 企画経営情報部

##### 企画情報室

平成 19 年 3 月に策定した「岩手県農業試験研究推進構想の目標達成に向けて平成 22 年度までに取り組む研究方向について」に基づき、当センターにおける試験研究の企画・運営について、①顧客起点の試験研究の推進、②試験研究マネジメントの強化、③課題の重点化に対応した試験研究体制の構築 の 3 つの柱を重点事項として取り組んだ。

顧客起点の試験研究の推進については、顧客の視点に立ち、効果的・効率的な試験研究を推進するため研究員の活動を支援するとともに、成果の積極的な発信を行った。顧客である農業者からの意見等を把握するため農業農村指導士との意見交換（11 月）や、岩手県農業法人協会との意見交換（2 月）を開催したほか、直播き研究会などの各種研究会と連携により、顧客起点の試験研究を図った。広報関係では県民や農業者に開かれたセンターとして、広報誌を見直し「トライアングル」を廃止し、センターの研究活動の「現在（いま）」を分かり易く、タイムリーに発信するため「らぼ・れたあ」を発刊（年 39 回）や、報道機関等を通じた試験研究成果等の情報を提供した（10 回 29 社で新聞掲載）。また、県民に開かれたセンターとして「参観デー」（本部では、中央農業改良普及センター及び生物学研究所と共同開催。畜産研究所は「全国農業機械展示会」と併催）や現地ふれあい農業研究センター（一関農業改良普及センター管内で 2 回開催）、一日子ども研究員（8 月）を行ったほか、小中学校の体験学習受け入れ等に積極的に対応した。

岩手県行財政構造改革プログラム（平成 15 年 10 月）を踏まえ、平成 18 年度まで試験研究機関の地方独立行政法人化や試験研究の将来方向について検討され、平成 19 年 4 月に農林水産部関係試験研究機関の地方独立行政法人化へは当面移行しないことが決定されたが、独立行政法人化のメリット（迅速、柔軟な意志決定による効果的・効率的な推進、組織人事の自主的管理による柔軟で迅速な業務態勢など）を活かした試験研究推進を行うこととされた。県ではこれを受け、技術開発行政と研究開発の役割分担の仕組みを明確化するため、これまでの「岩手県農業試験研究推進会議設置要綱」を見直し、「岩手県農業技術開発推進要綱」（平成 19 年 9 月）を策定し、新たな技術開発推進システムを立ち上げた。これに伴い、当センターでは、試験研究マネジメントの強化として、新規課題採択と成果採択のプロセスの見直しやセンター内諸規程の整備を行い、顧客が求める時期にタイムリーに研究成果の採択公表（3 件）を行った。また、最近増加しつつある競争型資金の応募についても、柔軟に対応するための仕組み作りを併せて行った。また、研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員育成プログラム」（平成 19 年 3 月策定）に基づき、センター研究員研修計画を策定し、ゼミの開催（80 回）や依頼研究員等への派遣（96 人）や学会等への参加（177 人）を行い、研究員の資質向上を図った。

課題の重点化に対応した試験研究体制の構築については、センターが、顧客ニーズに応えるとともに、産業としての農業への貢献を果たすため、より一層、効果的・効率的な技術開発を推進できる組織体制への再編成に向け、4 月から検討を行い、県政課題解決に即応した重点課題の機動的対応を推進するための、専任のプロジェクト研究とこれを支援する基盤研究体制への見直しを行った。また、平成 20 年 4 月からの新組織（4 部 2 研究所、4 課、2 プロジェクト推進室、1 室、12 研究室）の移行に向け、研究課題の整理等を行った。

平成 19 年度でセンター設立 11 年目を迎えることから、これまでの研究成果や本県農業振興への貢献の状況などを取りまとめ、「岩手県農業研究センター設立 10 周年の記録」として平成 20 年 2 月に発刊した。

##### 農業経営研究室

生産性の高い農業経営構造の確立に向け、①本県主要農産物の競争ポジショニングの提示、②本県の農業構造の現状及び動向の提示、③主要経営類型の経営管理方策の提示、④営農計画作成支援情報の提供、⑤開発技術の経営的評価による効率的な研究推進を柱として業務に取り組んでいる。

本県主要農産物の競争ポジショニングの提示では、農産園芸課が策定した「りんごの生産・販売戦略」の参考に資するため次の報告書をタイムリーに作成し県庁関係課と出先機関に提示した。

「家計調査から見た野菜品目別需要動向（行政）」「果実の品目別需要・供給動向（行政）」「本県産りんごの競争ポジショニング分析と対応方向（行政）」「本県産おうとうの生産拡大の可能性（行政）」「契約取引の強化に向けた鹿児島経済連の生産販売戦略（行政）」

本県の農業構造の現状及び動向の提示では、農業関係統計及び主要経済統計の分析により、本県の社会経済条件は、北東北はもとより山陰や南九州地域とも類似していることと 1994～1999 年の農業産出額の減少度は米の特化係数が高い北陸・東北地域や担い手不足が深刻な中国・四国地域で大きく、畜産に特化している北海道や鹿児島県、園芸に特化している関東地域や愛知県で減少度が小さいことを報告書「農業産出額の地域的特徴と目指すべき姿（行政）」



として提示した。

主要経営類型の経営管理方策では、集落営農組織を指導する関係機関の情報の共有化と組織の経営の発展段階に応じた支援活動の効率化を図るため、組織毎の現状や指導経過等を一元的に管理できる「集落営農組織カルテ・データベース（行政）」を開発し県機関に提供した。

営農計画作成支援情報の提供では、総務省統計局がホームページ上で公表している「家計調査」データベースを活用して品目別に基本的な需要分析が迅速に出来る「家計調査品目別需要動向分析シート」を開発し提供した。

また、新たに開発された「イチゴ二期どり栽培」、「促成アスパラガス栽培」、「りんご特別栽培」、「小麦冬期播種栽培」、「大豆小畦立て栽培」を農業技術体系データベースに登録した。

開発技術の経営的評価では、イチゴ二期どり栽培は、高価格な夏秋期に収穫可能で、低温カット作型と比較して労働分散による規模拡大が可能で、30a 規模では他産業並の所得を確保することが可能であるが、新規参入時には無収入期間が長くなるので、十分な資金の確保と収穫を早める対策が必要であることを提示した。

農薬 50%削減リンゴの経営的評価では、りんご栽培農家へのアンケート調査により特別栽培の課題や今後の意向等を明らかにするとともに農薬 50%削減体系で行った場合、慣行と比較して 6,599 円/10a の掛かり増し経費が発生し、掛かり増し経費を販売単価で吸収するために必要な上乘販売単価は 10a 当たり出荷量が 1,750 kg の場合 42 円/10 kg DB であることを提示した。

## (2) 農産部

### 水田作研究室

水稻の奨励品種決定調査、直播栽培を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、水田機能を活かした飼料生産（ホークロップサイレージ用稲の栽培技術）、作況調査・作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究、水田雑草防除技術及び水稻原種・原々種の生産業務に取り組んだ。

平成 19 年は、初期生育は良かったものの中期の窒素濃度の低下により、やや穂数が少なかったことから作柄は平年並みの「99」であった。気象災害としては 7 月中旬及び下旬の低温により県北及び高標高地の一部で早生品種を中心とした障害不稔、9 月 6～8 日の台風 9 号による大雨・冠水被害と、収穫直前の 9 月 17～20 日の秋雨前線の影響による大雨・冠水被害があり、一関市遊水地を中心に冠水による水稻品質への影響について調査した。

奨励品種決定本調査では、「岩手 75 号」（晩生、穂いもち耐病性極強）、「岩手 83 号」（晩生、良食味、穂いもち耐病性極強）の 2 系統をやや有望と認め継続検討とするとともに、低アミロース系統「岩手 80 号」、紫黒米系統「岩手紫 76 号」については、特性を把握したことから試験を終了した。予備調査の結果、「岩手 85 号」（多収）、「岩手巨胚 87 号」（発芽玄米として有望な新規用途米）、「山形 102 号」（良質、良食味）、「岩手 86 号」（良食味、穂いもち圃場抵抗性遺伝子 *Pb1*）を有望と認め新たに本調査に供することとした。

高品質・良食味米の安定生産では、「どんぴしゃり」の多収性は幼穂形成期追肥による一穂初数の増加の効果が大きく、初数が増加しても登熟歩合及び千粒重の変動は小さいことを明らかにした。

雑草防除関係では、移植栽培における効果の高い水稻除草剤 5 剤（初・中期一発剤及び直播栽培用中期剤 1 剤）を県防除指針に採用した。また、新除草剤の効果試験（適 2 試験）では 23 剤を供試し 18 剤について実用性が高いと判断した（一部実用性あり、県北研も含む）。スルホニルウレア系除草剤抵抗性雑草の防除対策については、抵抗性イヌホタルイに有効な成分の殺草限界を明らかにした。

直播栽培については、主要品種の直播栽培での生育予測パラメータを求めると共に、栽培法（移植・直播）と品種の組み合わせにより品質を維持したまま収穫適期中拡大の可能性を提示した。

また、一層の直播栽培での生育・収量安定化を目指し、新落水管理技術（Ditch & Hill）試験を開始し、落水機構を改良した直播機のプロトタイプを作成すると共に、落水管理における土壌窒素動態について検討した。

ホークロップサイレージ用稲については、紫波町現地試験を中心に堆肥多投田での肥培管理技術、使用除草剤の制限が大きい条件下で雑草ヒエの混入程度とサイレージ品質について検討し許容範囲を明らかにした。

水稻原々種は 5 品種(48 系統)529kg、原種はうち 6 品種 26,340kg、もち 2 品種 3,340kg の種子を生産した。

### 水稻育種研究室

岩手紫 76 号（紫黒米）、岩手酒 79 号（低グルテリン酒米）、岩手 80 号（低アミロース米）、岩手香 84 号（香り米）、岩手巨胚 87 号（巨大胚芽米）の新形質米 5 品種について、国への品種登録申請を行った（品種名は未確定）。なお、これら 5 品種は、作付面積の要望が少ないので本年度は奨励品種に採用されていない。生産力検定予備試験は 43 組合せ 158 系統、生産力本試験では 37 組合せ 51 系統を供試し、各種特性検定試験の結果と合わせ、岩手 8

8号（早生の中、耐冷・穂いもち抵抗性「極強」：抵抗性遺伝子 *Pb1*、良食味）、岩手89号（中生の早、葉・穂いもち抵抗性「極強」：抵抗性遺伝子 *pi21*・*Pb1*、良食味）、岩手90号（晩生の中、耐冷性「強」、葉いもち「強」、穂いもち「極強」良食味）、岩手91号（早生の晩、低アミロース米、耐冷性「極強」、穂いもち「極強」）、岩手赤92号（早生の晩、うるち赤米、葉・穂いもち「強」）、岩手糯93号（早生の中、糯米、耐冷性「極強」、葉・穂いもち「強」）、以上主食用3系統、糯（新規需要）1系統、新形質米2系統、計6系統を有望と認め、地方番号を付し、平成20年度奨励品種決定調査のための新配布系統とした（行政）。

また、不良環境地帯向け品種の開発試験（軽米町県北研究所圃場）では、生産力検定本試験に10組合せ29系統、同予備試験に9組合せ35系統、単独系統には6組合せ228系統、個体選抜には7集団7800個体を供試した。

直播生産力検定試験では15組合せ26系統を供試した。また、新規需要及び新形質米の育成試験では、低アミロース3系統、酒米4系統、糯4系統、赤米3系統を供試した（上記生産力検定試験の内数）。

育種技術の効率化のための課題「分子マーカーを用いた水稻品種選抜技術の検討」では、いもち圃場抵抗性遺伝子 *Pi21* および *Pb1* の集積系統における抵抗性向上効果について、愛知県総農試と共同で再度試験を行い、DNAマーカー（以下マーカー）を用いてその効果を再確認した。また、いもち抵抗性遺伝子 *Pi35*、*Pi39* についてマーカーを用いた選抜を進めるとともに、耐冷性遺伝子 *Ctb1*、*Ctb2* についてもマーカー利用の検討を進めた。

生物工学研究所との共同研究では、耐冷性、いもち耐病性、低温発芽性などの水稻重要形質と連鎖したマーカー探索のための RILs（雑種後代自殖系統群）の特性調査と採種、また、EMS 突然変異体の耐冷性等の調査選抜を行った。さらに、Dunghan Shali 由来の低温発芽性遺伝子（D0 等）をいわてっこ、どんぴしゃりに導入するための戻し交配を実施した。

農林水産省指定試験地事業における「水稻耐冷性特性検定試験」を実施し、独立行政法人各農業関係試験場および国指定試験地で育成された耐冷性100系統について、障害型耐冷性の検定を実施した。

「高度耐冷性水稻品種・系統の育成」の課題では、耐冷性極強を超える新たなランクを策定するため、東北地域の各育成地間と共同で特性比較連絡試験を実施した（4年目）。

東北農業研究センター等の独立行政法人および宮城県古川農試等の国指定試験地（以上は国指定試験地事業）育成の早生～中晩生40系統について系統適応性検定試験を、また、それ以外の東北地域の各県で育成された中晩生21系統については寒冷地育成地間相互交換系統適応検定試験を実施し、本県への適応性について検討した。

さらに、直播適性品種開発に資するため、低温下における苗立ち性に関わる低温発芽性及び低温出芽性の基準品種を選定し、特性評価を行った（研究）。

## 応用生物工学研究室

組織培養を利用したオリジナル品目の増殖技術開発、DNA マーカー等の遺伝子情報を利用した育種を加速・支援する手法並びに病原診断手法の開発を中心に研究している。

リンドウ F<sub>1</sub> 品種の採種用親株の増殖に関しては、主要系統の増殖法を明らかにし、F<sub>1</sub> 品種の採種用親である 15 系統のエブリンドウにおいて、現在までに 14 系統の増殖技術に目処を付け、「花きリーディング産地支援事業」（旧事業名はりんどう生産拡大緊急対策事業）において、花き研究室が選抜した有望な親株を順次増殖している。事業と平行して、培養中の早期花芽形成などによる維持・増殖が困難な系統について、高位・安定して増殖できる好適培養条件の解明に取り組んでいる。

また、岩手県育成の花きオリジナル品種は、種子による維持・増殖が困難な品目が多く、採種や母株の維持に多大な労力とコストが掛かっている。そこで、近年急速に技術が進歩している液体窒素を利用した母株の省力・低コスト保存法を確立するため、本年からりんどう・スターチス・小ぎくの3品目を対象として研究に着手した。

遺伝子情報の利用においては、(財)岩手生物工学研究センターが開発したリンゴ根頭がんしゅ病菌の検出法を改善し、精度の高い手法として成果にまとめた（研究）。

一方、新しい遺伝子増幅法である LAMP 法を用いた研究では、3種類の病原体について検出プライマーを新たに作出し、そのうちキュウリホモブシス根腐病菌については、簡易検出系を開発し成果とした（研究、非公開）。

なお、外部資金（JST 事業）を導入して2課題に取り組み、病原体遺伝子の簡易増幅・検出器を試作するとともに、生育促進に効果のある新規物質について知見をとりまとめた。

リンドウこぶ症については、16年度から所内のプロジェクトチームに参加して研究を進めている。組織培養の手法を活用して摘出茎頂サイズに伴う症状の有無や、*in vitro* における接木による症状の伝染状況を長期観察している。

## 生産工学研究室

出芽苗立を向上させる水稲湛水直播機の開発に取り組んでおり、水田ほ場の落水管理が容易になる播種機を開発した。排水溝をつけながら播種する機械で苗立率が8～15%ほど高まったことから、次年度、現地試験を含めて本格的にとりくむ。

水稲移植栽培における軽労化と作業の省力化をねらいに、ロングマット水耕苗の育苗・移植技術の確立に取り組んでいる。平成19年度は大規模経営での導入を前提とした簡易な大量苗貯蔵法と、より一層の育苗施設低コスト化のため、育苗ベッド3回転利用技術の開発に取り組んだ。貯蔵中の苗腐敗等はみられなかったものの、本田移植時のストレスが強く、この点の改善が今後の課題である。

本年度から、大規模稲作農家の主要農作業データを収集し、実態にあったほ場作業量算定基礎を提示することを目的に8件の農家で春・秋の作業を中心に実態調査を始めた。

平成15年度から、水稲二段乾燥とその効果について調査をしてきたが、7時間程度の乾燥休止時間で連続乾燥より初水分の変動が小さく抑えることが可能であることを研究成果としてまとめた。

環境保全型農業への取り組みとして、水稲・雑穀（キビ・アワ）でタイン型除草機の利用試験を行った。雑草の多い水田ほ場では、機械除草だけの処理では草が残ることから、除草効果の高い耕種的方法を組み合わせる方法を更に検討する。雑穀では、タインの改良と利用方法、直進走行による除草方式などを検討した。

大規模農家で課題となっている農地法面の草刈りを省力化する方法として、グラウンドカバープランツの導入が各地域で検討されているが、寒冷地に適したイブキジャコウソウの苗増殖法と植生管理について成果としてとりまとめた。

農工研等で開発された「新たな暗渠排水地下かんがい工法（FOEAS）」の評価を平成18年度から行ってきたが、本年度は、ほ場を水田として利用する場合は任意の水位を簡便な操作で維持管理できること、転換畑として利用する場合は必要な時期に必要な水位で地下かんがいできることを明らかにし、作物の生育や気象条件に適した水管理が可能なることを成果としてとりまとめた。

土壌硬化剤マグホワイトの寒冷地での利用事例をとりまとめて成果とした。コストが高いことから実用的に利用するには困難がともなう。

本年度から、既設農業用コンクリート施設の供用年数を推定する手法を確立する研究を始めた。目視や超音波診断により既設水路の経過年数と劣化度の関係を推定するデータを収集した。

水路に生息する生物を保全するためにつくられた農業用水路について検討しているが、本年度は完成した構造物が設計や生物保全（メダカ）に対応しているかを検討した。

農業・農村整備事業を行う際に検討される現況の稲作技術体系を本年度見直し現実に近い体系をとりまとめて行政上の資料とした。

## (3) 園芸畑作部

### 果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種開発を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴの栽培技術では、省力・低コスト・高品質安定生産技術や安全・環境に配慮した生産技術の確立に取り組み、今年度は以下の研究成果を得た。まず、改正食品衛生法（ポジティブリスト制度）に対応し、農薬のドリフト防止や省力化を目指して実施した農林水産高度化事業「クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立」においては、受粉専用品種の選抜と既存樹への高接ぎ法による結実向上効果を取りまとめた。また、JM7台木による樹勢衰弱問題に関しては原因解明と対策技術の確立に取り組み、年輪異常の発生開始年前後の気象データの解析により、凍寒害による影響が大きい障害との推察を示唆するとともに、盛り土による発根促進効果・樹勢回復効果を明らかにした。さらに、「シナノゴールド」の収穫適期に関する研究を進め、外観や内部品質・満開起算後日数等による収穫適期判定法を確立したが、「黄香」の裂果に関しては原因解明と対策技術を確立するには至らなかった。その他、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターが開発した剪定枝粉碎機の性能・作業特性や、新しい性台木「青台3」の特性を明らかにした。なお、主要な研究課題として、地域農業確立総合研究「東北地域における農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の確立」に関する研究を継続して実施しており、樹形改善による効率の防除と散布量削減技術の検討や、長岡中央果樹生産組合において農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の現地実証試験に取り組むとともに、新たな課題としてJM7台木利用樹における低樹高仕立て法の確立およびりんごわい性台木樹の樹相診断技術の確立の試験を開始した。

リンゴの品種開発では、新たに岩手番号を付した4系統を加えて岩手系統8系統の現地適応性試験を進め、この中

から高い評価が得られた「岩手7号」を選抜して奨励品種に組み入れ、品種登録手続きを進めている。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培法の特徴を明らかにした。また、品種開発においては岩手2号、3号の調査を継続するとともに、新たに2系統（4号、5号）に岩手番号を付した。

## 野菜畑作研究室

### <畑作物>

新たな水田農業改革を巡る諸施策や市場動向の変化に伴い、水田農業の担い手による大規模生産が急速に進みつつある中、収量の安定確保が緊急の課題である。また、生産、実需、流通の各側面から、実需者ニーズに対応した品質と供給量の確保が強く求められている。これら緊急課題の解決をはかるため、センター内での精密試験と現地実証試験を併行してすすめるオン・ファーム・トライアル手法等を用いて研究を推進した。

#### (大豆)

優良品種選定・栽培法試験において、有望系統の現地での実証ほを県内3カ所に設置し、地域適応性を検討した。また、県内の豆腐、納豆業界と連携して加工試作検討を行った。この中で、納豆用として優れた加工適性を有する小粒大豆品種「すずほのか」（地方番号 東北146号）を有望とし、滝沢村に実証圃場を設けるとともに、その生産物について県内外の業者に委託し工場レベルの加工適性評価を行った結果、本県に適することを認め、県奨励品種として審査委員会に提案した。

水田大豆の収量低下の主な原因のひとつである湿害を防ぐため、初期の湿害を回避し生育を安定化させる「小畦立て播種栽培技術」を確立した。本年度は、チゼル爪を装着し排水性を高めた砕土・畦立て・小排水溝設置・施肥播種同時作業機を県内の水田農業経営体において実証し、その効果を確認するとともに、導入効果をシミュレーションした。また、小畦立て播種機導入のポイントについてマニュアル（暫定版）を作成するとともに、県内の生産団地や東北各県での普及導入に際して、地元農業改良普及センターや東北農政局等と協力して技術支援を行った。

その結果、各農業改良普及センターの指導の元、県内の大豆生産団地365haに本技術の導入がなされ、宮城県等隣県にも普及が進んだ。

#### (小麦)

日本作物学会技術賞を受賞した「冬期播種栽培による小麦の高品質・持続的安定生産技術」をさらに発展させ、秋播き並の多収と高い加工適性をめざして研究に取り組んだ。品種は「ナンブコムギ」に加え、製パン性に優れる「ゆきちから」や「春よ恋」を用いた。その結果、冬期播種における収量は、越冬後出芽密度が確保できる条件では多収となり、タンパク含量の向上や製パン適性の向上がはかられた。今後、越冬後の出芽を安定化する条件等について引き続き研究する。

「ゆきちから」については、担当課や関係機関と協力して「ゆきちから研究会」を開催し、新たな研究情報の提供と品種特性を活かした栽培、利用を呼びかけた。

小麦の湿害を回避する技術について、大豆小畦立て播種機との共用をはかりながら、小麦独自の機構を盛り込んで、砕土・小排水溝設置・施肥播種同時作業機を開発中である。この技術は、県内現地1カ所に実証圃を設け、秋まき小麦と冬期播種について、開発技術の普及性確保につとめながら研究をすすめている。

#### (豆類およびいも類)

白インゲン豆は、地方振興局や地元菓子業者からの研究要望を受け、本県に適する栽培技術の検討を進め、播種適期等を明らかにした。また、コンバイン収穫や乾燥調製について検討を行った。小豆およびばれいしょは、系統適応性検定試験を実施した。

#### (原種の供給)

需要が増加している小麦原種、大豆原種の供給と品位の向上につとめた。なお、研究センター内は小麦原種作付けの増加により、輪作体系を取りにくくなっており、連作に伴う縞萎縮病の蔓延も見られることから、農業大学の圃場を借り上げ供給量の確保に努めている。

### <野菜>

農業労働力の不足が深刻化する中で、消費地や地場のニーズに合った生産や、量販の拡大に対応する低コスト化や品質の維持が緊急の課題となっている。そこで、産地現場の課題に対し農業改良普及センターと連携しながら解決をめざし、きゅうり、トマト、イチゴ、アスパラガスの生産技術確立に取り組んだ。

きゅうりは、秋期の生産の安定化が収益性向上の課題である。特に、近年問題となっているキュウリホモブシス根腐病を主要因とする急性萎凋症について、緊急に解決が必要であることから、マルチ畦内消毒の効果をさらに安定化するため、「マルチ裾埋め込み」栽培法を考案し、病理昆虫研究室とともに栽培技術の開発を行った。この結果を含

め、委託先である（独）東北農業研究センターや共同各県とともに「キュウリホモプシス根腐病防除マニュアル」を作成するとともに、各種シンポジウムや指導会等を通じて技術のPRに努めた。

トマトは、水稲育苗ハウス等の遊休期間を活用できる不織布ポット栽培技術の確立をはかった。エコファーマの認証において培土を周辺圃場に求める必要があることから、県内の畑土壌と堆肥等有機物を用いて、培土の配合条件を検討した。その結果、微量要素欠乏に類似した症状を呈する条件があり、Mg施用で改善すること、条件によっては従来と同じ生産性が得られることを明らかにした。

また、夏期間の労力競合と秋期の収量低下を解決する方策として、抑制作型でのポット栽培の適応性を検討した。その結果、7段階着果で7t/10aの収量を得、適応性を確認した。あわせて、抑制作型においてトマトの葉かび病に抵抗性を有する系統の適応性を検討し、比較品種並の生産性や栽培特性を確認した。

生分解性プラスチックを用いたきゅうり栽培用誘引資材の検討を行い、ネットの実用性を確認している。誘引資材の処分法としては、堆肥化と焼却を検討し、堆肥化過程で温度確保すれば3ヶ月程度で実用的に支障のない程度に分解することがわかった。紙製誘引テープによる結束についても問題のないことを確認した。今後、分解過程の結果調査や結束装置の作業性の確認が必要である。

イチゴについては、独法委託研究として取り組んでいる「東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発」において、「秋春二期どり作型」の確立をはかった。現地実証の推進により夏秋期と春期の二期どり作型における技術目標に沿った栽培技術が明らかになった。本技術の普及において問題となる育苗労力の軽減について、株養成同時短日処理技術の検討を行い、「ランナー切断同時短日処理」ないし「親株採苗同時短日処理」の実用性を認めた。

促成アスパラガスは、現場の要望を受け、株養成期間の適期拡大と育苗管理の省力化をねらいとして、秋期定植・翌秋掘り取りによる14ヶ月間養成根株や2年養成根株における生産性や低温遭遇時間と商品重量の関係を検討した。その結果、根株養成年数ごとに、5℃以下の低温遭遇時間と伏せ込み商品重量との相関関係を明らかにした。この結果を利用して、特に11～12月の早出しをねらう産地での掘り取り時期の適切な指導や、適地の選定がより確実になるものと期待される。結果は、報道や各種指導会、学会発表において広く公表を行った。

## 花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型花きの生産を実現するため、重点品目であるりんどうのオリジナル品種の開発や整理生態的基礎研究を行うとともに、補完品目となる新商材の開発や長期継続出荷のための生産技術の開発に取り組んでいる。

りんどうの品種開発では、①平成16年に開発した「キュースト」よりも露地で1週間から10日程度早く開花し、安定した新盆出荷が可能な「極々早生6」を開発した。②現在、最も品種開発が急がれている晩生種については、圃場検定結果を受けて、2交配組み合わせで約20mlの種子を確保した。本来であれば品種としての実用性について、センター内でさらに数年の検討が必要であるが、育種を加速する必要がある大きい晩生種の事情から、これらの種子は新年度から現地園主の理解を得た上で現地検定試験を実施する予定である。③鉢物用品種では、本県では初めとなる立木性ピンクの有望な3系統を選定し、今後現地試作を行って実用性を判定する。

また、りんどう種子の安定供給による生産振興を図るため、引き続き「花きリーディング産地支援事業（旧事業名：りんどう生産拡大緊急対策事業）」により、原々種の安定採種、親株の大量増殖、新規親系統の育成等にも（社）岩手県農産物改良種苗センターと連携して取り組み、ほぼ計画数量を確保した。さらに、本年から開花予測や開花調節、品質向上技術開発などにつながるりんどうの生理生態に関する基礎的研究に着手した。本年は研究初年度であったが、生育ステージ毎の生育適温を特定するための有効な知見が得られ、これらのデータを用いて東北各県の研究員との検討を行い、今後の協同研究への足場を作った。

小ぎくでは、開発品種を用いて同一品種を1ヶ月程度継続出荷する技術について検討した。その結果、既存技術を組み合わせる簡便な方法により開花期を約1ヶ月遅延させることが可能であったが、品質面では問題が残された。

新商材の開発では、遊休農地や早い秋冷を利用した「ピバーナムオプラスノーボール」の低温遭遇量と切り花品質、水上げ剤と品質の関係等を検討して、切り枝促成技術を明らかにした。

また、りんどうこぶ症の研究では *in vitro* における接ぎ木により、こぶ症が発症したことを受けて露地の健全株に罹病株を接ぎ木して経過を調査した。その結果、接ぎ木によりこぶ症が伝染することを明らかにし、病原体の存在を示唆する結果を得た。

## 南部園芸研究室

南部園芸研究室では、県東南部および中南部沿岸地域の夏期冷涼・冬期温暖な気象条件を活かした施設野菜、花きの高度生産技術の開発に取り組んでいる。特に、沿岸振興は当研究室の重要テーマであり、特色ある園芸産地を形成するため、地域資源を活用した技術の開発及び実証に取り組んでいる。

野菜に関する試験では、いちご促成前進作型において、頂花房から第一次腋花房への連続出蕾を可能とすることにより年内収量を増加させるという、画期的な技術を研究成果としてとりまとめた。また、促成いちごでは、低コストな独自の閉鎖型給液技術を開発中であり、従来型高設栽培と同等以上の収量を得るなど、その基本的な技術を確立した。さらに、沿岸部での産地形成が期待されている四季成り性いちごについて、品種選定あるいは高品質生産技術の確立に向けて本格的な研究を開始した。この研究課題は、大船度や釜石、宮古地域の現地モデル実証事業と連携して進めており、現地でも10a当たり3ト弱の出荷実績を上げるなど、早くもその成果が表れている。

雨よけトマトでは、着果調整による秋期増収効果と盛夏期の作業軽減について研究成果をとりまとめ、現行の長段収穫作型を活かした技術として、今後、現地での実証が予定されている。高規格施設を利用した養液トマト周年栽培では、県内産バイオマス資源を用いた有機質培地の利用技術について知見が得られており、環境に優しい農業の推進に寄与できるものである。

一方、花きに関する試験では、スターチス・シヌアータが直根性植物であることに着目し、その固化培地育苗、直播きによる高品質・多収生産技術を研究成果としてとりまとめた。また、トルコギキョウの秋出し作型についても、育苗方法の改善による高品質生産を実現する新知見を得ており、最終的な技術の仕上げ段階に達している。新夢県土いわて戦略的研究推進事業により、共同研究に取り組んでいる低コスト杉樹皮培地の開発についても、キーとなる培地処理技術をほぼ固めることができ、培地の製品化が達成できる見込みとなっている。

## (4) 生産環境部

### 環境保全研究室

重点目標の持続的生産管理技術体系の確立に向け以下の課題に取り組んだ。

農業農村の環境保全機能維持と環境負荷軽減技術に関して、環境影響が懸念される硝酸性窒素の動態と減肥等の負荷軽減効果を明らかにし、現地の関係機関に情報提供した。また、過去に調査した水系で、主要ないもち病防除剤の濃度を再調査し、防除体系等の変化に伴う残留濃度の変動を明らかにした。さらに、(財)岩手生物工学研究センターと共同でシイタケ菌床栽培廃液を利用した土壌中残留農薬分解法を検討した。

食の安全・安心対策支援技術に関して、ほうれんそうのカドミウム吸収特性と吸収抑制技術や野菜の品目別・品種別カドミウム吸収特性を検討した。また、東北農業研究センターと共同でネギ、エダマメ及びダイズに対する石灰質資材根域施用によるカドミウム吸収抑制効果を検討した。さらに、農村環境とそこに住む生き物への理解を深めてもらうために、岩手県立大学及びAFR「里地里山生物多様性研究会」と共同で「里地里山の生き物データベースシステム(公開版)」を開発し(研究成果・指導)、また、「里地里山の生き物紹介」(学習用プレゼンテーション)(研究成果・指導)や生物調査の支援のための水田・水路の生き物調査の手引き(ver.1)を作成した(研究成果・指導)。野菜の特別栽培農産物生産支援技術の確立に向け、有機質資材がほうれんそうのケナガコナダニ類被害に及ぼす影響を明らかにした(研究成果・研究)。

### 土壌作物栄養研究室

食の安全・安心対策支援技術の開発と土壌の養分供給特性及び作物の養分吸収特性の把握による環境と調和した農産物生産技術の開発を中心に以下の課題に取り組んだ。

食の安全・安心対策支援技術の開発では、水稻及び野菜における特別栽培農産物等の生産技術の開発に取り組み、雨よけピーマン・トマトの減化学肥料栽培法を明らかにした(研究成果・指導)。また、前年に開発したフラットベッドスキャナを簡易比色計として応用した土壌分析に活用できる比色分析システムの分析項目の拡大に取り組み、pH、交換性塩基(カルシウム、マグネシウム、カリウム)、硝酸態窒素の分析法までを明らかにした(研究成果・研究)。その他、畜産研究所飼料生産研究室、県北農業研究所営農技術研究室と共同で、バイオガスプラント由来消化液の利用技術の確立に取り組み、水稻、畑作物、飼料作物への利用法について明らかにした(研究成果・指導)。

土壌の養分供給特性の把握による環境と調和した農産物生産技術の開発では、米の食味向上に向けた地力窒素診断技術の開発や土壌可給態窒素を有効に活用した飼料用イネの多収生産技術に取り組んだ。また、りんどうの効率的施肥技術の開発、コンテナ栽培の培地組成の解明に取り組み、りんどう株養成期間の施肥法(研究成果・研究)およびコンテナ栽培用の軽量の培地組成を明らかにした(研究成果・指導)。

## 保鮮流通技術研究室

保鮮流通技術研究室では、県産農産物の多面的品質評価技術の開発、青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立、地域特産品の加工技術の開発に取り組んでいる。

県産農産物の多面的品質評価については、「寒締めほうれんそうに含まれる成分と食味評価」（指導）、「示差屈折計を用いた寒締めほうれんそうの品質評価」（指導）及び「グリーンアスパラガスに含まれる糖やアミノ酸」（研究）の3課題を試験研究成果とした。さらに、グリーンアスパラガスについてはレタスとともにおいしさの評価とこれに影響する成分について検索した。また、きゅうりやトマトについて、栽培から収穫・出荷までの衛生管理に関わる項目の重点管理ポイントについて検討を行った。

青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術については、りんどうの花持ち性低下に関する基礎的な要因を探るとともに、輸出に対応する長期輸送条件について出荷前や輸送中の養分供給を主体に検討し、「切り花りんどうのエチレン生成とその感受性及び呼吸量」（研究）の1課題を試験研究成果とした。

地域特産品の加工技術については、本年度から雑穀加工の汎用化を目的としてひえ、きび及びあわについて各種粉体化やペースト化などの一次加工技術を検討し、二次加工品の試作も行った。

「農業ふれあい公園加工工房」における加工研修については、16件（人数 131人）に対応し、主に加工技術面で地域特産加工品の開発を支援するとともに、養護学校や農業大学の農産物加工研修も受入れた。また、岩手県ふるさと食品コンクール審査や地産地消レストランの認定審査など、農産物加工による起業活動等に積極的に対応した。

## (5) 病害虫部

### 病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術、生物的防除など環境にやさしい病害虫防除技術及び病害虫総合管理技術（IPM）の開発に取り組んだ。

水稲分野では、1)大規模圃場（1ha）における穂いもちに対するメトミノストロビン剤 250 グラムの省力散布技術を示した（研究成果・指導）。2)カスガマイシンに耐性を示すもみ枯細菌病菌が県内に広く分布することを確認し、耐性菌に対する防除対策を示した（研究成果・指導）。3)アカスジカスミカメ越冬世代幼虫の密度低減に効果的な畦畔草刈時期の目安を示した（研究成果・指導）。

畑作分野では、赤かび病抵抗性に応じた小麦赤かび病の防除適期を明らかにした（研究成果・普及）。

果樹分野では、1)りんごのすす斑病菌の果実感染量と気温との関係を検討するとともに8月上旬散布に効果的な薬剤を見出した（研究成果・研究）。2)りんごのナミハダニについて薬剤感受性を検定した結果、現在防除指針に採用している各種殺ダニ剤の感受性低下が認められることを明らかにした（研究成果・指導）。

野菜分野では、1)TPI法によるキュウリホモプシス根腐病の簡易診断を開発した。2)畑わさびのナトビハムシの発生生態を解明し、薬剤の効果的使用法を示した（研究成果・普及）。

花き分野では、花きに広域的に発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス（INSV）の伝搬経路を明らかにするため、発生実態調査と遺伝情報に基づく分子系統解析に普及センターと（財）岩手生物工学研究センターと共同で取り組んだ。その結果から、県内には複数ルートから INSV が持ち込まれ、生産者間の保毒苗・親株のやりとりや媒介虫を介して地域内に伝搬されたと推定した（研究成果・指導）。また、りんどうのカンザワハダニに対する薬剤の残効性を検討した結果、多くの薬剤は3週間の残効が期待できることを明らかにした（研究成果・指導）。

各作物の病害虫防除試験の結果に基づき、より効果的な防除が行えるよう平成20年度病害虫防除指針を改訂した（研究成果・普及）。さらに、登録農薬が極めて少ない地域特産農作物のブルーベリー、なばな、ホップ等について、登録取得に向けて薬効、薬害等試験を実施した。

ピーマンでタバココナジラミバイオタイプQ、ブルーベリーでバルデンシア葉枯病がそれぞれ新たに発生が確認された。

## (6) 畜産研究所

### 家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）や飼養管理向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛作出について、直接検定実施 15 頭の DG1.28kg であり、平成 19 年度現場後代検定現地交配予定牛 5 頭（選抜率 33%、平均 DG1.29kg）及び畜研枠 1 頭を選抜した。現場後代検定は、平成 15 年度交配種雄牛「幸光」、「兄川」、「波清」、「琴春」、「川雲」、「福宝」の最終検定成績を取りまとめ地域に産肉能力期待値を公表した。また、平成 16 年度交配種雄牛「哲山」、「人錦」、「良波」、「琴藤」、「辰郎」、「藤幸」の産子各 4 頭の所内肥育・枝肉成績を把握するとともに、現地検定成績 89 頭分を取りまとめた。平成 17 年度交配種雄牛「琴錦」、「波辰」、「堀辰」、「笹良」、「福藤」、「藤錦」の産子各 4 頭の肥育・枝肉成績把握を実施中である。平成 18 年度交配種雄牛「時姫」、「玉吉」、「川藤」、「松川」、「国灯」の産子各 4 頭の肥育を開始した。また、県有優良日本短角種種雄牛である「勝花」等の凍結精液を生産した。

日本短角種の全個体認証のためのデータベースを構築し、血統・枝肉情報等を用いて遺伝的能力の推定及び近交係数の算出を行い、これらの情報を盛り込んだエクセルファイル「短角牛 2007 IN IWATE」を地域に提供した。日本短角種を用いた肥育全期間トウモロコシサイレージ主体肥育について、普及センター等と協力しながら、岩泉町等の肥育農家を対象とした現地試験を実施し、一般出荷牛と同等の肥育成績を達成している。

黒毛和種における飼料自給率向上を図るために、平成 18 年度より肥育前期粗飼料多給技術に取り組み 1 期去勢牛 12 頭の肥育試験実施中であり、2 期 12 頭の試験も開始した。

養豚では、枝肉格付成績を確保しながらリサイクル飼料（そばくず・オカラサイレージ）を活用する方法について検討し生産性を維持しながら特徴ある豚肉生産が可能であることを示した。また、黒豚等純粋豚群での生産農場における集団維持手法の検討を現地農場と提携しながら取り組み、血統・交配方法等の情報提供を行うとともに、所内試験に供する種豚群（パークシャー種）の繁殖・産肉能力の性能調査を開始した。

養鶏では、「南部かしわ」の雛供給を行うとともに、南部かしわ研究会等を開催し普及推進を図った。南部かしわの飼養マニュアル作成の一環としてその発育モデルを作成するとともに、そばくず・オカラサイレージの給与効果を明らかにした。また、当研究所保有の鶏遺伝資源を活用し、肉用鶏生産企業との連携で東北初となる特定 J A S 規格認定地鶏肉である「三陸地鶏」を開発し、鶏肉の生産供給が開始された。

### 家畜飼養研究室

当研究室では、「岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画」を基本に、生産者ニーズに応えるため、家畜生理と調和した高能力牛の飼養管理技術の確立と低コスト省力管理システム、自然環境と調和したゆとりのある酪農経営を構築するための技術開発に取り組んでいる。

破碎処理したトウモロコシサイレージの収穫適期拡大と泌乳の多給試験においては、完熟中期トウモロコシの圃場収穫時の雌穂脱落性は黄熟中期に較べ有意に増加し、折損割合が 31.3%と高くなり問題のあることが明らかとされ、消化試験では破碎により黄熟後期トウモロコシサイレージの TDN が 1%向上することが推察された。また、給与試験では、乾物摂取量と乳量に差はなく購入飼料が約 30%節約できた。今後は、完熟前期の破碎処理トウモロコシサイレージの栄養価及び発酵品質の調査、完熟中期トウモロコシサイレージの消化試験を行う。

発酵 TMR 飼料の乳牛への給与試験では、TMR と比較し乾物摂取量に差がなく、慣れるまで採食量の低下する個体が観察されたが乳量や乳成分には差がなかった。消化試験では、各飼料成分とも消化率に差がなく、第一胃内総 VFA、アンモニア濃度とも同水準で推移した。このことから、発酵過程で減少すると考えられるデンプン源を追加後発酵させた TMR は、同等飼料成分 TMR と同等の飼料効果のあることが明らかであった。来年度は、添加剤を利用した発酵 TMR 飼料の品質安定技術と消化性について検討する。

栄養管理による泌乳牛の尿中窒素及びカリウム排泄量低減技術の給与試験では、飼料中 K 含量を 1.48% から 1.43% に低減させても乾物摂取量、乳量及び乳成分を維持することが可能であった。また、出納試験では飼料中 K 含量を 1.49% から 1.45% に低減することにより、尿量を 26%削減することが可能であり、糞尿混合物の堆肥化におけるオガクズ使用量を 12%節約できることが判った。来年度は、第一胃内における摂取 N 利用向上による尿中窒素排泄量の低減に取り組む。

乾乳期並びに初妊牛における環境性乳房炎の予防技術では、乳量 17.4 k g / 日以下の時点で乾乳した場合、乾乳期間中の新規細菌感染は少なく、乾乳期の短縮によりおよそ 300 k g の出荷乳量を期待できることが判明した。また、初産牛の乳房炎発生頻度は経産牛と同等であることが明らかであった。来年度は、分娩前の乳房炎原因菌感染予防法



の確立を目指す。

## 家畜工学研究室

本県の牛の改良と増殖を促進するために胚移植技術、核移植技術および遺伝子解析技術等のバイオテクノロジーに関する課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めている。胚移植技術では、昨年度の成果「血液検査指標値を活用した正常卵率向上のための牛の飼料給与プログラム」に引き続き給与飼料、特に高蛋白飼料給与が繁殖機能に及ぼす影響と重曹製剤の投与による子宮内 pH の改善効果について試験を実施し、①卵胞液中の尿素態窒素（BUN）は血液中 BUN と同等の値を示す。②高蛋白、低エネルギー飼料を給与した牛から経膈採卵により得られた卵子は、体外授精による分割率が有意に低い。③重曹製剤の投与により血糖値は低下し、子宮頸管粘液 pH は上昇する。等を示した。

胚の処理では低ランク胚の有効活用をはかるためガラス化保存法の検討を共同試験により取り組み、低ランク胚を 24 時間培養することにより低ランク胚の 76.2% が拡張胚盤胞へ成長し、この胚をクライオトップを用いた超急速ガラス化保存することで、78.6% が脱出胚盤胞となる事を示した。

開発した簡易胚移植器の普及をはかるため医療器具メーカーと連携し、平成 19 年 7 月製品化し市販された。

短期間に黒毛和種種雄候補牛の産肉能力の把握と低コストに造成する技術開発として、優良種畜胚の栄養膜細胞をドナー細胞とする体細胞クローン技術の基礎研究を実施したところ初期 G1 期体細胞と融合時間前に卵子の活性化処理を行うことで得られたクローン胚の発生率が向上することを明らかにするとともに、6 頭に移植を実施したが 102 日目までに全頭流産し、異常産の発生原因の解明は、本技術の最大の技術課題として提起された。

遺伝子解析では、種雄牛「菊安舞鶴」産子に発生する乳頭異常について、原因遺伝子特定のためマーカー解析、表現型発現頻度を把握するための調査、遺伝様式究明のため交雑試験および乳頭形成に係る発現タンパク質を把握して原因遺伝子を特定するマイクロアレイ法を用いた検索を実施した。その結果、本疾患は雌雄共に発生し、発生頻度は 12%、乳頭異常の表現型は多様性があるが、2 本欠損の頻度が最も高いことを明らかにした。この表現型タイプは第 17 番染色体の特定領域に有意な連鎖があり、この領域は 21 個のマーカーを用いてほぼ 100% 判定できることを明らかにしさらに、この主要原因遺伝子に連鎖する産肉能力に関する GTL(量的形質遺伝子座)は検出されなかった。

## 飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜ふん尿処理技術の開発試験に取り組んでいる。先ずは平成 19 年度の完了課題について要点を述べる。

1 「発酵 TMR 飼料の調製並びに乳牛への給与技術の確立」(H17~19) については、①細断型ロールベアラで調製した発酵 TMR の品質が安定するのは、調整後 7 日~10 日かかることが判明。②調製能力や資材費等について、現地事例をもとに経時的に調査した結果、ア) 1 バッグあたりの作成所要時間は、6 分 6 秒で、その重量が 600kg の場合、1 時間当たり約 5.7 t の調製が可能。イ) 梱包時の圧縮処理により、高い原物密度 (630kg/m<sup>3</sup>) で調製可能。ウ) 梱包密度が高いため、変敗等ロスが生じない。エ) 資材費はフレコン使用 492 円/梱包に比べ、230 円/梱包と安価だが、ビニールが破損しやすい欠点がある。などの成果が得られた。2 「汎用型飼料収穫機性能試験」(H18~19) の結果は、①汎用収穫機により収穫・調製したトウモロコシペールは、直径 100.7cm、幅 89.1cm、容積 0.709m<sup>3</sup>、重量 457.6kg。収穫ロスの発生は、2.01% (梱包ロス 1.63%、ラップロス 0.38%) と僅少。②作業能率試験結果は、30ha~50ha で約 42ha/h。また有効作業効率は、面積が広がるほど高くなることが判明。この他に 3 「バイオガスプラント由来消化液の飼料作物における利用効果」(H17~19) については、トウモロコシへの液肥としての効果がみられ、特に化学肥料区を上回る収量が得られた。また 4 「低コストで効率的な畜舎汚水処理技術の確立」(H18~19) については、①BOD 濃度は 100mg/l 以下で安定的に推移。②安定した脱窒効果。③リン濃度の低下は認められない。等確認された。

引き続き継続課題としては、1 「トウモロコシ系統適応性検定試験」(S55~H22) では、国・公立機関で育成された系統のうち畜産草地研究所育成系統 1 系統 (那交 892)、海道農業研究センター育成系統 2 系統 (北交 65、北交 67)、長野県中信農業試験場育成系統 2 系統 (長交 O981、長交 O988A) の 5 系統について、稈長、収量性、病害性等について、標準品種 (36B08、セリア、33J24、カネタ) と比較検討した。また 2 「トウモロコシ市販品種の特性比較」(S55~H22) については、極早生 1 品種、早生 7 品種、中性 7 品種、晩生 3 品種検定。その結果、稈長、TDN 収量性、病害性等から総合的に判断して、「LG3520 (ノデント 110)」及び中生種「34B39 (ハイア 115)」を推奨品種として提案した。次に 3 「破碎処理機によるトウモロコシサイレージの収穫・給与技術の技術の確立」(H18~22) の完熟期 II での収穫時の結果、ア) 雌穂の脱落は黄熟中期に比べて著しく、平均 22.6kgDM/10a であり、また折損割合も極めて高く、圃場収穫ロスは 207.2kgDM/10a と坪刈反収の 13.7%にあたるほど、憂慮される結果となった。

イ) バンカーサイロの原物密度は、平均 379.5kg/m<sup>3</sup>で良質なサイレージ発酵に適した条件ではなく、好気的変敗が起きていることが推察された。また4「不耕起栽培トウモロコシを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付け体系の確立」(H18～22)では、初期成育(播種後51日)は耕起栽培より不耕起栽培の方がよい傾向だが、乾物収量では、耕起>不耕起→耕起>不耕起の順であった。最後に5「水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立」(H18～22)では、ア) 登熟段階別(黄化率 40%、70%、100%)に収穫した稲の発酵品質は、乳酸菌を添加することにより、乳酸含量が増加し発酵品質は良好だった。イ) 乳酸菌を添加しない場合は、稲体の水分が低くなると発酵が進まず、PHも低下しなかった。ウ) 堆肥・施用量別の発酵品質は、前歴堆肥施用量 1t/10a と少なく、今年度の施肥も無かった区で含水率が低くなり、良好な品質が得られた。また、前歴堆肥施用量 2t/10a、窒素施肥量多用区で最も含水率が高くなり、発酵品質も劣った。との成果が得られた。今後多収生産と発酵品質との因果関係の解明が急がれる。最後に、今日バイオエタノール原料として穀物が燃料に振り向けられる一方、家畜の飼料やヒトの食糧不足が深刻化することが予測される。このような観点から我々の試験研究も、粗飼料の低コスト生産を意識し念頭におきながら現場に移転できる課題の究明にあたる。

## 外山畜産研究室

中山間地域の草地資源を最大限に活用した肉用牛生産基盤の拡大を推進するため、黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の開発に取り組んでいる。

公共牧場機能を活用した黒毛和種集団繁殖・育成技術体系の確立の自然哺乳飼養における①和牛子牛早期離乳技術の確立では、1日2回の制限哺乳により、人工乳の採食量が増加し、自然哺乳より良好に発育した。②黒毛和種育成期における TMR 給与技術の確立では、粗濃比でグラスサイレージ利用では 40:60、トウモロコシサイレージでは 50:50 まで給与可能となった。③黒毛和種自然哺乳における繁殖雌牛群の分娩間隔の短縮試験では、初回排卵日や発情回帰日において超早期離乳区がその他の区より早い結果となったが、60日離乳区と90日離乳区では有意な差は見られなかった。

日本短角種 DM 牛の特性解明と系統造成では、DM 牛のホモ 12 頭、ヘテロ牛 9 頭を生産した。繁殖特性として、生時体重は有意に大きいが、その後の発育は通常牛と同等であった。種雄牛産子の発育は通常 DG が去勢 0.877kg、雌 0.839kg と通常産子と同等の発育であった。肥育成績は体重で通常牛より上回る傾向にあった。

課題としては終了しているが、粗砕カキ殻の土壌改良資材として効果について、施用後4年目の効果について検討した。粗砕カキ殻では、炭カルの3倍区で同程度の pH の改良効果と牧草収量が期待でき、土壌中 Ca 供給も期待できる結果となった。

民間牛馬寄託放牧事業では、日本短角種 64 頭(子牛 11)、農用馬 18 頭(子馬 7)の預託を受け、日本短角種では放牧期間 150 日で、雄、雌子牛とも日増体量 1kg 以上の成績となった。

現在、県内の共同子牛哺育・育成等の共同利用施設(キャトルセンター)等に適用可能な黒毛和種の集団繁殖・育成技術体系に係る試験を中心に実施しているが、今後は、堆肥の有効利用や草地の簡易更新など県内公共牧場に適用可能な技術開発にも取り組むこととしている。

## 種山畜産研究室

黒毛和種改良事業(いわて和牛改良増殖対策事業)の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補10頭を選定するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子4頭計14頭の直接検定を実施し年度内に9頭が終了、残り5頭については平成20年6月までに終了する予定である。全頭終了後検定成績、血統、体型、期待育種価等総合的に検討し後代検定用種雄牛として5頭を選抜する。また、平成15年度の直接検定により選抜された「平北勝1」「北真鶴」「夏安福2」「森高茂」「若葉栄光」「岩輝57」の6種雄牛について現場後代検定を実施しうち、「平北勝1」「北真鶴」「夏安福2」について、下記の成績が得られた。

ア. 枝肉重量(kg)

北真鶴(446)>平北勝1(429)>夏安福2(416)

イ. ロース芯面積(cm<sup>2</sup>)

平北勝1(56)>北真鶴(54)>夏安福2(49)

ウ. 脂肪交雑(BMSNo.)

平北勝1(6.2)>北真鶴(6.0)>夏安福2(3.8)

残り3頭の種雄牛の成績をふまえ、平成20年8月開催予定の協議会において基幹種雄牛の選抜等を行う。

また、平成16年度の直接検定により選抜された「原茂勝」「飛良美継」「遮那王」「夏美谷」「第7勝幸」「美津清」の6頭の種雄牛については、現在、現場後代検定を実施中。

## (7) 県北農業研究所

### 営農技術研究室

県北地域の特色を生かした雑穀省力安定栽培技術、環境保全型農業技術の開発などの試験研究に取り組んだ。

雑穀省力安定栽培技術に関しては、除草作業の省力化・軽労化が求められており、キビ栽培における早期培土を基本とした機械除草体系を成果として取りまとめた（指導区分）。アワ・キビなどの機械収穫技術については前年に引き続き立毛条件等の異なる圃場における試験を行い、知見の集積を進めた。

また、アワノメイガの被害を考慮した適正播種量と作期について検討した結果、5月中旬～6月上旬にアール当たり40g条播することにより、間引きをせずにアワノメイガ加害による被害を軽減できることを成果として取りまとめた（指導区分）。

雑穀の特別栽培等高度化生産方式開発に関しては、生物農薬「BT水和剤」を用いたアワノメイガ防除について検討し、成果として取りまとめた（指導区分）。

雑穀の研究成果と研究状況については、やませ利用研究室とともに公開技術セミナーなどの機会をとおして顧客・ビジネスパートナーへ情報を提供し併せて意見交換を行ってきた。

環境保全型農業技術に関しては、バイオガスプラントから発生する消化液の利用法について関係研究室と検討し、当研究室では小麦・大豆への利用法を取りまとめ成果とした（指導区分）。

畜産由来有機物活用の分野では、発酵鶏ふん利用の大豆栽培について検討した結果、播種1ヶ月前にプラウ耕による深層施用を実施することにより被害が少なくなることを確認した。

また、高冷地レタスの腐敗性病害の耕種的防除法について、産地育成研究室（主査）と連携して成果とした（指導区分）。

### 産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、早期秋冷気象を活かした促成アスパラガスが奥中山地区を中心に栽培が増加していることから、貯蔵養分を十分に蓄えた根株養成のための栽培技術を確認するため、高収量が期待できる根株養成のための栽培諸条件を明らかにするための試験を行っている。また、県北地域の主要品目であるほうれそうについて、薬剤によらない萎凋病軽減技術の開発として輪作品目の検索に取り組んでいる。なお、近年問題となってきたハウレンソウケナゴコナダニの耕種的防除対策について、「ビニール被覆処理によるハウレンソウケナゴコナダニ類の被害軽減技術」として研究成果（指導区分）にまとめた。また、研究所重点課題である「高冷地レタスの高位安定生産技術の確立」については、腐敗性病害軽減のための耕種的防除対策に関して場内及び現地試験（一戸町奥中山）に重点的に取り組み、「レタス腐敗性病害の耕種的防除法」として研究成果（指導区分）にまとめ、地元奥中山高原レタス安定生産対策委員会と連携し、圃場カルテの作成や安定生産技術研修会を開催し、研究成果や技術情報の早期伝達を図っている。施肥委託試験として、硫酸カルシウム資材や有機質特殊肥料の肥効確認について取り組んでいる。

花きでは、小ぎくで県北地域の気象やエスレル処理により同一品種での長期継続出荷体系の確立に向けた試験や県オリジナル品種の県北地域における生育特性を把握し、生産拡大につなげる試験を行っている。りんどうでは、県オリジナル品種のうち極々早生品種を中心とした県北地域に対する適応性を試験するとともに、長期継続出荷のための早出し栽培技術の開発に関する試験に取り組んでいる。

### やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稻、普通畑作物（小麦、大豆）、雑穀の品種選定や栽培法に関する研究を実施している。

水稻では、早生地帯の作柄安定化、産米評価の向上をはかるため、耐冷性が強く、良質・良食味な品種の選定に引き続き取り組んでいる。奨励品種決定本調査では3品種を供試したが「いわてっこ」に勝る有望系統はなく、本年度で検討を中止した。予備調査では「ふ系217号」「ふ系219号」を有望～やや有望と認め、新たに本調査に供することとした。また、作況調査を実施し、関係機関並びに生産現場に定期的に情報提供を行うとともに、調査データに基づき作柄成立要因の解析を行い、当年の作柄の特徴、技術的な問題点等を研究成果として取りまとめ、普及に移した。雑草防除関係では、新除草剤の効果試験（適2試験）で6剤を供試し、各剤とも実用性が高いと判定した、

畑作物では、県北地域に適した小麦、大豆の品種選定に引き続き取り組み、麦類奨励品種決定調査では4系統を供試し「東北223号」（早生、多収）を有望と認めた。大豆奨励品種決定調査では1品種4系統を供試し「東北146号（すずほのか）」（中晩生、極小粒）を有望と認め、奨励品種に採用した。また、小麦、大豆の作況調査を実施し、関

係機関並びに生産現場に定期的に情報提供を行い、技術指導の資とした。

雑穀では、平成16年から重点課題「いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立」により、岩手在来系統の特性評価と品質優良系統の選定、オリジナル雑穀品種の開発、雑穀の高付加価値栽培技術の確立（無化学肥料栽培）に取り組んでいる。本年は畑栽培雑穀（ヒエ、アワ、キビ）の醗酵鶏ふんを利用した無化学肥料栽培が可能なことを明らかにし、普及に移した。また、オリジナル雑穀品種の開発では、ヒエの短稈・低アミロース3系統、糯1系統及びアワ草型改良1系統、短稈1系統を有望系統として選定した。

#### 4 平成19年度試験研究課題

##### (1) 細目課題分類

推進構想分野 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	S	V	W	Y	
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物バイオテック	家畜バイオテック	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農村整備	水田農業	やませ利用	保鮮流通	農産物加工	食の安全安心	
<b>企画経営情報部</b>	<b>6</b>			1					1						4								
農業経営研究室	6			1					1						4								
<b>農産部</b>	<b>75</b>	<b>46</b>				4			1	6			5	1		4	4		2			2	
水田作研究室	19	13							1				5										
水稲育種研究室	33	32																	1				
応用生物工学研究室	12					4				6				1					1				
生産工学研究室	11	1														4	4					2	
<b>園芸畑作物部</b>	<b>95</b>		<b>16</b>	<b>31</b>	<b>18</b>	<b>18</b>							8	3									
果樹研究室	34			31									2	1									
野菜畑作研究室	32		16		10								4	1					1				
花き研究室	15					14								1									
南部園芸研究室	14				8	4							2										
<b>生産環境部</b>	<b>62</b>	<b>1</b>			2	3			1			7	24	2			1				4	2	15
環境保全研究室	22											6	4	2			1						9
土壌作物栄養研究室	31	1			2	3			1			1	20										3
保鮮流通技術研究室	9																			4	2	3	
<b>病害虫部</b>	<b>21</b>	<b>1</b>		1											16								3
病理昆虫研究室	21	1		1											16								3
<b>畜産研究所</b>	<b>44</b>						8	21	9		4	2											
家畜育種研究室	9							9															
家畜飼養研究室	6						5		1														
家畜工学研究室	4										4												
飼料生産研究室	14						3	1	8				2										
外山畜産研究室	5							5															
種山畜産研究室	6							6															
<b>県北農業研究所</b>	<b>45</b>	<b>7</b>	<b>4</b>		3	3						2	8	5		1							2
営農技術研究室	15											2	4	2		1				4			2
産地育成研究室	14				3	3							4	3						1			
やませ利用研究室	16	7	4																	5			
<b>総 計</b>	<b>348</b>	<b>55</b>	<b>20</b>	<b>33</b>	<b>23</b>	<b>28</b>	<b>8</b>	<b>21</b>	<b>12</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>11</b>	<b>45</b>	<b>27</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>12</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>22</b>	

(2) 試験研究課題一覧

凡 例

- ・主査：小課題の主査研究室
- ・区分：継；継続課題、終；終了課題、新；新規課題、繰上；繰上終了、過；過年度終了、未；未着手
- ・構想：推進構想分野の重点目標
- ・No.：小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に（ ）表記
- ・課題：（課題番号）課題名〔研究期間/予算区分〕を記載、小課題は太字表示
  - ※ 課題番号：細目課題は1000番代表記、細目1～4まで各桁毎の表記
  - ※ 予算区分：国庫研究；国庫補助研究、国庫委託；国庫（独法）委託事業、民間委託；民間委託事業、令達；令達予算研究、県単研究；県単研究予算、県単採種；主要農作物採種管理費
- ・年数：課題の実施年数
- ・担当：小課題は主査研究室名、細目課題はそれぞれの担当研究室名（同一課題を複数研究室で実施している場合には、複数行による表記）
- ・連番：予算配分されている実施課題の連番。（※細目課題をもつ上位課題は実施課題にはならない）

(主査研究室>実施区分>主となる推進構想 順)

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
農業経営	継	H18(H-2) 牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	1	(H18-37) 新たなトウモロコシサイレージ生産・供給体系の経営経済評価〔H18～H22/独法委託〕	5	農業経営	1
		H18(N-3) 主要な経営類型の経営管理方策の提示	2	(H18-02) 地域水田農業における園芸作目の導入・定着に関する労務管理手法の導入〔H18～H19→H20/県単研究〕	3	農業経営	2
		H18(N-4) 営農計画作成支援情報の提供	3	(H16-02) 経営環境の変化に対応したネットワーク利用型農業経営設計システムの開発〔H16～H18→H20〕	5	農業経営	
			(H16-02-2000) (2) ネットワーク利用型農業経営設計システムの開発〔H16～H18→H20/県単研究〕	5	農業経営	3	
	終	H18(N-2) 本県の農業構造の現状及び動向の提示	4	(H18-01) 2005 年農林業センサスを活用した農業構造動向分析〔H18～H19/県単研究〕	2	農業経営	4
	H18(N-5) 開発技術の経営的評価による効率的な研究推進	5	(H15-37) (夏秋期生産を旨としたイチゴの) 超促成・越年株型経営モデル作成〔H15～H19/独法委託〕	5	農業経営	5	
水田作	継	H18(A-2) 多様な消費者ニーズ・生産基盤等に対応した商品性の高い、いわてオリジナル品種の開発	6	(803) 水稲奨励品種決定調査〔S29/H14～H22/県単採種〕	9	水田作、やませ利用	
				(803-1000) {post35} 予備調査〔S29/H14～H22/県単採種〕	9	水田作、やませ利用	
				(803-1100) {post35-1000} 中晩生系統〔H14～H22/県単採種〕	9	水田作	6
				(803-1200) {post35-2000} 早生系統〔H14～H22/県単採種〕	9	やませ利用	7
				(803-2000) {post36} 本調査〔S29/H14～H22/県単採種〕	9	水田作、やませ利用	
				(803-2100) {post36-1000} 中晩生系統〔H14～H22/県単採種〕	9	水田作	8
				(803-2200) {post36-2000} 早生系統〔H14～H22/県単採種〕	9	やませ利用	9
		(803-3000) {post37-3000} 現地調査〔H14～H22/県単採種〕	9	水田作	10		
	H18(A-3) 高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	7	(807) {post40} 水田雑草の効果的防除技術の開発〔S34/H14～H22/民間委託〕	9	水田作、やませ利用、生産工学		

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(807-1000) {post40-1000} 水稲作用除草剤第2次適用性試験[S34/H14~H22/民間委託]	9	水田作、やませ利用	
				(807-1100) {post40-1100} 県央・県南地域[S34/H14~H22/民間委託]	9	水田作	11
				(807-1200) 県北地域[H14~H22/民間委託]	9	やませ利用	12
			8	(805) 水稲作況調査と作柄成立要因の解析[S34/H14~H22/県単研究]	9	水田作、やませ利用	
				(805-1000) {post49} 水稲作況調査[S34/H14~H22/県単研究]	9	水田作、やませ利用	
				(805-1100) 県央・県南地域[H14~H22/県単研究]	9	水田作	13
				(805-1200) 県北地域[H14~H22/県単研究]	9	やませ利用	14
				(805-2000) {post50} 水稲優良品種の気象反応試験[S34/H14~H22/県単研究]	9	水田作、やませ利用	
				(805-2100) {post50-1000} 県央・県南地域[H14~H22/県単研究]	9	水田作	15
				(805-2200) {post50-2000} 県北地域[H14~H22/県単研究]	9	やませ利用	16
				(805-3000) {post49} 水稲作柄成立要因の解析[H14~H22/県単研究]	9	水田作	17
		H18(A-4) 水稲優良種子生産技術の確立	9	(61) 水稲原々種生産[S29~H22/県単採種]	57	水田作	18
			10	(62) 水稲原種生産[S29~H22/県単採種]	57	水田作	19
		H18(H-2) 牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	11	(H18-20) 水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立[H18~H22/独法委託]	5	水田作、土壌作物栄養、飼料生産	
				(H18-20-1000) (1) 堆肥を活用した飼料稲多収のための肥培管理技術の確立[H18~H22/独法委託]	5	土壌作物栄養	20
				〃	5	飼料生産	21
				(H18-20-2000) (2) 飼料稲収穫作業適期中拡大の方策の検討[H18~H22/独法委託]	5	飼料生産	22
				(H18-20-3000) (3) 飼料稲栽培における効率的雑草防除法の確立[H18~H22/独法委託]	5	水田作	23
	終 (繰上)	H18(A-3) 高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	12	(H16-06) SU系除草剤抵抗性雑草の発生生態と防除技術[H16~H20→H19/県単研究]	4	水田作	24
			13	(H18-03) 大規模稲作経営確立に向けた収穫作業適期中拡大のための技術確立[H18~H20→H19/県単研究]	2	水田作	25
	新	H18(A-3) 高品質・良食味米の省力・低コスト生産技術の確立	14	(H19-07) 水稲の高位安定生産技術の確立[H19~H21/県単研究]	3	水田作	26
			15	(H19-42) 水稲湛水直播栽培の収量品質安定化のための技術開発[H19~H21/令達]	3	水田作、生産工学、土壌作物栄養	

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H19-42-1000)Ditch&Hill 播種法の開発[H19～H21/令達]	3	生産工学	27
				(H19-42-2000)落水出芽における施肥法の確立[H19～H21/令達]	3	土壌作物栄養	28
				(H19-42-3000)直播栽培の生育指標の策定[H19～H21/令達]	3	水田作	29
水稻育種	継	H18(A-1) DNAマーカー等の導入・応用化によるオリジナル水稻品種の効率的選抜技術の開発	16	(5) 水稻新規需要等対応品種の育成[H01～H22/令達]	22	水稻育種	
				(5-1000) 水稻新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査[H01～H22/令達]	22	水稻育種	30
			17	(6) 水稻高度耐冷性集積系統の育成[H02～H22/令達]	21	水稻育種	31
			18	(7) 水稻高度耐病性集積系統の育成[H02～H22/令達]	21	水稻育種	32
			19	(737) 分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13～H22]	10	水稻育種	
				(737-2000) 水稻重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索[H16～H22/令達]	7	水稻育種	33
		H18(A-2) 多様な消費者ニーズ・生産基盤等に対応した商品性の高い、いわてオリジナル品種の開発	20	(31) 水稻糯品種・系統の育成[H02～H22/令達]	21	水稻育種	34
	21		(32) 低アミロース水稻品種・系統の育成[H02～H22/令達]	21	水稻育種	35	
	22		(27) 直播適応性水稻品種・系統の育成[H02/H03～H22]	20	水稻育種		
			(27-2000) 直播生産力検定試験[H03～H22/令達]	20	水稻育種	36	
	23		(30) 醸造用水稻品種・系統の加工適性試験[H08～H22/令達]	15	水稻育種	37	
	24		(H18-21) 水稻耐冷性特性検定試験[H18～H22/国庫委託]	5	水稻育種	38	
	25		(16) 水稻系統適応性検定試験[S39～H22/国庫委託]	47	水稻育種		
			(16-1000) 水稻系統適応性検定試験(国公立育成成分)[S39～H22/国庫委託]	47	水稻育種	39	
			(16-2000) 稲民間育成品種評価試験【※年度により試験の有無変動】[H13～H22/民間委託]	10	水稻育種	40	
	26		(20) 稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成[S48～H22/令達]	38	水稻育種		
			(20-1000) いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定[H01～H22/令達]	22	水稻育種	41	
	(20-2000) 葉いもち圃場抵抗性検定調査[S48～H22/令達]	38	水稻育種	42			
	(20-3000) 穂いもち圃場抵抗性検定調査[S62～H22/令達]	24	水稻育種	43			



主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
			27	(24) 育成地間相互交換水稻系統適応性検定試験[S52～H22/令達]	34	水稻育種、やませ利用	
				(24-1000) 中・晩生水稻系統[S52～H22/令達]	34	水稻育種	44
				(24-2000) 早生水稻系統[H09～H22/令達]	14	やませ利用	45
			28	(15) 水稻生産力検定試験[S58～H22/令達]	28	水稻育種、やませ利用	
				(15-1000) 生産力検定予備調査[S58～H22/令達]	28	水稻育種	46
				(15-2000) 生産力検定予備試験系統群[S58～H22/令達]	28	水稻育種	47
				(15-3000) 生産力検定本試験[S58～H22/令達]	28	水稻育種	48
				(15-3100) 早生品種[H09～H22/令達]	14	やませ利用	49
				(15-4000) 生産力検定本試験系統群[S58～H22/令達]	28	水稻育種	50
			29	(860) 採種[S58～H22/令達]	28	水稻育種	51
			30	(18) 水稻品種特性調査[S59～H22]	27	水稻育種	
				(18-2000) 水稻品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成[S59～H22/令達]	27	水稻育種	52
			31	(19) 水稻品種育成交配試験[S59～H22/令達]	27	水稻育種	
				(19-1000) 水稻交配試験[S59～H22/令達]	27	水稻育種	53
				(19-2000) 水稻初期世代養成試験[S59～H22/令達]	27	水稻育種	54
				(19-3000) 水稻世代促進試験[S59～H22/令達]	27	水稻育種	55
				(19-4000) 水稻個体選抜試験[S62～H22/令達]	24	水稻育種	56
				(19-5000) 水稻単独系統選抜試験[S58～H22/令達]	28	水稻育種	57
			32	(22) 高度耐冷性水稻品種・系統の育成[S59～H22/令達]	27	水稻育種	
				(22-1000) 高度耐冷性を有する系統の探索[H02～H22/令達]	21	水稻育種	58
				(22-2000) 障害型耐冷性検定調査[S59～H22/令達]	27	水稻育種	59
			33	(21) 極良食味水稻品種・系統の育成[S60～H22/令達]	26	水稻育種	
				(21-1000) 食味官能調査[S60～H22/令達]	26	水稻育種	60
				(21-2000) 食味成分調査[H02～H22/令達]	21	水稻育種	61
			34	(26) 難穂発芽性水稻品種・系統の育成[S62～H22/令達]	24	水稻育種	
				(26-1000) 穂発芽性検定調査[S62～H22/令達]	24	水稻育種	62
			35	(29) 醸造用水稻品種・系統の育成[S63～H22/令達]	23	水稻育種	63

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
応用生物学	継	H18(I-1) 遺伝子情報を利用した育種手法の開発	36	(H17-02) 新規のいもち病圃場抵抗性遺伝子の探索[H17～H21/県単研究]	5	応用生物学	64
		H18(I-2) 遺伝子情報を利用した病害診断手法の開発と実用化	37	(H17-05) 革新技術による病原検出診断手法の開発と実用化[H17～H21/県単研究]	5	応用生物学	65
	終	H18(I-2) 遺伝子情報を利用した病害診断手法の開発と実用化	38	(H17-04) リンゴ根頭がんしゅ病菌の簡易検出技術の実用化[H17～H19/県単研究]	3	応用生物学	66
	終 (繰上)	H18(I-3) 優良種苗等の維持・増殖及び組織培養による品種育成技術開発	39	(H04-03) 栄養系品種の維持・増殖 [H04～H20→H19/令達]	16	応用生物学	67
	終・ 新	H18(I-2) 遺伝子情報を利用した病害診断手法の開発と実用化	40	(H19-52) 【JST・可能性試験】現場での植物病原体検出・診断を目的とした遺伝子増幅・検出系の開発[H19～H19/独法委託]	1	応用生物学	68
			41	(H19-51) 【JST・シーズ発掘試験】新規植物成長調整剤の実用化研究[H19～H19/独法委託]	1	応用生物学	69
	新	H18(E-4) 花き原種苗の維持・増殖技術の確立	42	(H19-04) りんどう組織培養における増殖率の高位安定化技術の開発 [H19～H21→H22/ 県単研究]	4	応用生物学	
				(H19-04-1000) (1) 組織培養における花芽形成抑制と高増殖条件の解明 [H19～H21→H22/ 県単研究]	4	応用生物学	70
				(H19-04-3000) (3) A4 菌感染矮化りんどうの高増殖系統の選抜[H19～H19/県単研究]	1	応用生物学	71
			43	(H19-05) 岩手県オリジナル花き遺伝資源の超低温保存法の確立[H19～H22→H23/県単研究]	5	応用生物学	72
生産工学	継	H18(O-2) 革新技術導入による省力機械化技術の確立	44	(H17-06) 畑作物における効果的機械的株間除草方式の開発改良[H17～H20/県単研究]	4	生産工学	73
				〃	3	営農技術	74
			45	(H18-04) 大規模稲作経営のための水稲ロングマット水耕育苗・移植技術の確立[H18～H20/県単研究]	3	生産工学	75
	H18(P-3) 環境に調和した農村整備手法の確立	46	(H17-07) 農業農村整備事業における水路に生息する生物の保全手法と評価[H17～H21/令達]	5	生産工学、環境保全		
			(H17-07-1000) (1) 水路と水田に生息するメダカの保全手法の確立[H17～H21/令達]	5	生産工学	76	
			(H17-07-3000) (3) 環境との調和に配慮した水路の水生生物保全効果の検証[H17～H21/県単研究]	5	環境保全	77	
	終 (繰上)	H18(P-2) 高生産性ほ場の効率的な管理技術の確立	47	(H17-08) 土壌硬化剤「マグホホワイト」の寒冷地における利用技術の開発[H17～H20→H19/県単研究]	3	生産工学	78
			48	(H18-06) 田畑輪換のための新たな暗渠排水・地下かんがい等工法の評価[H18～H20→H19/県単研究]	2	生産工学	79

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
	新		49	(H19-02) 既設農業用コンクリート施設の供用年数の推定手法の確立 [H19～H21/令達]	3	生産工学	80
		H18(0-1) 省力化・軽労化・安全化のための作業技術の確立	50	(H18-05) 大規模稲作経営における主要農業機械作業の評価 [H119～H21/県単研究]	3	生産工学	
果樹	継	H18(C-1) 国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	51	(851) {post129} 果樹の生育と果実品質変動要因の解明 [H09/H14～H22/県単研究]	9	果樹	
				(851-1000) {post129-1000} りんごの生育・生態の把握 [H09/H14～H22/県単研究]	9	果樹	83
				(851-2000) {post129-2000} ぶどうの生育・生態の把握 [H09/H14～H22/県単研究]	9	果樹	84
				(851-3000) {post129-3000} 西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握 [H09/H14～H22/県単研究]	9	果樹	85
			52	(850) 畑作物に対する植調剤等の利用法 [H14～H22/民間委託]	9	果樹、野菜畑作、花き、飼料生産、産地育成、やませ利用、南部園芸	
				(850-1000) 果樹園用除草剤の効果的使用法 [H14～H22/民間委託]	9	果樹	
				(850-1100) 民間委託試験分 [H14～H22/民間委託]	9	果樹	86
				(850-1200) 令達試験分 [H14～H22/令達]	9	果樹	87
				(850-2000) 果樹の植調剤及び資材の効果的使用法 [H14～H22/民間委託]	9	果樹	88
				(850-3000) 野菜の除草剤実用化試験 [H15～H22/民間委託]	8	野菜畑作	89
				(850-4000) 花きの除草剤実用化試験 [H16～H22/民間委託]	7	花き	
				(850-4100) りんどう除草剤実用化試験 [H16～H17→H20/民間委託]	5	花き	90
				(850-5000) 【畜産研究所担当分】 [H16～H22/民間委託]	7	飼料生産	
				(850-5100) 【飼料生産研究室担当分】 [H16～H22/民間委託]	7	飼料生産	
				(850-5110) 除草剤試験 [H16～H22/民間委託]	7	飼料生産	91
				(850-6000) 【県北農業研究所担当分】 [H16～H22/民間委託]	7	産地育成	
	(850-6100) 【産地育成研究室担当分】 [H16～H22/民間委託]	7	産地育成				
	(850-6110) 植調剤試験 [H16～H22/民間委託]	7	産地育成	92			

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(850-6200)【やませ利用研究室担当分】[H19～H22/民間委託]	4	やませ利用	
				(850-6210) 植調剤試験 [H19～H22/民間委託]	4	やませ利用	93
				(850-7000) 小麦の除草剤実用化試験 [H18～H19→H22/民間委託]	5	野菜畑作	94
				(850-8000) 南部園芸研究室分 [H18～H22/民間委託]	5	南部園芸	
				(850-8100) 除草剤試験 [H18～H22/民間委託]	5	南部園芸	95
			53	(894) 良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出 [H14～H22/令達]	9	果樹	96
			54	(H15-38) 新品種などの安定生産技術の確立 [H15～H22/県単研究]	8	果樹	
				(H15-38-1000) 「岩手6号」の安定生産技術の確立 [H15～H22/県単研究]	8	果樹	97
				(H15-38-2000) 「シナノゴールド」の安定生産技術の確立 [H17～H22/県単研究]	6	果樹	98
			55	(H17-09) りんごの樹形改善による薬剤散布低減技術の開発 [H17～H21/県単研究]	5	果樹、農業経営	
				(H17-09-1000) (1) 薬剤到達性の高い樹形への改善 [H17～H21/県単研究]	5	果樹	99
				(H17-09-2000) (2) 薬剤散布量低減技術の開発と病害虫防除効果の実証 [H17～H21/独法委託]	5	果樹	100
				(H17-09-3000) (3) 農薬低減技術の現地実証 [H17～H21/独法委託]	5	果樹	101
				(H17-09-4000) 農薬 50%削減りんご栽培技術体系の経営評価 [H18～H21/独法委託]	4	農業経営	102
				(H17-09-6000) スピードスプレーヤ用ドリフト低減ノズルのドリフト低減効果試験 [H18～H20/独法委託]	3	果樹	103
		H18(C-3) りんごオリジナル品種等の開発	56	(830) ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発 [H14～H22/国庫委託]	9	果樹	
				(830-1000) 国育成系統適応性(盛岡 58～65号) [H14～H22/国庫委託]	9	果樹	104
				(830-2000) 国内外導入品種の選抜 [H14～H22/令達]	9	果樹	105
				(830-3000) いわて特産中晩生種の交配育成 [H14～H22/令達]	9	果樹	106
		H18(C-2) 安全・環境に配慮した果樹生産技術の確立	57	(H16-09) クラブアップル等りんご受粉専用品種の選抜と利用法の確立 [H16～H22/県単研究]	7	果樹	
				(H16-09-1000) (1) 受粉専用品種の選抜 [H16～H22/県単研究]	7	果樹	107
				(H16-09-2000) (2) 受粉専用品種の効率的な園地導入技術の開発 [H16～H20/独法委託]	5	果樹	108

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
			58	(H16-10) 果樹園におけるリング剪定枝等利用技術の確立[H16～H22/県単研究]	7	果樹	
				(H16-10-1000) (1) 果樹園における剪定枝等チップのマルチ利用技術の確立[H16～H22/県単研究]	7	果樹	109
				(H16-10-2000) (2) ブルーベリー植栽における剪定枝チップ利用土壌改良技術の確立[H16～H22/県単研究]	7	果樹	110
				(H16-10-3000) (3) せん定枝粉碎搬出機の開発・利用に関する調査[H16～H19/独法委託]	4	果樹	111
		H18(C-4) ぶどうおよび西洋なし等特産果樹品種の選抜と省力栽培技術の確立	59	(829) {post134} キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H01/H14～H22]	9	果樹	
				(829-1000) {post134-1000} 寒冷地向きぶどうの系統適応性試験[H04/H14～H22]	9	果樹	
				(829-1300) 第 11 回系統適応性検定試験[H16～H22/国庫委託]	7	果樹	112
				(829-2000) {post134-2000} 国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)[H01/H14～H22/令達]	9	果樹	113
				(829-3000) {post134-3000} 耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H01/H14～H22/令達]	9	果樹	114
			60	(837) {post135} ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発[H01/H14～H22/令達]	9	果樹	
				(837-1000) {post135-1000} 国内外導入品種の選抜[H01/H14～H22/令達]	9	果樹	115
			61	(826) {post136} おうとう、もも等の優良品種の選抜[H01/H14～H22/令達]	9	果樹	
				(826-1000) {post136-1000} おうとう、もも等の優良品種の選抜[H14～H22/令達]	9	果樹	116
	終 (繰上)	H18(C-1) 国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	62	(709) ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討[H13～H22→H19/県単研究]	7	果樹	117
			63	(839) りんご新しい性台木の特性解明(旧題:りんご新しい性台木「青台3」の特性解明)[H14～H22→H19/県単研究]	6	果樹	
				(839-1000) 「青台3」の特性解明[H14～H22→H19/県単研究]	6	果樹	118
				(839-2000) JM7 利用樹における樹勢衰弱の原因解明と対策技術の確立[H17～H19/県単研究]	3	果樹	119
	新	H18(C-1) 国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	64	(H19-10) りんごわい性台木樹の樹相診断技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	果樹	120
			65	(H19-11) JM 台木利用りんごわい性台木樹の高品質生産に適した低樹高仕立て法の確立[H19～H22/県単研究]	4	果樹	121

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
野菜畑作	継	H18(B-1) 需要に即する安定多収・高加工適性畑作物品種・系統の選抜	66	(877) 大豆立枯性病害抵抗性検定試験 [H14～H22/国庫委託]	9	野菜畑作	122
			67	(889) {post85} 麦類耐寒雪性特性検定試験 [S29/H14～H22/国庫委託]	9	野菜畑作	123
			68	(819) {post89} あずき系統適応性検定試験 [S40/H14～H22/国庫委託]	9	野菜畑作	124
			69	(835) {post88} ばれいしょ系統適応性検定試験 [S47/H14～H22/国庫委託]	9	野菜畑作	125
	継	H18(B-2) 畑作物の省力・安定多収による低コスト生産技術の確立	70	(890) {post100} 畑作物の生育相及び気象反応の解明 [S49/H14～H22/県単研究]	9	野菜畑作、やませ利用	
				(890-2000) {post100-1000} 大豆の生育相と気象反応の解明 [S49/H14～H22/県単研究]	9	野菜畑作、やませ利用	
				(890-2100) {post100-1100} 県央・県南地域 [H14～H22/県単研究]	9	野菜畑作	126
				(890-2200) {post100-1200} 県北地域 [H14～H22/県単研究]	9	やませ利用	127
				(890-1000) {post100-2000} 麦類の生育相と気象反応の解明 [S49/H14～H22/県単研究]	9	野菜畑作、やませ利用	
				(890-1100) {post100-2100} 県央・県南地域 [H14～H22/県単研究]	9	野菜畑作	128
				(890-1200) {post100-2200} 県北地域 [H14～H22/県単研究]	9	やませ利用	129
	継	H18(B-3) 畑作物原々種の安定供給	71	(891) {post105} 畑作物原々種・原種生産 [S29/H14～H22/県単採種]	9	野菜畑作	130
			72	(174) えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖 [H08～H22/令達]	15	野菜畑作	131
	終	H18(D-2) 多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	73	(H15-40) 東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発 [H15～H19/独法委託]	5	野菜畑作	
				(H15-40-1000) 短日処理による10～11月どり超促成栽培技術の開発 [H15～H19/独法委託]	5	野菜畑作	132
			(H15-40-3000) 夏秋どり技術の体系化現地実証 [H15～H19/独法委託]	5	野菜畑作	133	
74			(H17-40) 早期秋冷気象を活かしたアスパラガス促成栽培技術の確立 [H17～H19/独法委託]	3	野菜畑作、産地育成		
			(H17-40-1000) 休眠特性の解明と年内初冬どり作型の開発 [H17～H19/独法委託]	3	野菜畑作	134	
			(H17-40-2000) 初冬どり作型のための根株養成技術の開発 (旧題: 株養成技術の開発) [H17～H19/独法委託]	3	産地育成	135	
			(H17-40-3000) 促成アスパラガスの施肥水準の解明 [H19～H19/令達]	1	野菜畑作	136	
			(H17-40-4000) 促成アスパラガス根株の掘り上げ据え置きによる低温遭遇効果の解明 [H19～H19/令達]	1	産地育成	137	

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番	
			75	(H18-36) 寒冷地における冬～春野菜生産を可能にする新品種・作型の開発 晩抽台性ハクサイ系統選抜および現地適応性試験[H18～H19/令達]	2	野菜畑作	138	
		H18(D-3) 環境に調和した安全な野菜生産技術の確立	76	(H17-11) ポリ乳酸系生分解性プラスチックを利用した野菜生産技術の開発と利用技術[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作、土壌作物栄養		
				(H17-11-1000) (1) 生分解性資材の栽培適応性[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	139	
				(H17-11-2000) (2) 生分解性資材の効率的分解手法の解明[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	140	
				〃	3	土壌作物栄養	141	
		H18(Q-1) 水田における安定生産技術の確立	77	(H17-10) 水田における小麦・大豆の湿害回避技術の確立実証[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作		
				(H17-10-1000) (1) 水田小麦・大豆の小畦立栽培技術[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	142	
	新	H18(B-1) 需要に即する安定多収・高加工適性畑作物品種・系統の選抜	78	(H19-13) {post888} 麦類奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査[S29/H19～H22/県単採種]	4	野菜畑作、やませ利用		
				(H19-13-1000) {post888-1000} (1) 奨励品種決定調査(県南・県央地域) [H19～H22/県単採種]	4	野菜畑作	143	
				(H19-13-2000) {post888-2000} (2) 奨励品種決定調査(県北地域) [H19～H22/県単採種]	4	やませ利用	144	
				(H19-13-3000) (3) 有望系統特性調査[H19～H22/令達]	4	野菜畑作	145	
				79	(H19-12) {post875} 大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査[S29/H19～H22/県単採種]	4	野菜畑作、やませ利用	
				(H19-12-1000) {post875-2000} (1) 奨励品種決定調査(県南・県央地域) [S29/H19～H22/県単採種]	4	野菜畑作	146	
				(H19-12-2000) {post875-3000} (2) 奨励品種決定調査(県北地域) [H19～H22/県単採種]	4	やませ利用	147	
				(H19-12-3000) (3) 有望系統特性調査[H19～H22/令達]	4	野菜畑作	148	
				(H19-12-4000) (4) インゲンマメ(手亡類)の栽培法の開発[H19～H20→H19/令達]	1	野菜畑作	149	
			H18(B-2) 畑作物の省力・安定多収による低コスト生産技術の確立	80	(H19-14) 小麦冬期播種栽培の安定多収化技術の確立と作期・適地拡大[H19～H21/県単研究]	3	野菜畑作	
					(H19-14-1000) (1) 小麦冬期播種安定多収化技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	野菜畑作	150
					(H19-14-2000) (2) 作期拡大技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	野菜畑作	151
				81	(H19-29)【担い手プロ・土地利用型農業 汎用的な耕盤破碎・浅耕同時小畦立て播種機の開発による水田大豆の安定輪作技術体系の確立】関連【H19～H23/独法委託】	5	野菜畑作	152

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番	
花き	継	H18(E-1) 花きオリジナル品種の開発	82	(191)りんどうの品種育成[S49～H20→H22/令達]	37	花き	153	
			83	(840)りんどうF1品種の親株維持、増殖技術の確立[H14～H22/県単研究]	(840-1000)種子による親株維持技術の確立[H14～H22/県単研究]	9	花き	154
					(840-2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定[H14～H22/県単研究]	9	花き	155
					84	(843)りんどうの生育・生態調査[H14～H22/県単研究]	9	花き
			終	H18(E-2) 気象条件等を活用した低コスト安定生産技術の確立	85	(H15-11)りんどうの高品質促成栽培技術の確立りんどうコンテナ栽培技術の確立[H15～H19/県単研究]	(H15-11-1000)コンテナ栽培における管理技術の確立[H15～H19/県単研究]	5
	(H15-11-2000)コンテナ栽培の培地組成の解明[H15～H19/県単研究]	5					土壌作物栄養	158
	86	(H15-12)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立[H15～H19]					5	花き
	87	(H15-49)りんどうの種苗生産供給の安定化(りんどう生産拡大緊急対策事業)[H15～H19/令達]			(H15-12-2000)りんどう栄養系鉢物品種新規系統の高品質安定生産技術の確立[H17～H19/県単研究]	3	花き	159
					(H15-49-1000) (1)親株の安定生産技術[H15～H19/令達]	5	花き	160
	H18(E-4) 花き原種苗の維持・増殖技術の確立	(H15-49-2000) (2)組織培養による親株の安定生産技術[H15～H19/令達]		5	花き	161		
		〃		5	応用生物学	162		
		終 (繰上)		H18(E-1) 花きオリジナル品種の開発	88	(832) [post194] ニュータイプ小ぎくの品種育成[H01/H14～H20→H19/令達]	6	花き
	89		(884) 突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価[H14～H21→H19]		(884-2000) A4菌を利用したわい化りんどうの生育特性の解明及び栽培方法の確立[H17～H21→H19/県単研究]	3	花き	164
					90	(865) 小ぎくの作期拡大技術の確立[H14～H22→H19/県単研究]	6	花き
	91		(H19-09) 温度・日長条件に対するりんどうの生育反応[H19～H23/県単研究]	5	花き	166		
南部園芸	継	H18(E-2) 気象条件等を活用した低コスト安定生産技術の確立	92	(H18-07) 秋出しトルコギキョウの高品質・安定生産技術の確立[H18～H20/県単研究]	3	南部園芸	167	
			93	(H18-39) ウッドワール培地を利用した花壇苗・鉢花等の生産技術の確立[H18～H20/令達]	3	南部園芸、花き		



主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H18-39-1000)【南部園芸研究室分】[H18～H20/令達]	3	南部園芸	168
				(H18-39-2000)【花き研究室分】[H18～H20/令達]	3	花き	169
	終	H18(D-1) 担い手に応じた省力・単収向上による低コスト化、軽労化生産技術の確立	94	(H17-39) 高品質・高付加価値トマトの生産供給技術確立[H17～H19/令達]	3	南部園芸、野菜畑作、土壌作物栄養	
				(H17-39-1000) 高品質トマトの栽培技術の解明[H17～H19/令達]	3	野菜畑作	170
				(H17-39-2000) 有機物利用によるハウストマト減化学肥料栽培技術の開発[H17～H19/令達]	3	土壌作物栄養	171
				(H17-39-6000) 遮光、かん水管理による裂果軽減技術の確立[H18～H19/令達]	2	南部園芸	172
		H18(D-2) 多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	95	(H17-12) イチゴ促成栽培における省力的短日処理技術の開発、実証[H17～H19/県単研究]	3	南部園芸	
				(H17-12-1000) (1) 高設栽培による花房連続出蕾技術の開発[H17～H19/県単研究]	3	南部園芸	173
				(H17-12-3000) (3) 省力的短日処理技術の現地実証[H17～H19/県単研究]	3	南部園芸	174
		H18(D-3) 環境に調和した安全な野菜生産技術の確立	96	(H16-13) 高規格施設におけるトマト養液周年栽培技術の確立・実証[H16～H18→H19/県単研究]	4	南部園芸	
				(H16-13-1000) (ア) ダッチライト型ガラス温室における寒冷地型周年栽培技術の確立[H16～H18→H19/県単研究]	4	南部園芸	175
			97	(H16-14) イチゴの低コスト、環境保全型高設栽培技術の確立[H16～H18→H19]	4	南部園芸	
				(H16-14-2000) (2) 毛管給液方式を用いた閉鎖型給液管理技術の確立[H16～H18→H19/県単研究]	4	南部園芸	176
	終 (繰上)	H18(E-2) 気象条件等を活用した低コスト安定生産技術の確立	98	(H17-13) スターチス・シヌアータの直まき等による品質向上技術の確立[H17～H21→H19/県単研究]	3	南部園芸	177
	新	H18(D-2) 多様な消費ニーズに対応した高品質な野菜の安定生産技術の確立	99	(H19-08) 沿岸地域におけるいちご四季成り性品種の安定生産技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	南部園芸	
				(H19-08-1000) 夏秋どり作型に適した四季成り性品種の選定[H19～H21/県単研究]	3	南部園芸	178
				(H19-08-2000) 夏秋どり作型における四季成り性いちごの高品質生産技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	南部園芸	179
			100	(H19-30) 冷水資源を利用した根域冷却による野菜の高品質化技術の開発[H19～H21/独法委託]	3	南部園芸	180
環境保全	継	H18(L-2) 持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	101	(H18-08) 県産農産物のカドミウムリスク管理技術の確立[H18～H21→H24/独法委託]	7	環境保全	
				(H18-08-1000) (1) 畑作物・野菜類のカドミウム吸収抑制技術の確立[H18～H21/独法委託]	4	環境保全	

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H18-08-1100) 農業環境技術研究所委託課題 [H18~H19/独法委託]	2	環境保全	181
				(H18-08-1200) 農林水産高度化事業委託課題 [H19~H21/独法委託]	3	環境保全	182
				(H18-08-2000) (2) 玄米カドミウム濃度予測手法 の確立[H18~H19/国庫助成]	2	環境保全	183
		H18(Y-2) 環境負荷低減型地 域営農システムの確立	102	(H16-18) 3. 安全安心な水稲栽培技術の総合実 証[H16~H20]	5	環境保全、土 壌作物栄養、 病理昆虫	
				(H16-18-3200) 斑点米カメムシ発生予察技術 の高度化と斑点米被害抑制技術の開発(旧題: (3) 発生予察に基づく水稲害虫の効率的防除体 系の広域的実証) [H18~H20/独法委託]	3	病理昆虫	184
				(H16-18-4000) (4) 水稲減農薬・減化学肥料栽 培地域における栽培技術体系の管理システム [H17~H20/国庫助成]	4	環境保全	185
				〃	4	土壌作物栄 養	186
				(H16-18-6000) (6) 大規模処理施設における温 湯浸漬処理に対応した種子消毒技術の確立[H19 ~H20/国庫助成]	2	環境保全	187
	終	H18(K-1) 化学肥料や農薬な どの化学合成資材等による 環境負荷軽減技術の確立	103	(H15-19) 畑作地帯における硝酸性窒素等の環境 動態解明と負荷軽減技術の評価[H15~H19/令 達]	5	環境保全	
				(H15-19-1000) 硝酸性窒素等の動態解明手法 の確立[H15~H19/令達]	5	環境保全	188
				(H15-19-2000) 硝酸性窒素等の負荷軽減技術 の評価[H15~H19/令達]	5	環境保全	189
			104	(H17-32) シイタケ菌床栽培廃棄物を利用した土 壌中残留農薬分解法の開発[H17~H19/令達]	3	環境保全	190
			105	(H18-09) 広域水系における防除体系の変化に伴 う水田用農薬動態解明[H18~H19/独法委託]	2	環境保全	191
		H18(K-2) 家畜糞尿の利用を 促進する低コスト処理技術と 利用システムの確立	106	(522) 家畜排泄物等の有機物資源を活用した特 別栽培農産物生産技術体系の確立[H14~ H18~H19]	6	環境保全	
				(522-6000) 県北地域の水稲栽培における有機 質資材の化学肥料代替利用法の確立[H14~ H18~H19/国庫助成]	6	営農技術	192
		H18(K-3) 農村環境の総合管 理システム開発と生物多様 性保全技術の確立	107	(H16-16) 1. 産地評価向上手法の開発[H16~ H18~H19/県単研究]	4	環境保全	
				(H16-16-1000) (1) 産地PRのための里地里山 の生き物活用手法の開発[H16~H18~H19/県単 研究]	4	環境保全	193
	終 (繰上)	H18(Y-2) 環境負荷低減型地 域営農システムの確立	108	(H16-19) 4. 安全安心な野菜の栽培技術の実証 [H17~H20~H19]	3	環境保全	
				(H16-19-5000) (5) 特別栽培農産物生産等支援 技術の実証[H17~H20~H19/令達]	3	環境保全	194

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H16-19-6000) (5) 特別栽培農産物生産等支援技術の実証[H17～H20→H19/国庫助成]	3	環境保全	195
	新	H18(K-1) 化学肥料や農薬などの化学合成資材等による環境負荷軽減技術の確立	109	(H19-18) 農薬散布条件による近接作物での農薬残留リスク[H19～H21/令達]	3	環境保全	
				(H19-18-1000) 令達事業分[H19～H21/令達]	3	環境保全	196
				(H19-18-2000) 民間委託分[H19～H21→H19/民間委託]	1	環境保全	197
		H18(Y-2) 環境負荷低減型地域営農システムの確立	110	(H19-44) 【政策調整枠事業】特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発[H19～H22/令達]	4	環境保全、生産工学、土壌作物栄養、病理昆虫、営農技術	
				(H19-44-1000) (1) 雑穀における有機農産物生産技術の開発[H19～H22/令達]	4	生産工学	198
				〃	4	営農技術	199
				(H19-44-2000) (2) 水稻特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19～H22/令達]	4	環境保全	200
				〃 [H19～H20/国庫助成]	4	環境保全	201
				〃 [H19～H20/令達]	4	土壌作物栄養、	202
				〃	4	病理昆虫	203
				〃	4	生産工学	204
				(H19-44-3000) (3) 水稻特別栽培農産物等生産技術の安定化技術[H19～H22/令達]	4	土壌作物栄養、環境保全、病理昆虫、営農技術	
				(H19-44-3100) ア 化学肥料代替技術の開発[H19～H22/令達]	4	土壌作物栄養	205
				〃	4	営農技術	206
				(H19-44-3200) イ 化学合成農薬代替技術の開発[H19～H22/令達]	4	環境保全	207
				〃 [H19～H22/国庫助成]	4	環境保全	208
				〃 [H19～H22/令達]	4	病理昆虫	209
土壌作物 栄養	継	H18(L-1) 高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	111	(H16-22) 新肥料の実用化[H16～H22]	7	土壌作物栄養、水田作、生産工学、果樹、野菜畑作、花き、南部園芸、環境保全、保鮮流通技術、営農技術、産地育成、やませ利用	

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H16-22-1000)【農産部担当分】[H16～H22]	7	水田作、生産工学	
				(H16-22-1100)【水田作研究室担当分】[H16～H22]	7	水田作	
				(H16-22-1140) 特別栽培米の施肥体系[H17～H22/民間委託]	6	水田作	210
				(H16-22-1150) 軽量化した水稲育苗培土の実用性の確認[H18～H22/民間委託]	5	水田作	
				(H16-22-1151) クレハ水稲用培土ダイエツ土(約50ℓ/15kg) [H18～H22/民間委託]	5	水田作	211
				(H16-22-1152) 三研ソイル水稲用培土(軽量タイプ) [H19～H22/民間委託]	4	水田作	212
				(H16-22-1153) いなほ化工水稲軽培土 [H19～H22/民間委託]	4	水田作	213
				(H16-22-1160) JAきたかみ向けに改良水稲育苗培土の実用性確認[H19～H22/民間委託]	4	水田作	214
				(H16-22-1200)【生産工学研究室担当分】[H16～H22]	7	生産工学	
				(H16-22-2000)【園芸畑作部担当分】[H16～H22]	7	果樹、野菜畑作、南部園芸	
				(H16-22-2100)【果樹研究室担当分】[H16～H22]	7	果樹	
				(H16-22-2120) カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16～H22/民間委託]	7	果樹	215
				〃	7	土壌作物栄養	216
				(H16-22-2130) 下層土のカルシウム供給能力の向上改善と樹体生育、果樹品質に及ぼす効果についての確認【旧題: 果樹専用土づくり肥料の肥効確認】[H17～H22/民間委託]	6	果樹	217
				〃	6	土壌作物栄養	218
				(H16-22-2200)【野菜畑作研究室担当分】[H16～H22]	7	野菜畑作	
				(H16-22-2280) 園芸培土としての実用性の確認(いなほ化工園芸培土) [H19～H22/民間委託]	4	野菜畑作	219
				(H16-22-2290) 小麦の効率的施肥技術[H19～H22/民間委託]	4	野菜畑作	220
				(H16-22-22A0) 肥効調節型肥料による施肥省力化および麦の生育・収量に及ぼす効果についての検討[H19～H22/民間委託]	4	野菜畑作	221
				〃	4	土壌作物栄養	222
				(H16-22-22B0) 肥効調節型肥料による施肥省力化および大豆の生育・収量に及ぼす効果についての検討[H19～H22/民間委託]	4	野菜畑作	223

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				〃	4	土壌作物栄養	224
				(H16-22-2400)【南部園芸研究室担当分】[H16～H22]	7	南部園芸	
				(H16-22-2440)鉢上げ用ポット施肥の有効利用【旧題:環境保全型農業のための施肥量減を目指した育苗ポット内全量施肥法の確立】[H17～H22/民間委託]	6	南部園芸	225
				(H16-22-2450)有機態窒素 50%(ロング態窒素 505 配合)肥料が生育に及ぼす効果についての検討[H19～H22/民間委託]	4	南部園芸	226
				〃	4	土壌作物栄養	227
				(H16-22-3000)【生産環境部担当分】[H16～H22/民間委託]	7	環境保全、土壌作物栄養	
				(H16-22-3100)【環境保全研究室担当分】[H16～H22/民間委託]	7	環境保全	
				(H16-22-3110)県内主要農産物の成分実態調査[H18～H22/民間委託]	5	環境保全	228
				(H16-22-3200)【土壌作物栄養研究室担当分】[H16～H22]	7	土壌作物栄養	
				(H16-22-32A0)有機原料を配合した特別栽培米対応肥料が稲の生育・収量・品質に及ぼす効果についての検討【旧題:有機 100%水稻育苗用肥料の効果確認】[H18～H22/民間委託]	5	土壌作物栄養	229
				(H16-22-32B0)有機態窒素 50%・有機態窒素 100%液肥の特別栽培対応肥料が生育に及ぼす効果についての検討【旧題:有機原料を配合した果菜専用肥料の特裁対応肥料の効果確認】[H17～H22/民間委託]	6	土壌作物栄養	
				(H16-22-32B1)とまと[H17～H22/民間委託]	6	土壌作物栄養	230
				(H16-22-32B2)ピーマン[H18～H22/民間委託]	5	土壌作物栄養	231
				(H16-22-32C0)肥効調節型肥料が生育に及ぼす効果確認[H18～H22/民間委託]	5	土壌作物栄養	
				(H16-22-32C1)りんどう(LPS200 配合りんどう用肥料)[H18～H22/民間委託]	5	土壌作物栄養	232
				(H16-22-32D0)小麦の品質・収量の向上に果たすケイ酸の効果判定【旧題:畑作物の品質・収量の向上に果たす珪酸の効果判定】[H18～H22/民間委託]	5	土壌作物栄養	
				(H16-22-32D1)小麦(スーパーエネルギー配合塩安)[H18～H22/民間委託]	5	土壌作物栄養	233
				(H16-22-32E0)有機原料を配合した特別栽培米対応育苗専用肥料の実用性確認[H19～H22/民間委託]	4	土壌作物栄養	234

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H16-22-32F0) 水稻に対する新ケイ酸資材の効果[H19～H22/民間委託]	4	土壌作物栄養	235
				(H16-22-32G0) フラットベツスキヤナの利用による地力診断高度化技術の開発[H19～H22/民間委託]	4	土壌作物栄養	236
				(H16-22-32H0) 減化学栽培米の安定生産と省力低コスト施肥技術の開発[H19～H22/民間委託]	4	土壌作物栄養	237
				(H16-22-32I0) 水稻の生育時期別ケイ酸吸収量の確認 特に水溶性ケイ酸の吸収と濃度が生育、いもち耐病性及び良質米生産に及ぼす波及効果の検証[H19～H22/民間委託]	4	土壌作物栄養	238
				(H16-22-4000)【県北農業研究所担当分】[H16～H22]	7	営農技術、産地育成	
				(H16-22-4100)【営農技術研究室担当分】[H16～H22]	7	営農技術	
				(H16-22-4140) 露地野菜・花き栽培における施肥効率向上技術の確立[H16～H22]	7	営農技術	
				(H16-22-4142) レタス栽培における施肥技術の確立【旧題:レタスの効率的施肥技術】[H18～H22/民間委託]	5	営農技術	239
				(H16-22-4180) 有機態窒素 50%の特裁対応肥料の肥効確認[H17～H22/民間委託]	6	営農技術	
				(H16-22-4181) キャベツ[H17～H22/民間委託]	6	営農技術	240
				(H16-22-41A0) 石灰窒素のほうれんそうに対する作物体中の硝酸態窒素低減効果の確認[H18～H22/民間委託]	5	営農技術	241
				(H16-22-4200)【産地育成研究室担当分】[H16～H22]	7	産地育成	
				(H16-22-4250) 土壌改善によるキャベツの品質向上【旧題:品質向上等肥料の新機能評価試験】[H17～H22/民間委託]	6	産地育成	242
				(H16-22-4260) (RSB-2) 資材の施用によるほうれんそうに対する効果の確認【旧題:ネオアップに微生物を添加した土づくり資材のほうれんそうに対する効果確認】[H18～H22/民間委託]	5	産地育成	243
				(H16-22-4270) ぼかし肥料がほうれんそうの虫の発生及び生育・収量に及ぼす効果についての検討[H19～H22/民間委託]	4	産地育成	
				(H16-22-4271) 硫酸銅入りぼかし肥料[H19～H22/民間委託]	4	産地育成	244
				(H16-22-4272) メチオニン入りぼかし肥料[H19～H22/民間委託]	4	産地育成	245
		H18(L-2) 持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	112	(H15-24) 環境保全型有機質資源連用効果調査[H15～H22/県単(土壌対策)]	8	土壌作物栄養、営農技術	

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番	
				(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果[H15～H22/県単(土壌対策)]	8	土壌作物栄養	246	
				(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果[H15～H22/県単(土壌対策)]	8	土壌作物栄養	247	
				(H15-24-3000)県北地域における畜産由来有機質資源連用効果[H15～H19→H22/県単(土壌対策)]	8	営農技術	248	
			113	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査[H15～H22→H25/県単(土壌対策)]	11	土壌作物栄養	249	
	新	H18(E-3)需要期に対応する開花調節等の技術の確立	114	(H19-20)りんどうの効率的施肥技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	土壌作物栄養		
				(H19-20-1000)(1)株養成期間における施肥技術の確立[H19～H20/県単研究]	2	土壌作物栄養	250	
				(H19-20-2000)(2)採花期間における施肥技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	土壌作物栄養	251	
		H18(L-2)持続的高生産方式のための土壌環境管理技術及び土壌環境資源の有効利用技術の確立	115	(H19-19)米の食味向上に向けた地力窒素診断技術の確立[H19～H21/県単(土壌対策)]	3	土壌作物栄養	252	
		H18(L-3)土壌・作物栄養情報の高度化に対応した土壌及び作物栄養管理技術の確立	116	(H19-43)【政策調整枠事業】フラットベツトスキャナー利用による地力診断高度化技術の開発[H19～H20/令達]	2	土壌作物栄養	253	
	保鮮流通技術	継	H18(W-2)加工指導業務等	117	(548)加工工房指導業務[H09～H22/県単公園]	14	保鮮流通技術	254
				H18(Y-3)生鮮野菜の品質自主管理技術の開発	118	(H16-20)5.野菜の品質自主管理技術の開発[H16/H17～H20/県単研究]	4	保鮮流通技術
			(H16-20-1000)(1)生産工程における自主管理手順の開発[H16/H17～H20/県単研究]	4	保鮮流通技術	255		
			(H16-20-2000)(2)収穫・出荷工程における自主管理手順の開発[H16/H17～H19→H20/県単研究]	4	保鮮流通技術	256		
			(H16-20-3000)(3)流通段階における品質保持技術の開発[H16/H17～H19/県単研究]	3	保鮮流通技術	257		
終		H18(V-1)県産農産物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立	119	(H17-16)りんどうの鮮度保持(花持ち性向上)技術の確立[H17～H19/県単研究]	3	保鮮流通技術	258	
新		H18(V-2)県産農産物の内部品質評価技術の確立	120	(H19-15)県産野菜のおいしさ評価法の確立[H19～H21/県単研究]	3	保鮮流通技術		
				(H19-15-1000)(1)促成グリーンアスパラの内部成分評価法の確立[H19～H21/県単研究]	3	保鮮流通技術	259	
				(H19-15-2000)(2)レタスの内部成分評価法の確立[H19～H21/県単研究]	3	保鮮流通技術	260	
		H18(V-1)県産農産物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立	121	(H19-34)【高度化事業・輸出対応型・共同】輸出に対応した地域特産切り花の流通技術開発[H19～H21/独法委託]	3	保鮮流通技術	261	

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
		H18(W-1) 県産農畜産物の高付加価値化を目指した加工技術の開発	122	(H19-17) 用途に合わせた雑穀の一次加工技術の開発 [H19~H20/県単研究]	2	保鮮流通技術	262
病理昆虫	継	H18(M-1) 主要・地域特産農作物の病害虫発生生態の解明	123	(H09-03) 【植物防疫事業研究】 [H09~H22/国庫助成]	14	病理昆虫	263
			124	(841) りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明 [H14~H18~H21/国庫助成]	8	病理昆虫、花き、応用生物工学	
				(841-1000) 発生実態と栽培条件による原因解明 [H14~H18~H21/国庫助成]	8	花き	264
				(841-3000) こぶ症発現に関連する微生物・線虫及び土壌昆虫の検索 [H14~H18~H21/国庫助成]	8	病理昆虫	265
				(841-4000) 生物工学的手法によるりんどうこぶ症の原因解明 [H16~H19~H21/国庫助成]	6	応用生物工学	266
			125	(H18-11) りんどうの薬剤抵抗性ハダニ類の発生実態と効率的防除法の確立 [H18~H20~H21/県単研究]	4	病理昆虫	
				(H18-11-1000) りんどうの薬剤抵抗性ハダニ類の発生実態と効率的防除法の確立 [H18~H20/県単研究]	3	病理昆虫	267
				(H18-11-2000) 天敵を利用したりんどうハダニ類の効率的防除法の開発 [H19~H21/国庫助成]	3	病理昆虫	268
		H18(M-2) 環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	126	(402) 新農薬の効果検定と防除基準作成 [H09~H22]	14	病理昆虫、果樹、営農技術	
				(402-2000) 県北地域 [H09~H17~H22/民間委託]	14	営農技術	269
				(402-4000) 本部 [H09~H22/民間委託]	14	病理昆虫	270
				(402-5000) 果樹 [H16~H17~H22/民間委託]	7	果樹	271
				(402-6000) 深層土壌消毒の効果検定 [H18~H19~H20/民間委託]	3	病理昆虫	272
			127	(H15-28) 地域特産物における新防除資材の実用化 [H15~H19~H21]	7	病理昆虫、環境保全、営農技術	
				(H15-28-6000) 農薬残留分析 [H15~H18~H21]	7	環境保全	
				(H15-28-6300) 畑わさび [H19~H19~H20/国庫助成]	2	環境保全	273
				(H15-28-6400) みつば、なばな [H19~H19~H20/国庫助成]	2	環境保全	274
				(H15-28-A000) なばなのネキリムシ類 [H16~H17~H20]	5	病理昆虫	
	(H15-28-A200) 第2期(なばな類として) [H19~H20/国庫助成]	2	病理昆虫	275			
	(H15-28-G000) 雑穀類の土壌害虫 [H19~H21/国庫助成]	3	病理昆虫	276			



主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H15-28-H000)りんどうの褐色根腐病 [H19～H21/国庫助成]	3	病理昆虫	277
				(H15-28-I000) 雑穀類の難防除害虫 [H19～H19→H21/国庫助成]	3	営農技術	278
		H18(M-3) 環境にやさしい病害虫防除技術の開発	128	(H18-12) 弱毒ウイルスを利用したりんどうのウイルス病防除法の確立 [H18～H22/国庫助成]	5	病理昆虫	279
		H18(M-4) 病害虫総合管理技術(IPM)の開発	129	(H16-25) りんごにおける病害虫総合防除技術の開発 [H16～H18→H21]	6	病理昆虫	
				(H16-25-2000) (2) カミキリムシ類の発生生態の解明と防除対策 [H16～H18→H19/国庫助成]	4	病理昆虫	280
				(H16-25-3000) (3) りんご生育期後半における病害防除回数の削減体系の開発 [H17～H18→H21/独法委託]	5	病理昆虫	281
			130	(H18-30) 環境に配慮したワサビにおける総合的作物管理システムの確立 [H18～H20/独法委託]	3	病理昆虫	282
	終	H18(M-1) 主要・地域特産農作物の病害虫発生生態の解明	131	(H17-27) キュウリホモブシス根腐病解決による露地夏秋キュウリ安定生産技術の確立 [H17～H19]	3	病理昆虫、野菜畑作	
				(H17-27-2000) 2根域制御による汚染土壌からの隔離栽培技術の開発 [H17～H19/独法委託]	3	野菜畑作	
				(H17-27-2100) (1) 根域制御手法の案出とそれに対応した栽培技術の開発 [H17～H19/独法委託]	3	野菜畑作	283
				(H17-27-2200) (2) 根域制御栽培における土壌消毒技術の開発 [H17～H19/独法委託]	3	病理昆虫	284
				(H17-27-2400) (4) 防除体系の確立及び蔓延防止対策の確定 [H18～H19/独法委託]	2	病理昆虫	285
		H18(M-4) 病害虫総合管理技術(IPM)の開発	132	(H16-24) 岩手オリジナル品種のいもち病圃場抵抗性を利用した防除体系の確立 [H16～H18→H19/国庫助成]	4	病理昆虫	286
	新	H18(A-4) 水稻優良種子生産技術の確立	133	(H19-21) 水稻種子生産における種子伝染性病害防除法の確立 [H19～H21/令達]	3	病理昆虫	287
		H18(C-1) 国際競争力の向上と需要拡大をねらいとした果樹の省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	134	(H19-22) りんごハダニ類の薬剤抵抗性発生実態の解明と防除体系の確立 [H19～H21/国庫助成]	3	病理昆虫	288
家畜育種	継	H18(G-1) 肉量・肉質を兼ね備えた高能力牛の作出と牛群整備	135	(237) 日本短角種産肉能力検定(現場検定法) [S48/H17～H22/令達]	6	家畜育種	289
			136	(236) 日本短角種産肉能力検定(直接法) [S45～H22/令達]	41	家畜育種	290
		H18(G-3) 安心安全に配慮した低コスト高品質な牛肉生産技術の確立	137	(H18-14) 肥育前期に粗飼料を多給した黒毛和種肥育技術の確立 [H18～H21/県単研究]	4	家畜育種	291
		H18(G-4) 特産豚及び特産鶏の開発と地域資源を活用した飼養技術体系の確立	138	(H18-15) 「新特産肉用鶏(南部かしわK系)」飼養技術の確立 [H18～H21/県単研究]	4	家畜育種	292

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
	終	H18(G-4) 特産豚及び特産鶏の開発と地域資源を活用した飼養技術体系の確立	139	(H16-29) 地域資源を活用した特産豚及び特産鶏の飼養技術の確立[H16～H19/県単研究]	4	家畜育種	293
	新	H18(G-1) 肉量・肉質を兼ね備えた高能力牛の作出と牛群整備	140	(H19-23) 血統・枝肉データを活用した日本短角種集団の全個体情報管理システムの拡充[H19～H22/県単研究]	4	家畜育種	294
				〃	4	種山畜産	295
		H18(G-3) 安心安全に配慮した低コスト高品質な牛肉生産技術の確立	141	(H19-45) 細断型ロールベア等を活用したトウモロコシサイレージ多給短角牛の安定生産と地域ブランドの確立[H19～H22/令達]	4	家畜育種、飼料生産、外山畜産	
				(H19-45-1000) 家畜育種研究室分[H19～H22/令達]	4	家畜育種	296
				(H19-45-2000) 飼料生産研究室分[H19～H22/令達]	4	飼料生産	297
			(H19-45-3000) 外山畜産研究室分[H19～H22/令達]	4	外山畜産	298	
	H18(G-4) 特産豚及び特産鶏の開発と地域資源を活用した飼養技術体系の確立	142	(H19-24) 豚集団維持の交配支援システムの構築[H19～H21/県単研究]	3	家畜育種	299	
		143	(H19-25) 岩手の鶏遺伝資源を活用した「特定 JAS 規格地鶏肉」の効率的な生産に係る種鶏開発[H19～H21/県単研究]	3	家畜育種	300	
	家畜飼養	継	H18(F-3) 乳牛の生涯生産性の向上及び自然環境と調和した飼養管理技術の確立	144	(H17-17) 栄養管理による泌乳牛の尿中窒素及びカリウム排泄量低減技術の確立[H17～H20/県単研究]	4	家畜飼養
終		H18(F-1) 泌乳能力を発揮させる飼養管理技術の開発	145	(H17-18) 発酵 TMR 飼料の調製並びに乳牛への給与技術の確立[H17～H19/県単研究]	3	家畜飼養、飼料生産	
				(H17-18-1000) (1) 発酵 TMR 飼料の飼料特性の解明[H17～H19/県単研究]	3	飼料生産	302
				〃	3	家畜飼養	303
				(H17-18-2000) (2) 発酵 TMR 飼料の調製作業方式の開発[H17～H19/県単研究]	3	飼料生産	304
				〃	3	家畜飼養	305
				(H17-18-3000) (3) 発酵 TMR 飼料の乳牛への給餌技術の確立[H17～H19/県単研究]	3	家畜飼養	306
				〃	3	飼料生産	307
新		H18(F-3) 乳牛の生涯生産性の向上及び自然環境と調和した飼養管理技術の確立	146	(H19-26) 乾乳期並びに初妊牛における環境性乳房炎予防技術の確立[H19～H21/県単研究]	3	家畜飼養	308
家畜工学	継	H18(J-2) 優良種畜の大量確保を目指したクローン牛の生産技術の開発	147	(H16-32) 核移植技術を応用した種雄牛短期造成技術の確立[H16～H20]	5	家畜工学	
				(H16-32-2000) (2) 種雄牛短期造成法の確立[H17～H20/県単研究]	4	家畜工学	309
		H18(J-3) 家畜ゲノム解析による生産性向上技術の開発	148	(304) 肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析[H07～H22/令達]	16	家畜工学	310

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
	終	H18(J-1) 家畜改良速度を飛躍的に向上させるための胚移植技術の確立	149	(H17-19) 正常胚安定生産技術の確立 [H17～H19/県単研究]	3	家畜工学	311
			150	(H17-20) ガラス化保存受精卵の直接移植に向けた検討(旧題:OPS を用いた牛胚の超急速ガラス化保存技術の確立) [H17～H19/令達]	3	家畜工学	312
飼料生産	継	H18(H-1) 地域適応性に優れた粗飼料の草種・品種の選定	151	(253) とうもろこし市販品種の特性比較 [S54～H22/令達]	32	飼料生産	313
			152	(254) とうもろこし系統適応性検定試験 [S55～H22/国庫委託]	31	飼料生産	314
		H18(H-2) 牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	153	(H16-35) 不耕起栽培トウモロコシを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立(旧題:トウモロコシの不耕起、簡易耕起栽培法の確立) [H16～H22/独法委託]	7	飼料生産	315
			154	(H18-16) 破碎処理によるトウモロコシサイレージの収穫・給与技術の確立 [H18～H22/独法委託]	5	飼料生産、家畜飼養	
				(H18-16-1000) 破碎処理機によるトウモロコシの収穫適期拡大と泌乳牛への多給による飼料代低減技術の確立 [H18～H22/独法委託]	5	飼料生産	316
			〃	5	家畜飼養	317	
	H18(K-2) 家畜糞尿の利用を促進する低コスト処理技術と利用システムの確立	155	(H18-35) 低コストで効率的な畜舎汚水処理技術の確立 [H18～H20/令達]	3	飼料生産	318	
	終	H18(H-2) 牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	156	(H18-38) 次世代型農業機械緊急開発事業 [H18～H18→H19/独法委託]	2	飼料生産	319
			157	(H17-21) バイオガスプラント由来消化液の利用技術の確立 [H17～H19/令達]	3	飼料生産、土壌作物栄養、営農技術	
			(H17-21-1000) バイオガスプラント由来消化液の飼料作物における利用効果 [H17～H19/令達]	3	飼料生産	320	
		(H17-21-2000) バイオガスプラント由来消化液の耕種作物における利用効果 [H17～H19/令達]	3	土壌作物栄養	321		
	〃	3	営農技術	322			
外山畜産	終	H18(G-2) 恵まれた土地資源を活用した効率的な子牛生産システムの確立	158	(H15-45) 日本短角種DM牛の特性解明と系統造成 [H15～H19/独法委託]	5	外山畜産	323
	新	H18(G-2) 恵まれた土地資源を活用した効率的な子牛生産システムの確立	159	(H19-27) 公共牧場機能を活用した黒毛和種集団繁殖・育成技術体系の確立 [H19～H21/県単研究]	3	外山畜産	
				(H19-27-1000) 自然哺乳飼養における和牛子牛早期離乳技術の確立 [H19～H21/県単研究]	3	外山畜産	324
				(H19-27-2000) 黒毛和種自然哺乳における繁殖雌牛群の分娩間隔短縮の検討 [H19～H21/県単研究]	3	外山畜産	325
				(H19-27-3000) 黒毛和種育成期における TMR 給与技術の確立 [H19～H21/県単研究]	3	外山畜産	326

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番	
種山畜産	継	H18(G-1)肉量・肉質を兼ね備えた高能力牛の作出と牛群整備	160	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)[H01～H22/令達]	22	種山畜産	327	
			161	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査[H14～H22/県単研究]	9	種山畜産	328	
			162	(859)黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出[H14～H22/県単研究]	9	種山畜産	329	
				〃 [H14～H22/令達]	9	種山畜産	330	
			163	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)[S62～H22/令達]	24	種山畜産	331	
営農技術	継	H18(S-2)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立	164	(H18-18)地域有機質資源を活用した大豆栽培技術の開発[H18～H20/県単研究]	3	営農技術	332	
				〃	3	やませ利用	333	
産地育成	継	H18(E-1)花きオリジナル品種の開発	165	(H17-22)県北地域におけるりんどうの安定生産技術の確立[H17～H21/県単研究]	5	産地育成		
				(H17-22-1000)(1)りんどうの有望育成系統の現地適応性試験[H17～H21/県単研究]	5	産地育成	334	
				(H17-22-2000)(2)りんどうの需要期出荷のための早出し栽培技術の開発[H18～H21/県単研究]	4	産地育成	335	
		H18(M-2)環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術の開発	166	(H18-19)雨よけぼうれんそう主要病害虫の耕種的防除法の開発[H18～H20]	3	産地育成		
				(H18-19-2000)(2)ハウレンソウケナガコナダニの被害軽減技術の開発[H18～H20/県単研究]	3	産地育成	336	
				(H18-19-3000)(3)安定生産に適する品種比較試験[H19～H19/令達]	1	産地育成	337	
				(H18-19-4000)(4)夏期高温期の安定生産のための輪作体系の確立[H19～H20/県単研究]	2	産地育成	338	
	終	H18(S-1)やませ地域の立地特性を活用した農業生産システムの開発	167	(H15-33)高冷地レタスの高位安定生産技術の確立[H15～H19]	5	産地育成		
				(H15-33-3000)総合防除技術の確立[H15～H19/県単研究]	5	産地育成	339	
				〃	3	営農技術	340	
	新	H18(E-3)需要期に対応する開花調節等の技術の確立	168	(H19-53)県北地域における小ぎくの安定生産技術の確立(旧題:県北地域における小ぎく「アイマムシリーズ」の安定生産技術の確立)[H19～H22/県単研究]	4	産地育成	341	
	やませ利用	継	H18(S-2)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立	169	(H16-40)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立[H16～H21/令達]	6	やませ利用、営農技術、水稻育種、応用生物学	
					(H16-40-1000)(1)岩手在来系統の特性評価と品質優良系統の選定[H16～H21/令達]	6	やませ利用	342
				(H16-40-2000)(2)オリジナル雑穀品種の開発[H16～H21/令達]	6	やませ利用	343	
				〃	4	水稻育種	344	

主査	区分	構想	No.	課題	年数	担当	連番
				(H16-40-3000) (3) 雑穀の省力・安定栽培技術 確立[H16～H21/県単研究]	6	営農技術	345
				(H16-40-4000) (4) 雑穀の高付加価値栽培技術 確立[H16～H21/県単研究]	6	営農技術	346
				〃	5	やませ利用	347
				(H16-40-5000) (5) 系統判別技術の確立[H19～ H21→H19/県単研究]	1	応用生物学	348

(3) 要望課題の措置

ア 平成19年10月22日農研企第91号で回答した検討結果の概要

措置区分：A=平成20年度実施，B=現在実施中，C=既知見あり，D=次年度実施できない

No	要望課題名	要望機関名	要望課題の内容	措置区分	主査研究室
1	バイオエタノール原料用米としての多収品種及び低コスト栽培技術の開発	農業振興課	(1) バイオエタノール原料用米の品種開発 ・ 玄米収量ならびに茎葉を含めた乾物生産量が高い品種の開発(直播適性、耐冷性、耐病性の考慮) (2) バイオエタノール原料用米の低コスト栽培技術の開発 ・ 直播等による低コスト安定多収生産技術の確立	B	水稻育種
2	農業農村整備事業の波及効果の研究	農村計画課	現状の公共事業評価では把握することが出来ない事業の波及効果に関する研究	C, D	農業経営
3	水田転作へのソラマメの導入に係る多収技術の確立	農産園芸課	(1) 岩手県における作型の確立(梅雨時期を回避した収穫期の前進化:6月中旬～7月上旬) (2) 岩手県における適品種の選定及び病虫害防除体系の確立	C	野菜畑作
4	施設園芸におけるパブリカの栽培技術の確立	農産園芸課	点滴かん水技術を利用したパブリカ栽培について、土壌水分管理マニュアルの作成及びコスト面の検証を行う。	A	野菜畑作
5	加工・業務用に適した品種、作型の検証	農産園芸課	(1) 単価に見合った栽培方法及びコスト検証(想定例)80円/kgで取引可能なほうれんそうの栽培方法、栽培期間。レタス、キャベツ、だいこん等の大規模生産者の機械装備に対応した業務用ほうれんそう栽培技術の確立。 (2) 大玉生産が可能で圃性の高い寒玉系キャベツ品種の選定等 60円/kgで取引可能なキャベツの栽培方法、栽培期間	B, A	産地育成
6	小麦赤かび病の防除時期とDON生成抑制効果の検討 小麦赤かび病を効果的に除去する調製方法の検討	農産園芸課	DON産生量を効果的に抑制する防除時期、防除回数の検討が必要である。	B	病理昆虫
7	特別栽培米の生産費を大幅に低減した技術体系の確立	農産園芸課	(1) 特別栽培米生産の経営実態の把握 ・ 営農類型別、経営規模別に経営の実態と課題を明らかにする。 ・ 併せて、生産費を大幅に低減する技術内容を確立し、総合的に組み立てる。 (2) 生産費を大幅に低減した特別栽培米に関する技術体系の構築・提示 ・ 特別栽培米を具体的に推進するツールとなる技術体系を構築する。 ・ 経営を考慮した収益性の高い技術体系を提示する。 (3) 特別栽培米の産地構造と推進方策の提示 ・ 特別栽培米産地の構造等の分析と今後の推進方策を提示する。 (4) 水稻経営規模別等の生産費低減方策の提示	C, A  D  D  C	農業経営
8	飼料用イネ(穀実用)の育種・栽培・給与技術の確立	農業大学校	家畜飼料の主原料である輸入トウモロコシの価格が、ガソリンを代替するバイオエタノール向けの需要拡大を背景に高騰が想定され、飼料自給率を高める対応が喫緊の課題である。そこで、飼料用のコメの一定面積当たりの収穫量を増やす育種栽培技術(インディカとジャポニカ種のF1:1,500kg/10a)と、家畜(肥育牛)への生育に適している給与法を確立されたい。	D, B	飼料生産
9	水田麦における播種時期と収穫量の相関指数の作成	岩手県農業共済組合連合会	段階的な晩播による減収程度を把握することにより、適期播種の励行や晩播した共済加入者に対する適正な引受収量の設定が可能となる。	B	野菜畑作

No	要望課題名	要望機関名	要望課題の内容	措置区分	主査研究室
10	気象温暖化現象に対応した本県作型開発に関する研究	岩手県農業会議	農業経営全般。 年々拡大する温暖化を影響を受けた米、野菜等の作型の北上化に対応した栽培方法の確立および品種開発における選抜基準の見直し等	D	企画情報
11	集落営農組織経営体等の都市住民交流部門の導入効果	岩手県農業会議	担い手多角化分野への活用。米・麦・大豆の経営安定対策に加えて経営の多角化が重要であり、その一つとして農業体験等の都市住民との交流部門を経営の柱にする可能性を確認する。	C, D	農業経営
12	H-2 牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	岩手県農業会議	輸入飼料の高騰に対する良質な自給飼料の生産。サイレージ品質の安定化・向上化。	B	畜産研究所
13	F-2 低コスト・省力管理システムの開発と利用技術の確立	岩手県農業会議	低乳価時代に対応する生乳に生産原価のコスト低減の追及。	B	畜産研究所

イ 平成 20 年 2 月 12 日農研企第 127 号で中央農業改良普及センター所長に回答した検討結果の概要

措置区分：A=平成 20 年度実施，B=現在実施中，C=既知見あり，D=次年度実施できない

No	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	主査研究室
1	水稻の水害による生育段階別の減収尺度と玄米品質低下尺度	(1) 本県で水害発生時に研究成果等として取りまとめられた被害実態等を参考に、水稻の生育段階別水害発生における減収尺度ならびに品質低下尺度を作成する。	B	水田作
2	水稻直播栽培は環境負荷軽減にどの程度貢献しているか	(1) 水稻直播栽培(湛直、乾直)の生産過程で省略できる作業・資材等が環境に対する負荷軽減にどの程度寄与しているか評価する。	C, D	環境保全
3	センチピードグラスは斑点米カメムシ類の越冬源・発生源となるか	(1) 秋に出穂したセンチピードグラスはアカスジカメムシの越冬源となるか、また、重要な越冬源となるのかの確認。 (2) イネの出穂前に出穂したセンチピードグラスがカメムシ類の発生源となるか、また、重要な発生源となるのかの確認(寄生種の特定と近隣水田における斑点米発生の有無等々)。 (3) 斑点米発生防止のための発生源対策としての観点から、センチピードグラスはGCPとして本県で植栽することの可否について総合的な解析。	A	病理昆虫
4	小麦作における播種時期別の最適播種量と施肥体系	播種期別(適期内+11月上旬)での適正な播種量および施肥体系が明確になり、生産安定および資材費の低減がはかれる。	C, B	野菜畑作
5	雑穀(イナキビ・アワ等)への害虫ヒサゴトビハムシ等の防除方法の確立	アワやイナキビ等の害虫となるヒサゴトビハムシの生態を明らかにする。 圃場周辺の環境や前作の影響、作期の移動を含めた耕種的防除対策を確立する。	B	営農技術
6	キュウリホモブシス根腐病の早期診断技術の開発と発病抑制技術の確立	(1) 生産現場では「しおれ」が発症した場合、同病害の特徴的症狀である根の褐変が確認できないと、同病害によるものか他の原因によるものかの判断が困難であることから、感染初期における早期診断技術の確立が必要である。 (2) 栽培圃場における菌密度を事前に把握し、菌密度と発病の相関を明らかにすることで発病の危険性を予測できる。 (3) 土壌養分と発病の有無、程度など同病原菌の好適増殖条件が明らかになることにより、発病させない適正な肥培管理技術が確立される。 (4) なお、現地では根部の褐変が確認される圃場においても発病していない例もあることから発病を招かない栽培技術管理についても検討願いたい。	C B B A または D	病理昆虫
7	きゅうり「黒星病」に対して防除効果のある薬剤の確認	(1) 「黒星病」に防除効果のある薬剤の確認。 (2) 被害の影響が大きい現地での確認。 (3) 効果のある薬剤が確認されることでローテーション散布が可能となり「黒星病」の被害が軽減される。	A	病理昆虫

※ 要望機関は全て中央農業改良普及センター

No	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	主査研究室
8	ピーマン品種「京鈴」における主枝更新栽培技術の確立	(1) 主枝更新の実施時期(いつ、どのようなタイミングで実施するか)。 (2) 主枝更新作業時の留意事項(肥培管理、水分管理など)。 (3) 主枝更新栽培技術が確立することで、生育後半の草勢維持と収量の安定化が図られる。	D, C	野菜畑作
9	ピーマン腐敗果の原因究明と防除対策の確立	(1) 腐敗果の要因別(「灰色かび病」、「軟腐病」、「炭そ病」等)原因の究明と被害のメカニズム及び防除対策。 (2) 「軟腐病」と「炭そ病」については防除指針(仮)への記載。 (3) 被害のメカニズムと防除対策が明らかになることで腐敗果の発生が軽減され、収量と市場評価が安定する。	A	病理昆虫
10	ほうれんそうの内部品質、害虫被害及び施肥コスト等に与える局所施肥播種機の改善効果	(1) 局所施肥播種機の利用により、施肥量が慣行より大幅に削減できることが明らかとなるとともに、化学肥料施用量の低減技術とのかつてエコファーマーの技術要件として認められる。 (2) 精密な施肥が可能となり、肥料が効率的に吸収されることから、良好な生育を保ちながら、硝酸態窒素の含有量を低減することが可能となる。 (3) タネバエやホウレンソウケナガコナダニなどの害虫被害低減効果が明らかとなり、耕種的な面での害虫防除技術として利用される。 (4) 局所施肥播種機を利用した場合のほうれんそう生育の特性等が明らかとなり、一連の機械化作業体系での活用方法が示される。	D	産地育成
11	施設園芸栽培における暖房費軽減技術の確立	(1) 燃料費を削減できる効果的な暖房方法の検討。	C, D	野菜畑作
12	レタス・キャベツ等葉茎菜類の稚苗利用技術の開発	(1) レタス、キャベツの各作型、主要品種に対する406(または288)セル固化培地の栽培適応性の検討(従来の128~200セルトレイを利用した20~30日育苗から、406(288)セルトレイを利用した4~5日育苗が可能となり、大幅なコスト低減が期待される。) (2) 406(288)セル固化培地育苗株のレタス縁腐症やキャベツ芯腐症等の生理障害及び各種病害の発生軽減効果の検討(根域の拡大により、気象変動による影響を受けにくくなり、生理障害や病害の発生軽減が期待される。) (3) 優先順位は、作目ではレタス=キャベツ>はくさい>ブロッコリー、検討項目ではセル数と適応作型>最適育苗日数>適応品種>生理障害・病害発生軽減効果>適応圃場条件>機械移植適応性を希望。(レタスの場合、主産地である一戸町奥中山地区では手植えが主流となっており、機械移植適応性に関しては緊急を要しない。)	A	産地育成
13	りんどう新品種の育成	(1) りんどうのイーハートヴォ、いわて、ジョバンニ、アルビレオに替わる新品種の育成。(2) 育成された品種の種苗の安定した種子供給。	B	花き
14	りんどうにおけるアザミウマ類の防除体系の確立	(1) りんどうで発生するアザミウマ類に対して効果的な薬剤および防除方法の確立。 (2) 薬剤防除に頼らない耕種的防除を組み合わせた防除体系が確立。	A	病理昆虫
15	りんごにおけるハダニ類の耕種的防除を活用した総合防除対策の確立	(1) ナミハダニ生息密度低減のための下草等越冬源の管理方法 (2) 粘着式捕殺資材によるナミハダニ生息密度の低減 以上の耕種的防除法を薬剤防除体系と組み合わせることにより、発生量の低下や防除回数削減の効果が期待され、結果として高品質果実生産と防除費の低減に繋がり、農家の経営面でのメリットも期待される。	C A	病理昆虫
16	「南部かしわ」の肉の特性の解明	一般的に消費されているブロイラー等の鶏肉との特性の違いの提示 ・肉色や脂肪色等の外観についての特性 ・柔らかさや歯ごたえ等の物理性についての特性 ・一般成分・核酸・遊離アミノ酸等の理化学性についての特性	A	家畜育種
17	集落営農組織の法人化の成立条件	既存の集落営農組織がどのような方向に向かうべきかが明らかになる。また、法人化に向けての課題が明確となり、解決策を探ることができる。	C, B	農業経営

※ 要望機関は全て中央農業改良普及センター



## 5 共同研究等の推進

### (1) 国庫委託研究事業 (国庫 10/10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
特性検定試験事業 ・ 水稲 ・ 麦類(耐寒雪性)、大豆(立枯性病害抵抗性)	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地では実施しがたい特性の検定を行い、選抜効率の向上のための資料を得る。	水稲育種 野菜畑作
系統適応性検定試験事業 ・ 水陸稲 ・ 馬鈴薯、小豆 ・ 飼料用トウモロコシ ・ 果樹	国	継続	国及び育種指定試験試験地で育成中の系統について、育成地と異なった風土での確認を行い、新品種決定のための資料を提供する。	水稲育種 野菜畑作 飼料生産 果樹

### (2) 交付金プロジェクト委託研究 (10/10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
寒冷地におけるイチゴの周年供給システムの確立	(独)東北農業研究センター	15～19	東北北部内陸地域における夏秋どり新作型の開発	野菜畑作
			超促成・越年株型経営モデル作成	農業経営
東北地域における農薬 50%削減リンゴ栽培技術体系の確立	(独)東北農業研究センター	17～21	リンゴ生育期後半における病害防除回数の削減体系の開発	病理昆虫
			リンゴの樹形改善による効率的防除と散布量削減技術の開発、農薬 50%削減リンゴ栽培技術体系の現地実証マニュアル策定	果樹
			農薬 50%削減リンゴ栽培技術体系の経営評価	農業経営

### (3) 委託プロジェクト研究 (10/10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
寒冷地における飼料用稲を基軸とした自給飼料多給型肉用牛生産技術の開発チーム	(独)東北農業研究センター	18～22	水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立	水田作 土壌作物栄養 飼料生産
寒冷地における飼料用とうもろこしを基軸とした自給飼料多給型酪農技術の開発チーム	(独)東北農業研究センター	18～22	不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立	飼料生産
			破碎処理機によるトウモロコシの収穫適期拡大と泌乳牛への多給による飼料代低減技術の確立	飼料生産
			新たなとうもろこしサイレージ生産・供給・給与体系の経営経済評価	農業経営
農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	(独)農業環境技術研究所	18～19	東北地域における野菜類の低吸収・低蓄積機構の解明	環境保全
		18～19	動態モデル開発のための水田用農薬の動態解明	環境保全
試作せん定枝粉碎搬出機のほ場性能試験	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	16～19	りんごせん定枝の粉碎搬出機の開発・利用に関する調査の実施	果樹
果樹用農薬飛散制御型防除機の開発	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	18～20	緊プロ課題「果樹用農薬飛散制御型防除機」において試作したスピードスプレーヤ用ドリフト低減型ノズルのほ場におけるドリフト低減効果及び付着性能等の把握	果樹
汎用型飼料収穫機の圃場性能試験	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	18～19	「次世代型農業機械等緊急開発事業」で開発中の汎用型飼料収穫機に関する作業性能、操作性等の調査	飼料生産
超低コスト土地利用型作物生産技術の開発	(独)東北農業研究センター	19～23	水稲乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証	野菜畑作
新規植物成長調整剤の実用化研究	(独)科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト岩手	19	ヒトに必須な栄養素に関する植物成長調整剤としての実用化に向けた研究(地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」)	応用生物学

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
現場での植物病原体検出・診断を目的とした遺伝子増幅・検出系の開発	(独)科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト 岩手	19	作物の栽培現場における診断を想定した病原体の簡易な遺伝子増幅・検出工程を一体的に処理できる診断キットの試作(実用化のための可能性試験(FS))	応用生物学

#### (4) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 (10/10 委託)

課題名	共同研究機関 (◎は中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
リンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発(1650)	◎(独)果樹研究所 長野県果樹試験場、宮城県農業園芸総合研究所、岐阜大学、岩手大学、JIAいわて中央	16～20	経済効果の高いリンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発	果樹
ホモプシス根腐病解決による露地夏秋キュウリ安定生産技術の確立(1754)	◎(独)東北農業研究センター 秋田県立大、福島県農業総合センター	17～19	根域制御手法の案出とそれに対応した栽培技術の開発	野菜畑作
			根域制御栽培における土壌消毒技術の開発	病理昆虫
			ホモプシス根腐病防除体系の確立及び蔓延防止対策の策定	病理昆虫
寒冷地・積雪地下における冬春期野菜の安定生産技術の開発(1723)	◎(独)東北農業研究センター 東縦興産(株)、岩手大学、秋田県立大、秋田県農業試験場、宮城県農業園芸総合研究所、山形県立園芸試験場	17～19	早期秋冷気象を活かしたアスパラガスの促成栽培技術の確立	野菜畑作 産地育成
斑点米カメムシ発生予察技術の高度化と斑点米被害抑制技術の開発	◎(独)東北農業研究センター 東北大学大学院、青森県農林総合研究センター、岩手県農業研究センター、宮城県古川農業試験場、秋田県農業試験場、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、(独)中央農業総合研究センター	18～20	イネ主要品種ごとの斑点米カメムシ類防除要否判定法及び水田外の環境にも優しい水田病害虫管理技術の確立	病理昆虫
環境に配慮したワサビにおける総合的作物管理システムの確立(18060)	◎静岡県農林技術研究所 長野県農業総合試験場、岩手県農業研究センター、静岡大学農学部、全国わさび生産者協議会	18～20	現地実証を通じた環境配慮のワサビにおける総合的作物管理システムの確立	病理昆虫
冷水資源を利用した根域冷却による野菜の高品質化技術の開発	◎(独)東北農業研究センター 東北大学大学院、青森県農林総合研究センター、岩手県農業研究センター、宮城県古川農業試験場、秋田県農業試験場、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、(独)中央農業総合研究センター	19～21	「トマト」に関する根域冷却技術のシステム化、高糖度生産条件の解明に関する研究	南部園芸
野菜類の品目別カドミウム濃度の解明と吸収抑制技術の開発(1901)	◎(独)東北農業研究センター 東北大学大学院、青森県農林総合研究センター、岩手県農業研究センター、宮城県古川農業試験場、秋田県農業試験場、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、(独)中央農業総合研究センター	19～21	高吸収性野菜品目の品種別カドミウム濃度の解明及びアルカリ資材による効率的なカドミウム吸収抑制技術の開発	環境保全
輸出に対応した地域特産切り花の流通技術の開発(1919)	◎(独)花き研究所 東北大学大学院、青森県農林総合研究センター、岩手県農業研究センター、宮城県古川農業試験場、秋田県農業試験場、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、(独)中央農業総合研究センター	19～21	「リンドウ」に関する収穫後生理特性の解明と前処理方法の確立、遠距離輸送技術の開発及びその有効性についての検証	保鮮流通技術

#### (5) 民間委託研究 (10/10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(財)岩手県植物防疫協会	継続	新農薬効果試験 92件	病理昆虫、営農技術
		継続	除草剤実用化試験 49件	水田作、果樹、野菜畑作、花き、南部園芸、産地育成、やませ利用
		継続	新資材実用化試験 1件	果樹

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	継続	水田作5件、果樹2件、野菜畑作4件、南部園芸2件、環境保全1件、土壌作物栄養16件、営農技術3件、産地育成4件	主査は土壌作物栄養
稲民間育成品種評価試験	(社)農林水産先端技術産業振興センター	H19	民間育成の稲新品種(系統)について、評価試験を行い、岩手県における適応性の検討を行う。	水稻育種
農薬環境研究	日本農薬学会	H19	水稻育苗期防除剤の後作物での農薬残留抑制技術の確立	環境保全
土壌病害虫防除技術基準策定事業	(社)日本くん蒸技術協会	H19	キュウリホモプシス根腐病に対するクロロピクリンくん蒸剤による防除に関する調査試験	病理昆虫

#### (6) 新夢県土いわて戦略的研究推進事業(科学・ものづくり振興課所管 公募競争型 県単)

課題名	相手方 (◎は主査)	研究期間	研究の内容	担当研究室
寒冷地における冬～春野菜生産を可能にする新品種・作型の開発 極晩抽性ハクサイ系統選抜および現地適応性試験	◎(独)東北農業研究センター、岩手大学、サカタのタネ	18～19	極晩抽性・結球性・越冬性を併せ持ったハクサイ系統を選抜し、これを利用して「秋播き→露地(積雪下)越冬→翌春収穫」という従来のハクサイ栽培では考えられなかった新作型に関する実現性を確認する。(当センター分担課題においては、本県の立地に適した有望系統の適応性検定を行うとともに、新たな作型への適応性を検討する)	野菜畑作
木質バイオマス(杉樹皮)を利用した農業用ウッドワール培地の製品開発	◎葛巻林業(株) (有)岩手園芸、(独)東北農業研究センター	18～20	処分が困難な産業廃棄物である杉樹皮で、安価な杉皮原料の培地を製品化し、園芸への利用技術を確立する。	南部園芸

#### (7) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究

農業研究センター研究課題名	生物工学研究センター課題名	研究の内容	担当研究室
水稻重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索 いもち病真性抵抗性遺伝子に関連したDNAマーカーの探索とその実用化	DNAマーカーを用いた水稻特性検定法の確立	生工研と共同で遺伝子解析に基づくDNAマーカーを開発し、岩手オリジナル品種の育成を加速化する。	水稻育種、応用生物工学
りんどうのF1優良個体の大量増殖 突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価	アグロバクテリウム・リゾジェネスA4菌を用いた矮化りんどうの特性評価	生工研が開発したA4菌感染矮性りんどうの増殖手法検討と特性調査を行い、新品種を早期に育成する。	応用生物工学、花き
シイタケ菌床栽培廃棄物を利用した土壌中残留農薬分解法の開発	シイタケ菌床栽培廃棄物の有効利用による環境汚染物質処理法等の開発	シイタケ菌床栽培廃棄物からリグニン分解酵素類を安定的に回収し、農薬などの環境汚染物質を分解する方法を確立する。	環境保全
体系的な植物病害診断法の確立に向けた病原体検出診断技術の開発	植物病原ウイルスの遺伝子解析及び検出診断技術の開発	ウイルスによる感染の検出を長鎖二本鎖RNAの蓄積を指標とする手法を確立し、迅速かつ体系的な植物病害診断を確立する。	病理昆虫、応用生物工学

#### (8) 大学との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
日本短角種DM牛の高度利用による次世代型機能性健康び	◎東北大学 大学院農学	15～19	DMヘテロ繁殖雌牛にDMヘテロ凍結精液を人工授精してDMホモ牛群の造成を行うとともに、DM	外山畜産、家畜工学

課 題 名 等	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
一フの開発(1523)【※先端技術を活用した農林水産研究高度化事業】	研究科 (独)畜産草地研究所		牛の生殖特性と発育特性の解析を行う	
新規澱粉特性を有するヒエ新品種「長十郎もち」の利用【※地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」】	(独)科学技術振興機構 JST イノベーション サテライト岩手	19	新規澱粉特性を有するヒエ新品種「長十郎もち」に関する栽培適地の確定、含有する澱粉等の品質特性、加工・利用特性について明らかにする	野菜畑作

### (9) 他の公設試との共同研究

課 題 名 等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	6～	果樹
県産小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	7～	野菜畑作
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	8～	水稻育種

### (10) AFR (岩手農林研究協議会) 研究会

#### ア 研究会

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
1 花卉育種研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	花き
2 昆虫機能利用研究会	◎岩手大学農学部、同教育学部、岩手医大、岩手県農業研究センター、岩手県立農業大学校	10～	病理昆虫
3 植物育種研究会	◎岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター	10～	水稻育種
4 農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、◎岩手県農業研究センター	10～	病理昆虫
5 機能性食品研究会 A (雑穀)	◎岩手大学農学部、大学院連合農学研究科、工業技術センター、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場	10～	やませ利用
6 機能性食品研究会 B (豆腐)	◎岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	野菜畑作
7 農作業システム自動化研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	生産工学
8 乳牛の周産期疾患研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター畜産研究所、小岩井農牧、日本金葉工業	10～	家畜飼養
9 水稻栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	水田作
10 果樹栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	果樹
11 リンドウ研究会	◎岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	応用生物
12 植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、◎岩手県農業研究センター、生物工学研究所	12～	水稻育種
13 雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、◎岩手県農業研究センター	12～	病理昆虫
14 ホップの機能性研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	—
15 有機質資源循環利用研究会	◎岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター	12～	飼料生産、土壌作物、生産工学
16 始原生殖細胞 (PGCs) 利用研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、小岩井農牧 (株)	13～	家畜育種
17 里地・里山生物多様性研究会	◎岩手大学人文社会科学部、県立博物館、(社)岩手県植物防疫協会、環境保健研究センター、岩手県農業研究センター	14～	環境保全、病理昆虫
18 硝酸性窒素動態研究会	岩手大学農学部、岩手県立大学総合政策学部、環境保健研究センター、農業普及技術課、◎岩手県農業研究センター	14～	環境保全、土壌作物栄養
19 食品廃棄物の飼料化研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、工業技術センター、◎岩手県農業研究センター	14～	家畜育種、飼料生産

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
20 農業 I T活用研究会	岩手県立大学、八戸工業高等専門学校、農業普及技術課、◎岩手県農業研究センター	15～	農業経営、病理昆虫、土壌作物栄養、環境保全、営農技術

イ AFR 協議会等の開催

開催月日	場 所	内 容
20. 2.18	岩手大学 農学部 第1会議室	AFRシンポジウム ～ 食の知的財産セミナー ～ 「大ヒット商品カゴメ「ラブレ」(飲む漬物)の商品開発と知的財産戦略について」 カゴメ株式会社総合研究所 プロバイオティクス研究部長 矢嶋 信浩 氏 「ライフサイエンス・食品関係の有効な特許権確保のためのテクニックについて」 サイリックス特許事務所 所長弁理士・技術士 前 直美 氏

(11) その他共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
肉用牛における経済形質とDNAマーカーの連鎖解析	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の約300頭からなる半きょうだい家系を作成し、DNAマーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、遺伝的不良形質について、500頭程度の半きょうだいサンプルを追加、原因領域に新たなマーカーの追加等を行い原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜工学
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体

(12) その他産学官連携

名 称	開催月日	場 所	内 容	担当研究室
岩手県産官学連携検討会	年4回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域連携推進センター ※(財)いわて産業振興センター、大学および研究機関における情報交換	企画情報室
いわて産学連携推進協議会(リエゾンI)	年4回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域連携推進センター ※研究シーズと県内企業とのマッチング	企画情報室
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会			事務局：東北農政局 ※産官学の連携強化、先端技術に関する情報提供、異業種・異分野間交流の促進	企画情報室
東北地域バイオインダストリー振興会議(TOBIN)			事務局：東北経済産業局 ※環境・バイオインダストリーに係る調査および情報の収集と提供	企画情報室

## 6 現地試験の実施

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証 (施肥合：いわて純情米総合実証展示圃)	奥州市 金ヶ崎町 奥州市 北上市 花巻市 花巻市 盛岡市 雫石町 八幡平市 九戸村	水沢区佐倉河 永栄 江刺区稲瀬 飯豊 西宮野目 東和町前田 中太田 西安庭 平笠 荒谷	農産部 水田作
水稲奨励品種決定現地調査 (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (有色素米) (飼料用)	雫石町 紫波町 八幡平市 花巻市 西和賀町 奥州市 一関市 遠野市 山田町 陸前高田市 洋野町 二戸市 一関市 一関市	上野 星山 大更 矢沢 沢内前郷 江刺区稲瀬 萩荘 青笹町青笹 豊間根 竹駒町 種市宿戸 安比 花泉町湯島 厳美町	水田作
水田単作地帯において堆肥を有効に活用した発酵粗飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立 (委託プロジェクト：エサプロ4系)	紫波町	片寄	水田作
不良環境地帯向け水稲品種の育成	軽米町 (県北研)	山内	水稲育種
ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証	奥州市 奥州市 花巻市 北上市	江刺区藤里 胆沢区小山 太田 和賀町大槻	生産工学
環境に配慮した農村整備手法の確立	一関市	川崎町門崎	生産工学
水稲における特別栽培農産物等生産技術の安定実証	盛岡市	玉山区巻堀	生産工学
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 奥州市江刺区 花泉町	金田一 内の沢 煙山 小倉沢 金沢	園芸畑作部 果樹
J M 7 台木樹における低樹高仕立て法の確立	北上市 奥州市江刺区	江釣子、口内 玉里、藤里	果樹
りんごわい性台木樹の樹相診断技術の確立	奥州市江刺区	玉里、藤里	果樹

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
東北地域における農薬50%削減リンゴ栽培木樹体系の確立現地実証試験	紫波町	長岡	果樹
果樹園における剪定枝等チップのマルチ利用技術の確立	花巻市大迫町	亀ヶ森	果樹
りんどうこぶ症の発生要因の解明にかかる現地試験	花巻市盛岡市	大迫町 手代森、玉山区 釘平	花き
	八幡平市	吠田、苗代沢、 瀬の沢	
りんどう品種育成にかかる現地調査	花巻市 奥州市 一関市	石鳥谷町北寺林 衣川区楮原 弥栄	花き
麦類奨励品種決定調査（現地調査）	一関市 矢巾町 盛岡市	東山 東徳田 玉山区	野菜畑作 〃 やませ利用
麦類耐寒雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	野菜畑作
大豆奨励品種決定調査（現地調査）	奥州市 滝沢村 二戸市	前沢区 大沢 米沢	野菜畑作 〃 やませ利用
水田大豆の小畦立て播種栽培現地実証試験	花巻市	轟木	野菜畑作
水田小麦の小畦立播種栽培現地実証試験	花巻市	轟木	野菜畑作
東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり技術の体系化現地実証	盛岡市	飯岡	野菜畑作
イチゴ促成栽培における省力的短日処理技術の開発、実証 省力的短日処理技術の現地実証	陸前高田市	米崎町	南部園芸
安全安心な水稻栽培技術の総合実証	盛岡市玉山区 雫石町 奥州市江刺区	巻堀 御明神 稲瀬	<b>生産環境部</b> 環境保全 土壌作物栄養
広域水系における防除体系の変化に伴う水田用農薬動態解明	雫石町	西山	環境保全
環境との調和に配慮した水路の水生生物保全効果の検証	一関市	門崎	環境保全
水稻における特別栽培農産物等生産技術の安定化実証	盛岡市玉山区	巻堀	環境保全 生産工学 土壌作物栄養 病理昆虫
水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料イネ多収生産と良質イネサイレージ生産技術の確立	紫波町	片寄	水田作 土壌作物栄養
バイオガスプラント由来消化液の利用技術の確立	雫石町	上野	土壌作物栄養
りんどうの効率的施肥技術の確立	八幡平市 奥州市	安代 衣川区	土壌作物栄養

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
水稲における特別栽培農産物等生産技術の安定化実証	盛岡市玉山区	巻堀	環境保全 生産工学 土壌作物栄養 病理昆虫
野菜の品質自主管理技術の開発			
生産工程における自主管理手順の開発	奥州市 金ヶ崎町	江刺 西根	保鮮流通技術
収穫・出荷工程における自主管理手順の開発	奥州市 金ヶ崎町	江刺 西根	保鮮流通技術
流通段階における品質保持技術の実証	遠野市	小友	保鮮流通技術
県産野菜のおいしさ評価法の確立			
グリーンアスパラガスの内部成分評価法の確立	北上市 花巻市 一戸町	煤孫 湯本 奥中山	保鮮流通技術
輸出に対応したりんどうの流通技術の開発	西和賀町	沢内	保鮮流通技術
キュウリホモプシス根腐病解決による露地夏秋キュウリ安定生産技術の確立	花巻市×3 地点	糠塚×2、東和 町石鳩岡	<b>病害虫部</b> 病理昆虫 野菜畑作
新農薬の効果検定と防除基準作成	北上市	北上市和賀	
	軽米町 奥州市 奥州市 奥州市 北上市 雫石町	高家 江刺区 衣川区 胆沢区 相去町 御明神	病理昆虫
特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発（水稲）	盛岡市	玉山区巻堀	病理昆虫 環境保全
斑点米カメシ類の発生予察技術の高度化と斑点米被害抑制技術の開発	奥州市 奥州市	江刺区稲瀬 (2地域) 水沢区姉体	病理昆虫
りんごにおける病害虫総合防除技術の開発	紫波町 一関市 金ヶ崎町 奥州市	長岡 巖美町 羽田	病理昆虫
地域特産物における新防除資材の実用化（ブルーベリー）	盛岡市	黒川	病理昆虫
地域特産物における新防除資材の実用化（畑わさび）	岩泉町	田山	病理昆虫
ワサビの総合的作物管理システムの確立	遠野市	宮守町	病理昆虫
新農薬の効果検定と防除基準作成（コナガコンープラス）	八幡平市	刈屋	病理昆虫
新農薬の効果検定と防除基準作成（ラブストップ）	紫波町	東長岡	病理昆虫
新農薬の効果検定と防除基準作成（ナシヒメコン）	花巻市 一関市	東和町 巖美町	病理昆虫



内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
天敵を利用したりんどうハダニ類の効率的防除法の開発	花巻市 奥州市	石鳥谷町 衣川区	病理昆虫
不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付け体系の確立	金ヶ崎町 岩泉町 花巻市		畜産研究所 飼料生産
水田単作地帯において堆厩肥を有効に活用した飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立	紫波町	片寄	飼料生産
発酵TMR飼料の調製並びに乳牛への給与技術の確立	八幡平市		飼料生産
日本短角種の全期粗飼料多給肥育の実証(細断型ロール等を活用したトウモロコシサイレージ多給短角牛の安定生産とブランド確立)	岩泉町	釜津田	家畜育種 飼料生産
豚集団維持の交配支援システムの構築	岩泉町・田野畑村		家畜育種
岩手の鶏遺伝資源を活用した特定 JAS 規格地鶏肉の効率的な生産に係る種鶏開発	大船渡市 一関市		家畜育種
血統・枝肉データを活用した日本短角種全個体情報システムの拡充	岩泉町	釜津田・大川・安家	家畜育種
高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 (1)総合防除技術の確立	一戸町	奥中山	県北農業研究所 産地育成 営農技術
雨よけほうれんそう主要病害虫の耕種的防除法の開発 (2)ホウレンソウケナガコナダニの被害軽減技術の開発	久慈市	山形町岡堀	産地育成
雑穀の高付加価値栽培技術確立	花巻市	石鳥谷町八重畑	営農技術
奨励品種決定現地調査 (小麦)	盛岡市	玉山区下田	やませ利用
奨励品種決定現地調査 (大豆)	二戸市	米沢	やませ利用



### III 試験研究の成果



# 1 試験研究成果

## (1) 平成 19 年度成果数

成果区分	水稻	畑作物	果樹	野菜	花き	畜産	総合	総計
<b>普及(普及に移しうる成果)</b> 農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果	2	3	3	2	2	2	1	15
<b>指導(技術指導に参考となる成果)</b> 普及指導員等の技術指導上の参考として適当と認められる成果	9	7	4	10	6	11	4	51
<b>行政(行政施策等に反映すべき成果)</b> 行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの	8	0	3	4	0	7	3	25
<b>研究(技術開発に有効な成果)</b> 新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの	6	4	5	5	6	8	1	35
計	25	14	15	21	14	28	9	126

## (2) 外部評価結果(集計)

### ア 第1回(平成19年9月、評価対象:2成果)

評価項目	評価基準			
	A	B	C	D
総合評価	3 (37.5%)	5 (62.5%)	0 (0%)	0 (0%)
1 新規性	0 (0%)	6 (75%)	2 (25%)	0 (0%)
2 期待する活用効果	2 (25%)	6 (75%)	0 (0%)	0 (0%)
3 成果内容・表現の的確性	3 (37.5%)	5 (62.5%)	0 (0%)	0 (0%)

※評価基準

1 新規性	A (高い)	B (やや高い)	C (やや低い)	D (低い)
2 期待する活用効果	A (高い)	B (やや高い)	C (やや低い)	D (低い)
3 成果内容・表現の的確性	A (適切)	B (一部見直し)	C (大幅見直し)	D (不適切)

### イ 第2回(平成20年1月、評価対象:61成果)

評価項目	評価基準			
	A	B	C	D
総合評価	196 (81%)	43 (18%)	2 (1%)	0 (0%)
1 新規性	138 (57%)	86 (36%)	17 (7%)	0 (0%)
2 期待する活用効果	168 (68%)	71 (29%)	6 (2%)	0 (0%)
3 成果内容・表現の的確性	197 (82%)	42 (17%)	2 (1%)	0 (0%)

※評価基準 (同上)

### (3) 平成 19 年度成果名及び外部評価結果一覧

【普及(普及に移しうる成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)[※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当 研究室	総合評価			
				A	B	C	D
水稲	H19-普-01	水稲湛水直播栽培の出穂期予測と収穫適期中の拡大	水田作	2	1	1	0
	H19-普-02	平成 20 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に採用した水稲除草剤	水田作	—	—	—	—
畑作物	H19-普-03	品種 倒伏に強く褐斑粒の発生が少ない 納豆用大豆「すずほのか」	野菜畑作	4	0	0	0
	H19-普-04	水田大豆の小畦立て播種栽培の導入効果	野菜畑作	4	0	0	0
	H19-普-05	小麦赤かび病の防除適期	病理昆虫	3	1	0	0
果樹	H19-普-06	品種 りんご 9月下旬に成熟する着色良好な赤色品種「岩手7号」	果樹	2	2	0	0
	H19-普-07	りんご「シナノゴールド」の収穫適期判断	果樹	3	1	0	0
	H19-普-08	平成 20 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に新たに採用した除草剤	果樹	—	—	—	—
野菜	H19-普-09	イチゴ「北の輝」秋春二期どり作型で採苗効率を向上する2回採苗法	野菜畑作	3	1	0	0
	H19-普-10	畑わさびにおけるナトビハムシの生態と薬剤防除	病理昆虫	3	1	0	0
花き	H19-普-11	グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウによる農地法面の植生管理	生産工学	3	1	0	0
	H19-普-12	品種 りんどう 新盆出荷可能な「極々早生6」	花き	3	0	0	0
畜産	H19-普-13	品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「LG3520(スノーデント110)」	飼料生産	4	0	0	0
	H19-普-14	品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ中生品種「34B39(パイオニア115)」	飼料生産	4	0	0	0
総合	H19-普-15	平成 20 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に新たに採用した殺菌剤と殺虫剤	病理昆虫	—	—	—	—

## 【指導(技術指導に参考となる成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)[※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当 研究室	総合評価			
				A	B	C	D
水稲	H19-指-01	スルホニルウレア系除草剤抵抗性イヌホタレイの防除に有効な成分を含む水稲除草剤の効果	水田作	3	1	0	0
	H19-指-02	平成19年収穫直前の冠水被害による水稲玄米品質の特徴	水田作	3	1	0	0
	H19-指-03	平成19年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作	—	—	—	—
	H19-指-04	トリコデルマ・アトロビリデ水和剤(商品名:エコホープDJ)の効果的な使用方法	病理昆虫	—	—	—	—
	H19-指-05	オリサストロビン粒剤のは種前床土混和およびは種時覆土前散布のいもち病に対する効果的な使用方法	病理昆虫	—	—	—	—
	H19-指-06	メトミノストロビン剤 250 グラムの省力散布による穂いもちに対する防除効果(追補)	病理昆虫	4	0	0	0
	H19-指-07	岩手県におけるカスガマイシン耐性もみ枯細菌病菌の発生	病理昆虫	—	—	—	—
	H19-指-08	アカスジカスミカメ越冬世代幼虫の密度低減に効果的な草刈時期	病理昆虫	4	0	0	0
畑作物	H19-指-09	大豆生育期の広葉雑草を対象とした除草剤の特徴	野菜畑作	2	2	0	0
	H19-指-10	平成19年における大豆の冠水等被害の実態	野菜畑作	3	1	0	0
	H19-指-11	白いんげんの安定栽培法	野菜畑作	3	1	0	0
	H19-指-12	アワノメイガの被害を考慮したアワの適正播種量及び作期	営農技術	4	0	0	0
	H19-指-13	早期培土を基本とした機械除草体系はキビにも適用できる	営農技術	4	0	0	0
	H19-指-14	生物農薬「BT 水和剤」を用いたアワノメイガ防除	営農技術	4	0	0	0
	H19-指-15	畑栽培雑穀(ヒエ・アワ・キビ)の発酵鶏ふんを利用した無化学肥料栽培	やませ利用	3	1	0	0
果樹	H19-指-16	J M 7 台木利用りんご樹の衰弱症状における樹勢回復法	果樹	2	2	0	0
	H19-指-17	授粉専用品種の「ふじ」への高接ぎによる結実向上効果	果樹	1	3	0	0
	H19-指-18	ブルーベリーの新病害「ハルデンシア葉枯病」の発生	病理昆虫	2	2	0	0
野菜	H19-指-19	寒締めほうれんそうに含まれる成分と食味評価	保鮮流通技術	1	3	0	0
	H19-指-20	示差屈折計を用いた寒締めほうれんそうの品質評価	保鮮流通技術	2	2	0	0
	H19-指-21	促成アスパラガス根株の養成年数に応じた最適な堀取り時期	野菜畑作	3	1	0	0
	H19-指-22	着果調整による雨よけトマトの秋期増収効果と盛夏期収穫作業の軽減	南部園芸	3	1	0	0
	H19-指-23	夜冷短日処理と窒素追肥によるいちご促成前進作型の年内収量向上技術	南部園芸	3	1	0	0
	H19-指-24	キュウリホモプシス根腐病防除を目的としたクロロピクリンくん蒸剤(商品名:ク ロロピクリン錠剤)の畦立てマルチャーを用いた簡便な処理方法	病理昆虫	3	1	0	0
	H19-指-25	ピーマン及びトマト雨よけ普通栽培における化学肥料削減技術	土壌作物栄養	3	1	0	0
	H19-指-26	TPI(Tissue Printing Immunoassay)法によるキュウリホモプシス根腐病の簡易診断	病理昆虫	3	1	0	0
	H19-指-27	ビニール被覆処理によるほうれんそうのケナガコナダニ類の被害軽減技術	産地育成	3	1	0	0
	H19-指-28	レタス腐敗性病害の耕種的防除法	産地育成	2	2	0	0
花き	H19-指-29	ビブルナムオプラス「スノーボール」の切り枝促成技術	花き	3	0	0	0
	H19-指-30	固化培地育苗または直まきによるスターチスの高品質、多収生産技術	南部園芸	2	1	0	0
	H19-指-31	籾殻を利用したりんどうコンテナ促成栽培用培地の軽量化	土壌作物栄養	2	1	0	0
	H19-指-32	施設花きに発生するインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の発 生源と重点防除時期	病理昆虫	3	0	0	0
	H19-指-33	岩手県内に発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の分 子系統解析に基づく伝搬経路の推定	病理昆虫	3	0	0	0
	H19-指-34	リンドウのカンザワハダニに対する各種殺ダニ剤の残効性	病理昆虫	3	0	0	0

分野	成果番号	成果名	担当 研究室	総合評価			
				A	B	C	D
畜産	H19-指-35	そばくずとオカラを混合したサイレージは豚の肥育飼料として有効である	家畜育種	4	0	0	0
	H19-指-36	南部かしわ(K系)の配合飼料給与時の発育モデル	家畜育種	3	1	0	0
	H19-指-37	南部かしわに対するソバクズ+オカラサイレージの給与法	家畜育種	4	0	0	0
	H19-指-38	三陸地鶏の発育及び産肉成績	家畜育種	4	0	0	0
	H19-指-39	黒毛和種去勢育成牛への TMR 給与におけるサイレージの利用	外山畜産	4	0	0	0
	H19-指-40	過剰卵卵処理方法の改善による正常胚数と A ランク胚数の向上	種山畜産	4	0	0	0
	H19-指-41	黒毛和種子牛市場における育種価、産次表示と子牛、枝肉成績との関連	種山畜産	4	0	0	0
	H19-指-42	汎用型飼料収穫機の飼料用トウモロコシ収穫における作業性能	飼料生産	4	0	0	0
	H19-指-43	飼料用トウモロコシ不耕起栽培の収量性	飼料生産	4	0	0	0
	H19-指-44	自給飼料主体発酵 TMR の季節別の開封利用時期	飼料生産	4	0	0	0
	H19-指-45	ホールクロップサイレージ用稲の雑草ヒエ混入割合に対応した刈取許容範囲	水田作	3	1	0	0
	総合	H19-指-46	里地・里山生き物データベースシステム(公開版)	環境保全	2	3	0
H19-指-47		里地・里山の生き物紹介	環境保全	4	1	0	0
H19-指-48		水田・水路の生き物調査手引き(ver. 1)	環境保全	4	1	0	0
H19-指-49		バイオガスプラント由来消化液の飼料作物及び耕種作物への利用効果	飼料生産	4	0	0	0
水稻	H19-指-50	温湯消毒済み種子を循環式ハトムネ催芽器で催芽するとばか苗病の発生が多くなる	病理昆虫	—	—	—	—
果樹	H19-指-51	県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤感受性実態	病理昆虫	—	—	—	—



## 【行政(行政施策等に反映すべき成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)[※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当 研究室	総合評価			
				A	B	C	D
水稲	H19-行-01	平成20年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統	水田作	—	—	—	—
	H19-行-02	平成19年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	水田作	—	—	—	—
	H19-行-03	平成20年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種	—	—	—	—
	H19-行-04	新形質米品種「岩手紫76号」、「岩手酒79号」、「岩手80号」、「岩手香84号」、「岩手巨胚87号」	水稲育種	—	—	—	—
	H19-行-05	田畑輪換のための新たな暗渠排水・地下かんがい工法の評価	生産工学	3	0	1	0
	H19-行-06	寒冷地における土壌硬化剤マグホワイトの利用事例	生産工学	3	1	0	0
	H19-行-07	防除体系等の変化に伴ういもち病防除剤の水系負荷変動	環境保全	3	2	0	0
果樹	H19-行-08	果物の品目別需要・供給動向	農業経営	—	—	—	—
	H19-行-09	本県産りんごの競争ポジショニング分析と対応方向	農業経営	—	—	—	—
	H19-行-10	本県産おうとうの生産拡大の可能性	農業経営	—	—	—	—
野菜	H19-行-11	家計調査から見た野菜品目別需要動向	農業経営	—	—	—	—
	H19-行-12	契約取引の強化に向けた鹿児島経済連の生産販売戦略	農業経営	—	—	—	—
	H19-行-13	業務用野菜の生販一体型の経営モデル	農業経営	—	—	—	—
	H19-行-14	ITを駆使した先進的農業生産法人のビジネスモデル	農業経営	—	—	—	—
畜産	H19-行-15	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種	—	—	—	—
	H19-行-16	日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	家畜育種	—	—	—	—
	H19-行-17	黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産	—	—	—	—
	H19-行-18	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産	—	—	—	—
	H19-行-19	黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績	種山畜産	4	0	0	0
	H19-行-20	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産	4	0	0	0
	H19-行-21	乳頭数不足の主要原因遺伝子の排除のためのDNAマーカー診断の精度とその産肉能力への影響について	家畜工学	4	0	0	0
総合	H19-行-22	家計調査品目別需要動向分析シート	農業経営	—	—	—	—
	H19-行-23	農業産出額の推移の地域的特徴と本県農業の目指すべき方向	農業経営	—	—	—	—
	H19-行-24	集落営農組織カルテ・データベース	農業経営	—	—	—	—
水稲	H19-行-25	箱施用剤を使用した水稲育苗跡地におけるホウレンソウへの農薬残留	環境保全	—	—	—	—

【研究(研究開発に有効な成果)】

(※「研究」区分については、外部評価対象外)

分野	成果番号	成果名	担当 研究室	総合評価			
				A	B	C	D
水稲	H19-研-01	水稲品種「どんぴしゃり」の多収要因	水田作	-	-	-	-
	H19-研-02	水稲湛水直播栽培の土壌中窒素動態と生育	水田作	-	-	-	-
	H19-研-03	水稲糯品種の玄米を種子とした育苗方法(非公表)	水田作	-	-	-	-
	H19-研-04	水稲品種の低温発芽性および低温出芽性評価	水稲育種	-	-	-	-
	H19-研-05	岩手県の水稲主力品種における二段乾燥の効果と休止時間の短縮	生産工学	-	-	-	-
	H19-研-06	水稲湛水直播栽培における落水管理向上のための作溝機構の開発(非公表)	生産工学	-	-	-	-
畑作物	H19-研-07	えだまめ用品種「ちゃげ丸」の大豆(乾燥子実)用としての特性	野菜畑作	-	-	-	-
	H19-研-08	アワノメイガの寄生性天敵	病理昆虫	-	-	-	-
	H19-研-09	平成19年度ヒエ育成系統(短稈・低アミロース系統、糯系統)	やませ利用	-	-	-	-
	H19-研-10	平成19年度アワ育成系統(草型改良系統、短稈系統)	やませ利用	-	-	-	-
果樹	H19-研-11	DNA マーカーを利用したリンゴ根頭がんしゅ病菌検出法の精度向上	応用生物工学	-	-	-	-
	H19-研-12	りんごわい性台木「青台3」の特性(非公表)	果樹	-	-	-	-
	H19-研-13	剪定枝粉碎機の特徴と作業特性	果樹	-	-	-	-
	H19-研-14	ぶどう短梢栽培用平棚を利用した「紅伊豆」の栽培	果樹	-	-	-	-
	H19-研-15	8月の薬剤選択がリンゴすす斑病の9月の感染量に及ぼす影響	病理昆虫	-	-	-	-
野菜	H19-研-16	LAMP 法による根の磨砕液からのキュウリホモブシス根腐病菌の検出(非公表)	応用生物工学	-	-	-	-
	H19-研-17	有機質資材がほうれんそうのケナガコナダニ類被害に及ぼす影響	環境保全	-	-	-	-
	H19-研-18	土壌 pH 調整によるほうれんそうの地上部カドミウム濃度低減効果(非公表)	環境保全	-	-	-	-
	H19-研-19	グリーンアスパラガスに含まれる糖やアミノ酸	保鮮流通技術	-	-	-	-
	H19-研-20	土壌表面の水分保持によるほうれんそうのケナガコナダニ類の被害軽減の可能性	産地育成	-	-	-	-
花き	H19-研-21	りんどうこぶ症の発症に病原体が関与する可能性(追補)	花き	-	-	-	-
	H19-研-22	りんどうこぶ症の外観的症状の発現特徴	花き	-	-	-	-
	H19-研-23	小ぎく「アイマム」シリーズに対する簡便な作期遅延技術	花き	-	-	-	-
	H19-研-24	りんどう鉢物品種有望系統の特性	花き	-	-	-	-
	H19-研-25	りんどうの株養成期間における全量基肥1回施肥2年栽培法の可能性	土壌作物栄養	-	-	-	-
	H19-研-26	切り花りんどうのエチレン生成とその感受性及び呼吸量	保鮮流通技術	-	-	-	-
畜産	H19-研-27	乾乳時乳量の差異による乳房炎新規感染への影響	家畜飼養	-	-	-	-
	H19-研-28	泌乳牛への破砕処理・黄熟後期トウモロコシサイレージ多給による自給飼料利用の向上	家畜飼養	-	-	-	-
	H19-研-29	トウモロコシサイレージ給与期を変えた日本短角種の肥育特性	家畜育種	-	-	-	-
	H19-研-30	和牛子牛の発育に哺乳回数の制限が与える影響	外山畜産	-	-	-	-
	H19-研-31	調製方法の違いが発酵 TMR の品質に及ぼす影響	飼料生産	-	-	-	-
	H19-研-32	初期 G1 期体細胞と融合 2 時間前に活性化した卵子を用いたクローン胚の発生改善と受胎性	家畜工学	-	-	-	-
	H19-研-33	高 DIP 飼料が繁殖機能に及ぼす影響と重曹製剤の子宮内 pH 改善効果	家畜工学	-	-	-	-
	H19-研-34	直接移植が可能な超急速ガラス化保存によるウシ低ランク胚の生存性	家畜工学	-	-	-	-
総合	H19-研-35	フラットベッドスキャナを用いた簡易土壌分析システムの開発(追補)	土壌作物栄養	-	-	-	-

## 2 追跡評価

### (1) 評価対象

平成16年度に公表した普及区分の研究成果を対象とする。ただし、次に該当するものを除く。

ア 既に、成果の目的を達成し、現在では有効性がない成果

イ 本庁各室課が定める要綱・要領等に基づき検討されている成果

〔農作物奨励品種等の決定及び改廃に関する要綱（奨励品種等）、岩手県農作物病害虫・雑草防除指針作成要領（農薬の採用及び使用上の留意点等）、いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会設置要領及び日本短角種集団育種推進事業推進協議会設置要領（種雄牛の作出）〕

### (2) 評価者

中央農業改良普及センター（県域）

### (3) 評価方法

ア 成果の農家への普及状況とその効果について、4段階で評価する。

【評価基準】 A：目標の75% B：75%未満～50% C：50%未満～25% D：25%未満

イ 基準となる評価項目または目標数値は、成果を主査する研究室において別途定める。

### (4) 追跡評価結果

普及状況 \ 効果	A	B	C	D	総計
A	7	0	0	0	7
B	0	2	0	0	2
C	0	0	0	0	0
D	1	0	0	2	3
総計	8	2	0	2	12

### (5) 追跡評価に係る主となる評価項目と目標値

番号	成果名	評価項目または目標数値	現在値
1	<H16-普-06>小麦品種「ゆきちから」の目標生育量と栽培法	H19 産ゆきちから栽培面積 200ha	H19 産播種栽培面積 251ha
2	<H16-普-07>冬期播種栽培によりコムギ 縞萎縮病の発生を抑制できる	(1)H19 対策実施面積 300ha (2)技術の効果が期待通り発揮されるか	(1)H19 播種面積 23.8ha (2)うち縞萎縮病対策を目的 約2割
3	<H16-普-09>冷めてもおいしい在来ひえ系統「もじゃっぺ」	H19 もじゃっぺ栽培面積 50ha	H19 栽培面積 0.8ha
4	<H16-普-10>「葉とらずりんご」の樹体構成法	「葉とらずりんご」の (1)産地数の増加 (2)生産者数の増加 (3)生産量の増加 (いずれも基準年はH16年度)	【調査年次 H16 → H19】 (1)産地数 2 → 2 (2)生産者数 14 → 12 (3)生産量(t) 70.9 → 63.6
5	<H16-普-11>「葉とらずりんご」の着色管理における玉回し作業の省力効果	「葉とらずりんご」の (1)生産者数の増加 (2)生産量の増加 (3)上位等級の増加 (いずれも基準年はH16年度)	【調査年次 H16 → H19】 (1)産地数 2 → 2 (2)生産者数 14 → 12 (3)上位等級率(%) 64 → 64
6	<H16-普-13>りんご「黄香」の交雑和合性	(1)主な導入園における品種構成が適正か否か (2)果実肥大、種子数が優良か否か(定点調査等)	(1)概ね適正(各普及センターからの聞き取り調査) (2)優良(北上市定点ほ場肥大 つがる 92.4mm、黄香 93.3mm)
7	<H16-普-16>セルラゼを利用し搾汁率を高めたリンゴジュースの製造法	リンゴジュース販売量 8,220リットル(48,370本/170cc)	H16年4月からこれまでの販売数量 4,500本(765リットル) 販売数量が上向かないことから H18年度から製造中止
8	<H16-普-17>リンゴ炭疽病に対する幼果期防除の有効性	H19年リンゴ炭そ病発生面積(H16発生面積 1,017ha)	H19年炭そ病発生面積：10ha

番号	成果名	評価項目または目標数値	現在値
9	〈H16-普-20〉レタスにおけるナガリハエの加害生態と防除方法	高冷地レタス栽培地域における防除対策実施状況	230 h a (J Aいわて奥中山管内レタス栽培面積)
10	〈H16-普-24〉小ぎく「アイムシリーズ」に対するエテホン処理による開花調節効果	H19年普及面積 60a	成果として出されたアイム3品種(パールレッド、アーリーホワイト、アーリーイエロー)の19年度栽培面積 228 a うちエテホン処理実施面積 約60 a
11	〈H16-普-27〉ホルクropp サイレーン用イネ栽培における地耐力確保法と収穫体系別の特徴	H19年ホルクropp サイレーン用イネ栽培面積 165ha	参考) H19WCS 栽培面積: 163.1ha ※この目標値では評価は行っていない。
12	〈H16-普-28〉品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「LG3457(ニューテント100日)」	H19年LG3457 栽培面積 50ha	当該品種の県内種子流通量 2,036kg 同 作付面積 81.4ha

### 3 東北農業試験研究成果

#### <研究成果情報>

##### (1) 研究成果数

推進部会名	作物	基盤技術	畜産	果樹	野菜花き	流通・加工	計
研究成果数	3	3	2	1	9	1	19

##### (2) 研究成果名

推進部会名	部会 No.	成 果 名	分 類	主査研究室
作物 (稲栽培) (夏畑作物)	8	ホールクローブサイレージ用稲にノビエが多く混入した場合の刈取時期	技術・参考	水田作 飼料生産
	15	湿害回避により水田大豆の増収をはかる小畦立て栽培	技術・普及	野菜畑作
	18	岩手県における白インゲンマメ(手亡)の栽培特性	技術・参考	野菜畑作
基盤技術(病害) (作業技術)	16	岩手県内で広域的に発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の地域内および圃場内における個体群構造	研究・参考	病害虫部 園芸畑作部
	26	早期培土を基本としたキビの機械除草体系	技術・参考	営農技術
	27	グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウによる農地法面の植生管理	技術・参考	生産工学
畜産	3	そばくずとオカラを混合したサイレージは豚の肥育飼料として有効である	技術・参考	家畜育種
	4	自給飼料主体発酵 TMR の貯蔵期間と生菌数	技術・参考	飼料生産
果樹	6	JM7 台利用樹の衰弱症状における年輪異常発生年の特定と樹勢回復法	技術・普及	果樹
野菜花き(野菜) (花き)	3	促成アスパラガス根株の養成年数に応じた最適な掘り取り時期	技術・普及	野菜畑作
	4	イチゴ「北の輝」秋春二期どり作型で採苗効率を向上させる2回採苗法	技術・普及	野菜畑作
	5	夜冷短日処理と窒素追肥によるイチゴ超促成作型の年内収量向上技術	技術・普及	南部園芸
	6	着果調整による夏秋雨よけトマトの盛夏期収穫量の抑制と秋期増収	技術・参考	南部園芸
	7	圃場環境の改善によるレタスすそ枯病、軟腐病および灰色かび病の軽減技術	技術・参考	営農技術
	28	7月上旬出荷可能なリンドウ「極々 早生6」の品種特性	技術・普及	花き
	29	リンドウこぶ症の接ぎ木伝染性の確認	研究・参考	花き 病理昆虫 応用生物工学
	30	切り花リンドウの呼吸量とエチレン感受性	研究・参考	保鮮流通技術
流通・加工	31	固化培地育苗、直まきによるスターチスの高品質生産	技術・参考	南部園芸
	1	寒締めほうれんそうに含まれる糖含量と簡易測定法	技術・普及	保鮮流通技術



## IV 試験研究成果の発表





# 1 試験成績書等刊行物

資料番号	表題名	発行年月	ページ数
<b>企画経営情報部</b>			
経営 19-No. 1	家計調査品目別需要動向分析シート ～総務省統計局ホームページ公表データを活用した分析シート～	19. 5	36
経営 19-No. 2	家計調査から見た野菜品目別需要動向 ～家計調査品目別需要動向分析シートの活用による～	19. 5	127
経営 19-No. 3	農業産出額の推移の地域的特徴とと本県農業の目指すべき方向 ～都道府県別社会経済条件、農業構造、農業産出額の分析から～	19. 5	21
経営 19-No. 4	契約取引の強化に向けた鹿児島県経済連の生産販売戦略 ～農業法人、アグリタウンの設置による契約栽培の体制整備～	19. 5	15
経営 19-No. 5	業務用野菜の生販一体型の経営モデル ～宮崎県における農業生産法人と加工会社の事例調査から～	19. 5	15
経営 19-No. 6	I Tを駆使した先進的農業生産法人のビジネスモデル ～圃場毎の経営管理と出荷後の品質管理による業務用野菜の生産と販売～	19. 5	21
経営 19-No. 7	果物の品目別需要・供給動向 ～家計調査、東京都中央卸売市場統計、果樹生産出荷統計等の分析～	19. 9	82
経営 19-No. 8	本県産りんごの競争ポジショニング分析と対応方向 ～第1報 統計分析編～	19. 9	54
経営 19-No. 9	本県産おうとうの生産拡大の可能性 ～需要供給動向と収益性、気象条件の分析から～	19. 9	29
経営 19-No.10	集落営農組織カルテ・データベース	19.11	10
経営 19-No.11	平成 19 年試験研究成績書	20. 3	195
<b>農産部</b>			
農産 19-No. 1	平成 18 年度試験成績書（水田作研究室）	19. 4	276
農産 19-No. 2	平成 19 年度水稻関係除草剤試験成績書（適 2 試験）	19.10	64
農産 19-No. 3	平成 18 年度水稻新品種育成試験成績書（水稻育種研究室）	19.12	167
農産 19-No. 4	平成 17 年度試験成績書（応用生物工学研究室）	20. 2	134
農産 19-No. 5	水稻原種・原原種生産マニュアル	20. 3	39
農産 19-No. 6	平成 19 年度試験成績書（水田作研究室）	20. 3	318
<b>園芸畑作部</b>			
園畑 18-No. 4	平成 18 年度 花き試験成績書（花き研究室）	20. 3	54
園畑 18-No. 1	平成 18 年度 果樹試験成績書（果樹研究室）	20. 3	204
園芸 18-No. 5	平成 18 年度 試験成績書（南部園芸研究室）	20. 3	48
<b>生産環境部</b>			
環境 19-No. 1	平成 18 年度 試験研究成績書（保鮮流通技術研究室）	19. 5	115
<b>畜産研究所</b>			
畜産 19-No.1	試験成績書(畜産研究所)	20. 3	105
<b>県北農業研究所</b>			
県北 18-No. 1	平成 18 年度 営農技術研究室試験研究成績書	19. 4	135
県北 18-No. 2	平成 18 年度 産地育成研究室試験研究成績書	20. 3	120
県北 18-No. 3	平成 18 年度 やませ利用研究室試験研究成績書	20. 3	120
県北 19-No. 1	平成 19 年度 営農技術研究室試験研究成績書	20. 3	140

## 2 研究レポート（平成 19 年度発行分）

No.	タイトル	担当研究室
368	水稻品種「どんびしゃり」の栄養診断基準	水田作
369	りんご「黄香」の表面色カラーチャートの作成と収穫適期判断	果樹
370	リンゴ斑点落葉病をうまく防除するコツは、6 月下旬の薬剤選択	病理昆虫
371	雨よけほうれんそうの「とろけ」発生の要因と対策	保鮮流通技術
372	雨の影響を考慮した農作業計画の策定を応援します！	生産工学
373	農産物入りミルクジャムの新製造法	保鮮流通技術
374	堆肥を利用した減化学肥料栽培におけるいもち病の被害発生リスクは化学肥料栽培と比較し増大しない	環境保全
375	ひとめぼれの玄米タンパク質含有率を葉色から推定	土壌作物栄養
376	水稻品種「どんびしゃり」の穂いもち防除の省略	病理昆虫
377	ナンブコムギの冬期播種栽培における窒素施肥法	野菜畑作
378	ナンブコムギの冬期播種栽培における病害・雑草防除	野菜畑作
379	黒豆の極小粒品種「黒千石」の安定生産をねらうには	野菜畑作
380	JM7 台利用りんご樹の衰弱症状における年輪褐変年の特定と樹勢回復法	果樹
381	りんごの開花予測に係る定数計算プログラムの開発	果樹
382	5～6 月の薬剤選択によるリンゴ病害の総合防除体系	病理昆虫
383	芳醇なマスカット香 「シャインマスカット」	果樹
384	ブルーベリーの優良品種の選定	果樹
385	キュウリホモプシス根腐病の土壌消毒を成功させるポイント	病理昆虫
386	夏秋トマト不織布ポット栽培の特性	野菜畑作
387	夏秋トマト葉かび病耐病性品種「桃太郎なつみ」の特性	南部園芸
388	イチゴ低温カット栽培に適する高設栽培槽と施肥法	南部園芸
389	促成アスパラガスの根株掘り取り早限	野菜畑作
390	ナミテントウを利用した水わさびのアブラムシ類防除	病理昆虫
391	岩手県オリジナルりんどう F1 品種採種用親系統の組織培養による維持・増殖システム	応用生物工学
392	りんどうハダニ類の薬剤感受性の実態	病理昆虫
393	フラットベッドスキャナを用いた簡易土壌分析システムの開発	土壌作物栄養
394	集落営農組織化効果試算シート	農業経営
395	イネいもち病圃場抵抗性遺伝子の集積によるいもち病抵抗性の向上	水稻育種
396	多機能性新規ベリー、オビルピーハの生態および根粒着生	果樹
397	A4 菌によりおい化させたりんどう「ボラーノブルー」の特性評価	花き
398	りんどう「こぶ症」の原因がほ場畦畔に存在する可能性	花き
399	平成 19 年度に指定した飼料用トウモロコシ優良品種	飼料生産
400	平成 19 年度に指定したソルガム優良品種「東山交 29 号」	飼料生産
401	TMR を夕方給餌することで暑熱ストレスを緩和	家畜飼養
402	正常卵率向上のための飼料給与プログラムと血液検査指標値	家畜工学
403	OVSYNCH 変法による定時人工授精と胚移植技術	外山畜産
404	細断型ロールベアラを活用した発酵 TMR 調製技術	飼料生産
405	トウモロコシサイレージを主体とした日本短角種の肥育全期間粗飼料多給技術	家畜育種
406	飼料用トウモロコシへの牛の未熟たい肥および完熟たい肥を利用時の留意点	飼料生産
407	アワ栽培における早期培土を基本とした機械除草体系	営農技術
408	水田用ヒエ「達磨」は苗から本田まで無化学肥料で栽培できます	やませ利用
409	小ぎく「アイمامパープルレッド」および「アイمامアーリーホワイト」は県北地域において旧盆需要期出荷が可能です	産地育成
410	ホウレンソウ萎凋病に対するカラシナすき込み効果	産地育成
411	インターネットを活用した農業技術体系データベース・システム	農業経営
412	寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術（追補：品種「朝霧」）	産地育成

### 3 岩手県農業研究センター研究報告

第8号（平成20年3月発行）

区分	表題名	著者氏名	現所属
報文	秋播性コムギの冬期播種栽培に関する研究 （岩手大学大学院連合農学研究科博士論文）  オビルピーハの生態および根群・根粒形成	荻内謙吾	岩手県農業研究センター
		大野浩	岩手県農業研究センター
		紺野直	陸前高田市総合営農指導センター
		金野廣悦	陸前高田市総合営農指導センター
		佐々木仁	岩手県立農業大学校
		金浜耕基	東北大学大学院農学研究科
要報	液状コンポストの成分特性及びその利用法	松浦拓也	岩手県農業研究センター
		高橋好範	中央農業改良普及センター
		折坂光臣	岩手県農業研究センター

#### 4 学会等研究報告

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
<b>企画経営情報部</b>					
農業経営	前 山 薫	近畿中国四国農業試験研究推進会議「営農推進部会」	19. 7. 26	集落営農合意形成のための「集落営農組織化効果試算シート」の開発	近畿中国四国農研農業経営研究, 第 17 号, 1-11, 2007. 11
	前 山 薫	東北農業経済学会	19. 8. 23	岩手県における集落営農の現状と課題～品目横断的経営安定対策加入組織を対象として～	第 43 回東北農業経済学会岩手大会報告要旨, -, 19-28, 19. 8
	前 山 薫 他	農業環境工学関連学会 2007 年合同大会	19. 9. 14	農業技術体系データベースと連動する営農計画試算ツール FSDBout の開発と活用例	農業環境工学関連学会 2007 年合同大会講演要旨集, -, CD-ROM(2007), 19. 9
<b>農産部</b>					
水田作	日 影 勝 幸 他	日本作物学会東北支部会	19. 8. 21	水稲湛水直播栽培と移植栽培の食味関連成分の比較	日本作物学会東北支部会報, 50 巻, 123-114, 19. 12
	及 川 あ や 他	日本作物学会	20. 3. 27	出穂期の窒素追肥が背白粒の発生とその動態に及ぼす影響	日本作物学会紀事, 第 77 号(別号 1), 146-147, 20. 3
	日 影 勝 幸 他	東北農研研究報告研究資料	20. 3	岩手県における水稲湛水直播栽培の収量及び食味品質関連形質	東北農研センター研究報告, No. 109, 49-54, 20. 3
	高 橋 政 夫	日本雑草学会	20. 4. 19 ～4. 20	岩手県における水田多年生雑草ウキヤガラの発生について	雑草研究, 第 53 巻別号, 30, 20. 3
	高 橋 政 夫 他	東北雑草研究	—	大区画水田で省力的な方法で散布した除草剤の成分の拡散と除草効果	東北の雑草, 第 7 号, 11-16, 20. 8
水稲育種	高草木 雅 人 他	日本作物学会東北支部会	19. 8. 21	ヒエの冬期世代促進のための日長処理効果と好適播種密度	日本作物学会東北支部会報, 50 巻, 139-140, 19. 12
生産工学	豊 坂 光 弘 他	第 50 回東北農業試験研究発表会	19. 7. 19	カワニナの生息環境に配慮した水路改修手法の事例	東北農業研究, 60, 41-42, 19. 12
	大 里 達 朗 伊 藤 勝 浩 他	農業機械学会東北支部大会平成 19 年度研究発表会	19. 8. 7	降水量から見た作業可能日数率算定支援シートの作成	農業機械学会東北支部報, 54, 47, 19. 12
<b>園芸畑作部</b>					
果樹	高 橋 司 他	第 50 回東北農業試験研究発表会	19. 7. 19	りんごわい性樹に対する授粉専用品種の高接ぎによる結実向上効果	東北農業研究, 60, 146-144, 19. 12

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
野菜畑作	大 野 浩 他	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	DTSによるりんご開花予測シ ステムの定数改定による予測 精度の向上	東北農業研究, 60, 149-150, 19. 12
	小 野 浩 司 他	東北農業試験研 究推進会議	20. 1. 21 ～1. 22	J M7 台木利用樹の衰弱症状に おける年輪異常発生年の特定 と樹勢回復法	平成 19 年度東北農業研 究成果情報, 印刷中
	畠 山 隆 幸 他	平成 19 年度寒 冷地果樹研究会	20. 1. 28 ～1. 29	リンゴ 育成系統 '岩手 7 号' の特性	寒冷地果樹試験成績概 要集(栽培), -, -, 20. 1
	小 野 浩 司 他	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 6 ～2. 8	スピードスプレーヤ(SS)防除 における散布条件が病害虫防 除効果に及ぼす影響	北日本病害虫研究会 報, 59, 印刷中
	小 野 浩 司 他	平成 19 年度農 業機械開発改良 試験研究会議	20. 3. 7	果樹園におけるりんご剪定枝 等利用技術の確立 スピードスプレーヤ用ドリフト 低減ノズルのドリフト低減効果	口頭発表
	井 村 裕 一 他	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	大豆「早生黒千石」の栽培特性	東北農業研究, 60, 67-68, 19. 12
	高 橋 大 輔 伊 藤 信 二 他	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	岩手県におけるインゲンマメ (手亡類)の栽培時期の違いが 生育・収量に及ぼす影響	東北農業研究, 60, 55-56, 19. 12
	高 橋 昭 喜 他	東北農業試験研 究推進会議	20. 1. 28 ～1. 29	湿害回避により水田大豆の増 収をはかる小畦立て栽培	平成 19 年度東北農業研 究成果情報, 印刷中
	高 橋 昭 喜	東北雑草研究会 (日本雑草学会 東北支部会)	—	手取り除草をせずに除草がで きるかー雑穀栽培における'土 入れ'を基本とした機会除草技 術の開発ー	東北の雑草, 第 7 号, 39-46, 20. 8
	山 口 貴 之 他	東北農業試験研 究推進会議	20. 1. 28 ～1. 29	促成アスパラガス根株の養成 年数に応じた最適な掘り取り 時期	平成 19 年度東北農業研 究成果情報, 印刷中
	山 口 貴 之 他	園芸学会平成 20 年春季大会	20. 3. 28 ～3. 29	根株養成期間の違いが伏せこ み栽培のアスパラガス萌芽に与 える影響	園芸学研究, 第 7 号(別 冊 1), 156, 20. 3
	山 口 貴 之	園芸学会平成 20 年春季大会第 9 回ウリ科作物研 究小集会	20. 3. 27	東北地域におけるキュウリホモ ブシス根腐病の現状と防除法	口頭発表
	高 橋 拓 也 他	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	不織布ポットを利用した夏秋 トマト栽培において多かん水が 収量・品質に与える影響	東北農業研究, 60, 173-174, 19. 12
高 橋 拓 也	東北農業試験研 究推進会議	20. 1. 28 ～1. 29	イチゴ「北の輝」秋春二期どり 作型で採苗効率を向上させる 2 回採苗法	平成 19 年度東北農業研 究成果情報, 印刷中	

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
花き	千 葉 賢 一 他	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 6 ～2. 8	りんどう「こぶ症」の接ぎ木伝染 性の確認	北日本病害虫研究会 報, 第 59 号, 印刷中
南部園芸	藤 尾 拓 也 他	東北農業試験研 究推進会議	20. 1. 28 ～1. 29	夜冷短日処理と窒素追肥によ るイチゴ超促成作型の年内収 量向上技術	平成 19 年度東北農業研 究成果情報, 印刷中
	佐 藤 弘 他	東北農業試験研 究推進会議	20. 1. 28 ～1. 29	着果調整による夏秋雨よけト マトの盛夏期収穫量の抑制と 秋期増収	平成 19 年度東北農業研 究成果情報, 印刷中
	志 田 たつ子 他	東北農業試験研 究推進会議	20. 1. 28 ～1. 29	固化培地育苗、直まきによるス ターチスの高品質生産	平成 19 年度東北農業研 究成果情報, 印刷中
<b>生産環境部</b>					
環境保全	中 野 亜 弓	「農林水産生態 系における有害 化学物質の総合 管理技術の開発」研究成果発 表会	19. 11. 29	ハウレンソウのカドミウム吸収 特性と土壌 pH調整による吸収 抑制効果	研究成果要旨集, P43
	中 野 亜 弓	「農林水産生態 系における有害 化学物質の総合 管理技術の開発」研究成果発 表会	19. 11. 29	河川及び広域水系における水 田用農薬の動態解明	研究成果要旨集, P47
	中 野 亜 弓	日本農薬学会	20. 3. 31 ～4. 1	水稻育苗期防除剤の後作野菜 での農薬残留	日本農薬学会第 33 回大 会講演要旨集, P42
	沼 田 芳 宏 折 坂 光 臣 他	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	堆肥を利用した 50%減化学肥 料代替水稻栽培におけるいも ち病発生リスク	東北農業研究, 60, 19-20, 19. 12
土壌作物栄養	鈴 木 良 則 他	日本土壌肥料学 会東北支部会	19. 7. 9 ～7. 10	有機入り液肥の寒冷地におけ るトマト雨よけ普通栽培および 水稻育苗に対する施用効果	2007 年度日本土壌肥料 学会東北支部会福島大 会講演要旨集, -, 6, 19. 7
	葉 上 恒 寿 他	日本土壌肥料学 会東北支部会	19. 7. 9 ～7. 10	肥効調節型肥料を用いたりん どう株養成期間における新施 肥法	2007 年度日本土壌肥料 学会東北支部会福島大 会講演要旨集, -, 6, 19. 7
	葉 上 恒 寿 他	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 18 ～7. 19	玄米タンパク質含有率を考慮 した「ひとめぼれ」の栄養診断指 標	東北農業研究, 60, 13-14, 19. 12
保鮮流通技術	関 村 照 吉	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	ハウレンソウとレタスの栽培か ら出荷までの衛生管理上の重 要管理点	東北農業研究, 60, 181-182, 19. 12

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
病害虫部 病理昆虫	関 村 照 吉	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	ミルクジャムの新製造法と農 産物の混合	東北農業研究, 60, 215-216, 19. 12
	宍 戸 貴 洋	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	雨よけハウレンソウの「とろけ」 発生の要因と対策	東北農業研究, 60, 185-186, 19. 12
	宍 戸 貴 洋	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	米の食味を低下させないヒエ の混合割合	東北農業研究, 60, 217-218, 19. 12
	関 村 照 吉	平成 19 年度東 北農業試験研究 推進会議	20. 1. 29	切り花リンドウの呼吸量とエチ レン感受性	平成 19 年度東北農業研 究成果情報
	宍 戸 貴 洋	平成 19 年度東 北農業試験研究 推進会議	20. 2. 1	寒締めほうれんそうに含まれる 糖含量と簡易測定法	平成 19 年度東北農業研 究成果情報
	岩 舘 康 哉 他	平成 19 年度日 本植物病理学会 大会東北部会	19. 9. 20 ~9. 21	クロロピクリンくん蒸剤の高畦 マルチ畦内処理によるキュウリ ホモブシス根腐病の防除効果	投稿中
	猫 塚 修 一	日本菌学会第 51 回大会	19. 5. 26 ~5. 27	ブルーベリーに発生した日本 新産種 <i>Valdensia heterodoxa</i>	日本菌学会第 51 回大会 講演要旨集, 58
	岩 舘 康 哉 他	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 7 ~2. 8	TPI (Tissue Printing Immunoassay) 法によるキュウリホモブシス根 腐病の簡易診断	北日本病害虫研究会 報, 59, 印刷中
	佐々木 直 子	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 7 ~ 8	イネいもち病菌の種子保菌率 を低減させる薬剤防除時期の 検討	北日本病害虫研究会 報, 59, 印刷中
	鈴 木 敏 男	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 7 ~2. 8	りんどうのカンザワハダニに対 する薬剤の残効期間	北日本病害虫研究会 報, 59, 印刷中
	横 田 啓 他	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 7 ~2. 8	アカスジカスミカメに対する地 域一斉薬剤防除の適期幅	北日本病害虫研究会 報, 59, 印刷中
	猫 塚 修 一	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 7 ~2. 8	8月の薬剤選択がリングオすず 斑病の9月の感染量に及ぼす影響	北日本病害虫研究会 報, 59, 印刷中
藤 沢 巧	第 61 回北日本 病害虫研究発表 会	20. 2. 7 ~2. 8	岩手県の水わさびにおけるアブ ラムシ類防除	北日本病害虫研究会 報, 59, 印刷中	
畜産研究所 家畜育種	佐々木 直 他	第 50 回東北農 業試験研究発表 会	19. 7. 19	豚の飼養環境ストレス軽減へ のプロバイオティクス添加給与 の有効性	東北農業研究, 60, 97-98, 19. 12

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
家畜飼養	安 田 潤 平	日本短角種研究会	18. 11. 16	自給飼料を主体とした日本短角種の肥育技術について	日本短角種研究会報, No. 33, -, 19. 10
	安 田 潤 平	自給飼料研究会	19. 11. 6	トウモロコシサイレージ多給による日本短角種の肥育	平成 19 年度自給飼料研究会資料
	佐々木 直	岩手 Farm To Table	19. 11. 7	そばくず給与が豚の肉質に及ぼす影響	口頭発表
	佐 藤 直 人	南部かしわ研究会	20. 2. 15	南部かしわ(K系)の発育モデル及びそばくず・オカラサイレージの肥育飼料利用法	第 20 回南部かしわ研究会資料
	佐々木 直	日本養豚学会	20. 3. 18	そばくずとオカラを混合したサイレージ給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響	口頭発表・講演要旨
	安 田 潤 平	日本草地学会	20. 3. 25	自給トウモロコシサイレージを活用した日本短角種の肥育特性とその牛肉成分	口頭発表・講演要旨
	越 川 志 津	東北畜産学会	19. 8. 24	乳牛の暑熱ストレスによる乳成分の低下を緩和できる飼料給与方法	東北畜産学会報, 第 57 巻第 2 号, 30, 19. 8
	越 川 志 津	2008 年度日本草地学会仙台大会(ポスター発表)	20. 3. 26	細断型ロールペーラで調製した粗飼料主体発酵 TMR の泌乳牛への給与技術	2008 年度日本草地学会誌講演・発表会講演要旨集, -, -, 20. 3
	茂 呂 勇 悦	2008 年度日本草地学会仙台大会(ポスター発表)	20. 3. 26	黄熟後期・破砕トウモロコシサイレージの泌乳牛への多給技術	2008 年度日本草地学会誌講演・発表会講演要旨集, -, -, 20. 3
種山畜産	児 玉 英 樹	東北畜産学会	—	ウシ精子希釈液へのラクトフェリン添加が凍結融解後の精子運動能に及ぼす影響	東北畜産学会報, Vol. 57, No. 2, 31, 19. 8
県北農業研究所					
営農技術	松 浦 拓 也 他	東北農業試験研究	19. 7. 19	岩手県北地域の水稲栽培における発酵鶏ふん・発酵豚ふんの利用法	東北農業研究, 60, 37-38, 19. 12
	荻 内 謙 吾 他	東北農業試験研究	19. 7. 19	アワ栽培における早期培土を基本とした機械除草体系	東北農業研究, 60, 57-58, 19. 12
	吉 田 樹 史 他	北日本病害虫研究会	20. 2. 7 ~2. 8	雑穀類のアワノメイガに対する B T 水和剤の防除適期	北日本病害虫研究会報, 59, 印刷中
	荻 内 謙 吾 他	日本作物学会	20. 3. 27 ~3. 28	プラウ耕による発酵鶏糞の深層施用がダイズのタネバエ被害発生程度に及ぼす影響	日本作物学会紀事. 77(別号 1), 66-67, 20. 3
	荻 内 謙 吾 他	日本作物学会	20. 3. 27 ~3. 28	キビとアワの登熟特性の比較	日本作物学会紀事. 77(別号 1), 98-99, 20. 3



部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 卷(号) 掲載ページ, 発行年月
産地育成	目 時 梨 佳 他	東北農業試験研 究	19. 7. 19	ハウレンソウケナガコナダニに おけるハウレンソウと数種他品 目との嗜好性の比較	東北農業研究, 60, 183-184, 19. 12
やませ利用	仲 條 眞 介 他	東北農業試験研 究	19. 7. 19	黄粒色粳アワとの交雑による 糯アワ粒色改良の試み	東北農業研究, 60, 51-52, 19-12
	漆 原 昌 二 他	東北農業試験研 究	19. 7. 19	岩手県北部におけるキビの機 械栽培を前提とした播種量及 び作期による栽培特性	東北農業研究, 60, 53-54, 19-12
	仲 條 眞 介 他	日本作物学会	20. 3. 27 ~3. 28	$\gamma$ 線照射により誘発されたア ワの半矮性系統およびその他 の突然変異系統の特性	日本作物学会紀事, 77(別号 1), 104-105, 20. 3
	仲 條 眞 介 他	日本作物学会	20. 3. 27 ~3. 28	短程の糯性新系統「ヒエ岩手糯 4 号」およびヒエ胚乳デンプン 変異系統の特性	日本作物学会紀事, 77(別号 1), 290-291, 20. 3
	仲 條 眞 介 他	日本育種学会	20. 3. 29	半矮性・低アミロースヒエ新系 統の育成	育種学研究, 第 10 卷 (別 1), 181, 20. 3
	仲 條 眞 介 他	雑穀研究会	—	アワにおける黄粒色糯性系統 の探索および形質遺伝	雑穀研究, No. 23, 1-8, 20. 3

## 5 雑誌等掲載

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲 載 年 月
<b>企画経営情報部</b>				
農業経営	齋藤理恵 (中央普及セ、 成果紹介)	インターネットを活用した農業技術体系データ ベース・システム	農業普及	19. 5
	前山薫	ネットで農業経営のシミュレーションが可能に 経営試算システムを無料で一般公開	都道府県展望	19. 7
	佐藤正衛・ 南石晃明 (中央農総研、 九州大学、 共同研究)	インターネット上で経営シミュレーションがで きる農業技術体系データベース・システム	農業技術 (第 62 巻,10 号)	19.10
	昆野善孝	直播栽培技術導入の経営上のメリット	農業普及	20. 2
<b>農産部</b>				
水田作	林尻雄大	シリーズ「農薬と防除の基礎知識」 「雑草概論と最新防除技術（水稲）」	農業普及	19. 8
水田作 生産工学	日影勝幸 伊藤勝浩	失敗しない水稲直播栽培の 5 つのポイント	農業普及	20. 2
水田作	日影勝幸	季節の農作業「水稲直播」 苗作りから解放される「直播栽培に取り組ん でみませんか	農業普及	20. 4
生産工学	須藤勇人	水田転換の排水対策フロー ー岩手県における排水対策の事例紹介ー	圃場と土壌	19. 8
	須藤勇人	グランドカバープランツとしてのイブキジャコ ウソウの法面被覆効果	水と土	19. 6
<b>園芸畑作部</b>				
部長	小野田和夫	協働の力	岩手りんごタイムス	20. 1
果樹	小野浩司	凍霜害対策について	岩手りんごタイムス	19. 4
	小野浩司	摘花・摘果剤の利用について	岩手りんごタイムス	19. 4
	大野浩	樹相診断について	岩手りんごタイムス	19. 6
	大野浩	夏期管理について	岩手りんごタイムス	19. 7
	畠山隆幸	黄香の収穫期の予測と収穫前管理について	岩手りんごタイムス	19. 9
	畠山隆幸	岩手 7 号について	岩手りんごタイムス	19.10
	畠山隆幸	鮮度保持剤（1-MCP）について	岩手りんごタイムス	19.10
	田村博明	改植の進め方	岩手りんごタイムス	18.12
	高橋司	せん定について	岩手りんごタイムス	19. 1
	田村博明	果樹台木の最新事情	果実日本	20. 1

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
野菜畑作	井村裕一	小畦立て播種栽培の技術導入支援について	東北豆だより	19. 5
	井村裕一	本年度の小畦立て播種栽培の試験経過について	東北豆だより	19. 9
	井村裕一	県内各地で普及面積が急増！—大豆の小畦立て播種栽培	農業普及	20. 1
	山口貴之	土壌消毒と根域制御を併用した防除体系 b. マルチ裾埋め込み栽培方式	キュウリホモプシス根腐病防除マニュアル	20. 2
	山口貴之	まん延を食い止めよう！キュウリホモプシス根腐病	農業普及	20. 3
	山口貴之	季節の農作業 3月～きゅうり～	農業普及	20. 3
花き	川村浩美	岩手県における花き栽培状況、今後の展望について	クリンテートだより 第33号冬季号	19.12
	阿部 潤	オリジナル品種開発研究の現状と今後	農業普及	20. 4
<b>生産環境部</b>				
環境保全	中野 亜弓	農薬と防除の基礎知識 農薬の安全性確保のために	農業普及	19.12
土壌作物栄養	多田勝郎	高窒素堆肥を用いたキャベツ、スイートコーンの減肥栽培技術	グリーンレポート 第23巻11号 4-5頁	19.11
保線流通	宍戸貴洋	雨よけハウレンソウの「とろけ」の発生要因と対策	農耕と園藝(11月号)	19.11
<b>病害虫部</b>				
病理昆虫	佐々木直子	岩手県における水稻種子消毒剤トリコデルマ・アトロビリゲ水和剤の効果的な使用方法と種子伝染性病害の防除	今月の農業 2月号, 27-31	20. 2
	岩館康哉	クロロピクリンくん蒸剤のマルチ畦内処理によるキュウリホモプシス根腐病の防除	農耕と園芸 10月号, 73-74	19.10
<b>畜産研究所</b>				
家畜飼養	茂呂勇悦	泌乳牛への破砕処理トウモロコシサイレージの多給技術	岩手の畜産	19. 6
	越川志津	TMRを夕方給与することで、暑熱ストレスを緩和できる	DAIRYMAN	19. 7
	茂呂勇悦	糞尿処理に有効な泌乳牛へのカリウム低減飼料給与による尿量の削減	酪農ジャーナル	19. 7
	越川志津	乳牛の暑熱ストレスによる乳成分を緩和できる飼料給与方法	農業新聞	19. 8
	茂呂勇悦	飼料中カリウム含量の低減で泌乳牛の尿量を削減	DAIRYMAN	19. 8
	越川志津	暑熱期間中における TMR 夕方給与のヒートストレス緩和効果	開拓情報	19. 9
	茂呂勇悦	哺乳ロボットの活用と課題	月刊畜産コンサルタン ト	19.11
	茂呂勇悦	泌乳牛への破砕処理トウモロコシサイレージの多給技術II	岩手の畜産	20. 1

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月	
飼料生産	平久保友美	細断型ロールペーラを用いた発酵TMRの品質	デーリイマン	19.10	
	平久保友美	細断型ロールペーラを活用した発酵 TMR の調製技術	デイリージャパン	19.11	
	平久保友美	岩手県農業研究センター畜産研究所における不耕起栽培トウモロコシの雑草対策技術確立の取り組みについて	植調	19. 9	
	平久保友美	発酵TMR飼料について	岩手の畜産	19. 9	
	堀間久己	バイオガスプラント由来消化液を活用した飼料作物生産	デーリイマン	19.12	
	堀間久己	バイオガスプラント由来消化液の飼料作物における利用効果	岩手の畜産	19. 3	
	笹村正	畜産環境技術研究機関を訪ねて	畜産環境情報(第39号)	19.12	
家畜工学	細川泰子	血液生化学指標値を活用した正常卵率向上のための牛の飼料給与プログラム	岩手の畜産	19. 5	
	福成和博	受精卵移植器販売開始のお知らせ	岩手の畜産	19. 8	
	佐藤洋一	黒毛和種の乳頭数不足に関する DNA マーカー型検査について	岩手の畜産	19.11	
家畜育種	吉田 登	パンくず <sup>※</sup> 及びそばくずを利用した南部かしわ生産のコスト低減	岩手の畜産	19. 2	
	安田潤平	地域における自給飼料を活用した日本短角種の肥育全期粗飼料多給技術	岩手の畜産	19. 7	
	安田潤平	日本短角種の自給飼料多給肥育の取り組み(1) (2)＜現地での実践＞	岩手の畜産	20. 2 20. 3	
	佐藤直人	民間企業と連携した「三陸地鶏」の生産	畜産技術	20. 3	
外山畜産	砂子田 哲	キャトルセンターの現状と課題	岩手の畜産	20. 2	
	小野寺真希子	牧草地における粗砕カキ殻の影響	岩手の畜産	20. 4	
種山畜産	児玉英樹	牛パイオプシー胚を用いたガラス化保存法の比較検討	東北畜産学会報	19. 6	
	渡辺 彩	黒毛和種現場後代検定の成績について	岩手の畜産	19. 8	
	渡辺 彩	シリーズ14 今こそ肉用牛の増頭を	岩手の畜産	19. 9	
	児玉英樹	ウシ凍結精液へのラクトフェリン(Lf)添加効果	岩手の畜産	19.12	
県北農業研究所	営農技術	萩内謙吾	雑穀の収穫技術について	HP( <a href="http://www.jeinou.com">http://www.jeinou.com</a> )みんなの農業広場(社) 全国農業改良普及支援協会	20. 8
産地育成	目時梨佳	カラシナすき込みによるハウレンソウ萎凋病の発病抑制効果	今月の農業 12月号	19.12	

6 新聞等掲載

部所名	記事見出し (内容)	掲載紙名	掲載年月日
企画経営情報部	所得、労力ひと目で ネットで経営模擬実験 システム開発	日本農業新聞	19. 4. 17
	農業経営 手軽に試算 ネットでシステム無料公開	日刊工業新聞	19. 4. 17
	ネットで農業疑似体験 経営収支や労働時間など	日本経済新聞	19. 4. 18
	農家経営 ネットで支援 耕地面積入力▶収支など試算 利用無料	読売新聞	19. 5. 21
	PCで経営シミュレーション 新規参入・規模拡大・新作物栽培…用途さまざま アクセス毎日千件	朝日新聞	19. 6. 15
	複合農業経営ネットで試算 DBシステム公開	河北新報	19. 4. 27
	技術データベース 16日から運用開始 ネット上で一般公開 本県主要作物の情報網羅 農業経営計画作成に役立つ	岩手日日新聞	19. 4. 14
	ネットで農業経営 試算システム共同開発 全国初の無料公開	岩手日報	19. 5. 16
	技術情報 ネット上で経営シミュレーションが可能に	農業共済新聞	19. 5. 30
	農業技術体系 データベース化	農村ニュース	19. 4. 23
	NARCと岩手県農業研究センター、農業経営のシミュレーション開発	IBTimes(インターナショナルビジネスタイムズ)	19. 4. 18
	中央農業総合研究センターなど、「農業技術体系データベース・システム」を開発	NIKKEI NET	19. 4. 16
	農業経営のシミュレーション、インターネット上の簡単操作でー(独)農研機構などが開発	農業協同組合新聞	19. 4. 23
	農業技術体系データベース・システム」を開発	農林漁業現地情報	19. 4
	農業技術体系データベース/農業技術の生産から財務まで広範囲なデータを農作業スケジュールと関連づけ蓄積。営農計画、技術評価、環境影響評価等に活用	国立国会図書館データベース・ナビゲーション・サービス	19. 4. 16
	ネットで簡単! 営農計画《計算センター活用事例紹介》インターネット上で操作も簡単! 経営のシミュレーションができる「農業技術体系データベース・システム」	農林水産研究情報・計算センターニュース	19. 5. 20
	農業希望の人は診断を ネットで経費や収入試算	サンスポ COM	19. 6. 3
研究短信 農業経営シミュレーションが簡単にできる「農業技術体系データベース・システム」を無料公開(中央農業総合研究センター他)	テクノイノベーション	19. 9	
農業を変えるサイエンス 農業技術体系データベース・システム	ニューカントリー	19. 10	
農産部	水稲直播栽培ー機械のデモや研究報告ー北上で講習会 県内から 50人参加	岩手日々	19. 5. 2
	いわて直播栽培米研ー1畝の大区画水田に播種ー 実演し技術研さん	日本農業新聞	19. 5. 2
	水稲直播本格普及ー省力化に強い関心ー 雑草防除の実証圃も 10畝-510キ。めざす。岩手農研センター3ヶ年で技術確立	日本農業新聞	19. 5. 8
	水稲直播を一般的に「県が独自技術試験公開」	岩手日報	19. 5. 31
	水稲直播の収量増へ「岩手県農研センター 溝切り新技術を公開」	日本農業新聞	19. 5. 31

部所名	記事見出し (内容)	掲載紙名	掲載年月日
	水稲直播苗立率向上に「落水管理技術の開発試験」	岩手日日新聞	19. 5. 31
	葉いもち抵抗性 穂いもち抵抗性 遺伝子集積で耐病性アップ 減農薬のコメ可能に 県農業研究センター解明	岩手日報	19. 6. 22
	一病に強いイネ、効率よくー 耐いもち性遺伝子判別 「組み換えせず」品種改良 県農業研究センター	朝日新聞 岩手県版	19. 6. 26
	雑草抑制対策に新手 イブキジャコウソウ植栽 花巻・黒西環境保全組合 景観向上の効果も期待	岩手日報	19. 7. 3
	イブキジャコウソウ 雑草、害虫に効果 県農業研究センター	毎日新聞	19. 7. 3
	雑草抑え景観も向上 イブキジャコウソウのり面に被覆植物 岩手・花巻市の環境保全組合	日本農業新聞	19. 7. 5
	強い繁殖力で法面を保護 きれいな花付け景観向上にも グラウンドカバープランツ「イブキジャコウソウ」 岩手県花巻市の黒西環境保全組合が実用化	農業共済新聞	19. 8. 15
	雑草抑制に新兵器 花巻市の「黒西環境保全組合」 グラウンドカバープランツ初の導入	全国農業新聞	19. 9. 21
	岩手の土に根付く「ロングマット水稲懇話会」	農村ニュース (国際農業社)	19. 8. 13
園芸畑作部	大豆湿害防ぐ栽培法 県農業研究センター開発うね立て、播種並行	岩手日報	19. 6. 12
	大豆、湿害の生育不良防止 「小畦立て播種栽培」開発 県農研センタ ー実証試験で収穫3割増	岩手日日	19. 6. 12
	県開発の大豆種まき技術 他県にも普及、PR	岩手日報	19. 8. 22
	リンゴの新品種「岩手7号」	岩手日報	19. 9. 27
	リンゴ待望の中生種「岩手7号」登場	日本農業新聞	19. 9. 27
	収量が25%増の品種も トマトの灌水栽培研究 育苗ハウスを有効活 用	岩手日日	19. 9. 29
	沖縄での経験生かす	日本農業新聞	19. 10. 5
	かん水5割増で収量向上 水稲育苗ハウス利用トマトのポット栽培	日本農業新聞	19. 11. 8
	大豆の小畦立て播種栽培 湿害防ぎ高効率 身近な機械を活用	日本農業新聞	19. 11. 23
	栽培ポイントを学ぶ りんどう研修会	岩手日日	20. 2. 14
	県奨励農作物に3種追加	岩手日報	20. 2. 20
	夏秋イチゴ栽培学ぶ 陸前高田で初の研修会	岩手日報	19. 9. 15
生産環境部	生き物調査のライドショー公開 環境に優しい農業を応援	農業共済新聞	19. 11. 21
	冷害被害米の用途広がるうどん、パン、菓子に・微粉碎技術を集約	日本農業新聞	19. 4. 6
	県内産牛乳でジャム・枝豆やカボチャ味も	朝日新聞	19. 6. 15
	ハウレンソウ「とろけ」原因	岩手日日	19. 6. 30
	ミルクジャムあっさり・牛乳使用の製法開発	岩手日報	19. 7. 10

部所名	記事見出し (内容)	掲載紙名	掲載年月日
	ジャムの新製造法開発・カロリー抑え、あっさりど	岩手日日	19. 8. 23
	玄米そのまま粉に・「くず米」利用拡大に期待	毎日新聞	19. 10. 7
	くず米利用に活路・玄米そのまま粉体化	岩手日日	19. 10. 11
	くず米でパン、うどん・もちもちした食感・米菓以外への加工用途拡大	岩手日報	19. 10. 11
	3種類の粉碎方法で比較・くず米の有効利用へ加工適性を検討	農業共済新聞	19. 10. 17
病理昆虫研究室	キュウリのホモプシス根腐病 マルチで根域制御 岩手県農業研究センター実証	日本農業新聞	19. 12. 5
畜産研究所	日本短角種に自給飼料 多給でも肉質維持 岩手県畜産研	日本農業新聞	19. 9. 4
	飼料給与プログラムの開発	岩手日報	19. 4. 8
	県初の本格地鶏「三陸地鶏」を開発 大船渡のアマタケ初年度は11万羽 東北初、特定JAS認定	岩手日報	19. 10. 30
	「三陸地鶏」初出荷 量産態勢で値ごろに	日本農業新聞	19. 10. 30
	地鶏特定JASに 東北初 新ブランド売り込み	日本経済新聞	19. 11. 27
	三陸地鶏、特定JAS認定 大船渡のアマタケ 東北初、全国23銘柄目	岩手日報	19. 11. 28
	いける「南部かしわ」 二戸市・川代営農組合 特産目指し製品化 「地鶏」継承へ集落一丸	岩手日報	20. 1. 14

## 7 テレビ・ラジオ放送

### (1) テレビ

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
企画経営情報	前山 薫	農業経営の新システム開発	NHK 盛岡	H19. 4. 16
畜産研究所	三浦所長	三陸地鶏出発式	IBC ニュースエコー	H19. 10. 29
	三浦所長	三陸地鶏が初出荷	TV 岩手プラス1	H19. 10. 29
	三浦所長	岩手の新しい地鶏「三陸地鶏」出荷	IAT ニュース	H19. 10. 29
	三浦所長	三陸地鶏 初出荷	めんこいテレビ	H19. 10. 29

(注) イベント開催のニュース等は対象外

### (2) ラジオ

該当無し

(注) イベント開催のニュース等は対象外

## 8 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲載資料名	発行年月
企画経営情報	前山 薫	生産技術体系	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3
	前山 薫	生産技術体系	平成 20 年度花き栽培技術指針	20. 3
農産部				
水田作	林尻雄大 日影勝幸	水田雑草防除及び水稲用成長調整剤使用指針	平成 20 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針(岩手県)	20. 3
水田作 生産工学	日影勝幸 伊藤勝浩	水稲直播栽培にチャレンジ	水稲直播栽培啓発資料(岩手県)	20. 3
水稲育種	中野央子 阿部陽 高草木雅人	奨励品種の特徴と栽培法	平成 20 年度稲作指導指針	20. 3
園芸畑作部				
果樹	高橋 司	主要果実の栽培技術(りんご、西洋なし)	平成 20 年度果樹指導要項	20. 3
	小野 浩司	〃 (ぶどう)	〃	〃
	大野 浩	〃 (りんご)	〃	〃
	畠山 隆幸	〃 (りんご)	〃	〃
野菜畑作	井村裕一	大豆の小畦立て播種栽培ー播種機組立てのポイントー(暫定版)	同左	19. 5



部所・研究室名	執筆者氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月	
(農業経営)	高橋拓也	品目別栽培技術指針 トマト	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	高橋昭喜	品目別栽培技術指針 ナガイモ	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	高橋拓也	短日処理育苗技術を利用した秋春二期どり作型	夏秋どりイチゴ栽培マニュアル	20. 3	
	松浦貞彦				
	山口貴之	品目別栽培技術指針 きゅうり	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	川村浩美	品目別栽培技術指針 鉢物りんどう	平成 20 年度花き栽培技術指針	20. 3	
	千葉賢一	品目別栽培技術指針 りんどう りんどうこぶ症	平成 20 年度花き栽培技術指針	20. 3	
	中里 崇	品目別栽培技術指針 ハイブリットスターチス	平成 20 年度花き栽培技術指針	20. 3	
	南部園芸	志田たつこ	品目別栽培技術指針 アネモネ	平成 20 年度花き栽培技術指針	20. 3
		藤尾 拓也	品目別栽培技術指針 いちご	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3
生産環境部					
土壌作物栄養	鈴木良則	野菜畑の土づくり 野菜栽培における施肥管理 転換畑等における排水対策	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	葉上恒寿	花き栽培の土づくり 花き栽培における施肥管理 転作田における排水対策	平成 20 年度花き栽培技術指針	20. 3	
保鮮流通技術	関村 照吉	VI 花きの鮮度保持対策	平成 20 年度花き栽培指導指針	20. 3	
	宍戸 貴洋	キャベツの RQ フレックスおよび Brix 計を用いた生体中内部成分 (硝酸・ビタミン C・糖) の簡易測定法	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	宍戸 貴洋	雨よけほうれんそうの RQ フレックスを用いた生体中内部成分 (硝酸・ビタミン C・糖) の簡易測定法	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	宍戸 貴洋	寒締めほうれんそうの Brix 計を用いた生体中糖含量の簡易測定法	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	宍戸 貴洋	VIII 野菜の鮮度保持対策	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
病害虫部					
病理昆虫	岩館康哉・藤沢巧	近年問題となっている病害虫	平成 20 年度野菜栽培技術指針	20. 3	
	鈴木敏男・猫塚修一	近年問題となっている病害虫	平成 20 年度花き栽培技術指針	20. 3	
	猫塚修一・藤沢巧	果樹病害虫の生態と防除対策各論	平成 20 年度果指導要項	20. 3	

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
	鈴木敏男・藤沢巧・猫塚修一・横田啓・佐々木直子・岩館康哉	病害虫・土壌病害虫・鳥獣害防除、展着剤	平成 20 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	20. 3
	佐々木直子	水稻種子の部（病害）	種子生産の手引き	19. 1
	横田啓	水稻種子の部（虫害）		
	岩館康哉	小麦種子の部（病害）、大豆種子の部（病害、虫害）		
	岩館康哉	キュウリホモプシス根腐病の特徴他	キュウリホモプシス根腐病防除マニュアル	20. 2

## 9 図書資料収集・提供

項 目	冊数・人数
総蔵書数	66,822 冊
平成19年度収集図書数	574 冊
図書館利用者数(延べ)	211 名
同貸し出し冊数	544 冊

※数値はいずれもセンター本部のみ

## 10 ホームページ

項 目		件 数	内 訳
入力件数	研究レポート	90	平成19年度発行分
	試験研究成果	515	平成18年度成果、旧農業関係試験場「普及奨励事項および指導上の参考事項」
	研究報告類	92	研究報告第7～8号、旧農業試験場研究報告
	らぼ・れたあ	39	No.1～39(研究トピックス)
	行事予定	12	参観デー、現地ふれあい農研センター、他
	各種資料	53	外部評価結果、平成18年度年報
	農業科学博物館	19	企画展第33回～第36回、棚田日記、他
	その他	46	一日子供農業研究員、英語版サイト、月別アクセス状況、研究室紹介、他
アクセス件数	トップページ	54,812	平成19年度分
	総ページビュー	1,761,924	平成19年度分



## V 指導・啓発活動



## 1 技術伝達研修等への対応

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
農産部 水田作、生産工学	19. 5. 1	農業研究センター	水稻湛水直播栽培の播種実演と管理技術講習会	50名
園芸畑作部 果樹	20. 1. 16	農業研究センター 小会議室	平成 19 年度 新技術普及活動検討会（果樹部門）	25名
野菜畑作	19. 9. 25	盛岡市アイーナ	東北地域における夏秋どりイチゴ栽培技術の普及 に向けて	259名
野菜畑作	19. 7. 18	盛岡市アイーナ	東北北部内陸地域における夏秋どり新作型	約 50名
野菜畑作	20. 1. 24	農業研究センター 大会議室	大豆湿害回避播種技術セミナー 小畦立て播種栽培 ～播種機組立てのポイント～	225名
野菜畑作	20. 1. 25	農業研究センター 大会議室	水田営農関係新技術セミナー 大豆生育期の広葉 雑草を対象とした除草剤の特徴	96名
野菜畑作	19. 12. 7	コラッセふくしま	ホモプシス根腐病公開シンポジウム	157名
生産環境部 保鮮流通技術	20. 1. 29	農業研究センター 中会議室	平成 19 年度 新技術普及活動検討会（起業・農村振興部門）	改良普及 員等 20名
県北農業研究所	19. 5. 21	県北農業研究所	公開技術セミナー（試験状況公開） ほうれんそう・レタス・アスパラガス及び小ぎく の安定生産技術他について	23名
	19. 6. 18	県北農業研究所	公開技術セミナー 雑穀育種の試験進捗状況他について	85名
	19. 8. 31	県北農業研究所	県北農業研究所参観デーシンポジウム 「公開技術セミナー（雑穀の研究状況）」及び「ほ 場公開」について	150名
	20. 1. 23	県北農業研究所	公開技術セミナー 雑穀の研究成果について	70名
畜産研究所 飼料生産 家畜育種	20. 1. 25	畜産研究所	平成 19 年度 新技術普及活動検討会（畜産部門）	40名
家畜育種	19. 6. 15	久慈市山形支所	日本短角種の全期間粗飼料多給肥育技術について	15名
	19. 9. 14	久慈市山形支所	日本短角種の全期粗飼料多給肥育の技術的特徴	13名
	19. 10. 3	岩泉町 JA 宮古	日本短角種の全期粗飼料多給肥育の技術的特徴	5名
	20. 2. 22	岩泉町有芸	黒豚生産における交配シュミレーション	5名
外山畜産	20. 2. 22	畜産研究所	平成 19 年度 新技術普及活動検討会（畜産部門）	40名
病害虫部 病理昆虫 園芸畑作部 野菜畑作 企画経営情報部 企画情報室	19. 11. 14	一関市川崎町	現地ふれあい農業研究センター「一関地方における キュウリホモプシス根腐病の発生と対策」	約 30名

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	内 容	参集人員
<b>農産部</b> 水田作、生産工 学 <b>園芸畑作部</b> 野菜畑作 <b>病害虫部</b> 病理昆虫 病害虫防除課	20. 1. 24 ～1. 25	農業研究センター 大会議室	平成 19 年度 水田営農を元気にする新技術等普及戦略検討会 (水田利用部門)	264 名
<b>園芸畑作部</b> 野菜畑作、南部 園芸 <b>生産環境部</b> 土壌作物栄養 保鮮流通技術 <b>病害虫部</b> 病理昆虫 <b>県北研究所</b> 産地育成	20. 1. 21 ～1. 22	農業研究センター 中会議室	平成 19 年度 新技術普及活動検討会 (野菜部門)	改良普及 員等 41 名
<b>園芸畑作部</b> 花き <b>生産環境部</b> 土壌作物栄養 保鮮流通技術 <b>病害虫部</b> 病理昆虫	20. 1. 21	農業大学校・花きセ ンター	平成 19 年度 新技術普及活動検討会 (花き部門、1 日目)	改良普及 員等 70 名 生産者含む
<b>園芸畑作部</b> 花き 南部園芸	20. 1. 22	農業研究センター 中会議室	平成 19 年度 新技術普及活動検討会 (花き部門、2 日目)	42 名

※農業研究センターが主催した研修等および新技術普及活動検討会



## 2 現地指導・研修会等への講師派遣

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>企画経営情報部</b>				
川嶋明澄 小川勝弘 前山 薫 松浦貞彦	岩手大学農学部地域マネジメント学講座学生研修会 「農業経営研究室の研究概要」 「農業技術体系データベースシステム」 「ITを駆使した先進的農業生産法人のビジネスモデル」	19. 6. 15	岩手大学	大会議室
<b>農業経営</b> 小川勝弘 前山 薫	岩手県果樹協会研修会 「農業経営研究室の研究概要」 「農業技術体系データベースシステム」	19. 7. 5	岩手県果樹協会	中会議室
前山 薫	経営管理実践研修 「Web型農業技術体系システム、営農計画シートの活用方法について」	19. 8. 3	中央農業改良普及センター 中央圏	中会議室
前山 薫	秋田県視察研修 「集落営農の組織化後の課題と対応について」	19. 9. 4	中央農業改良普及センター 中央圏	北上合同庁舎
前山 薫	盛岡地方集落営農研修会 「集落営農の現状と多角化」	19. 12. 6	盛岡地方振興局	アピオ
前山 薫 昆野善孝	江刺特定農業団体経営指導	19. 12. 19	江刺市農業活性化センター	江刺市農業活性化センター
前山 薫	担い手経営力アップセミナー 「ネットで農業経営」	20. 1. 18	全農岩手県本部	大会議室
阿部直行	東北農研セ公開シンポジウム 「特別栽培リンゴのアンケート調査結果」	20. 3. 7	東北農業研究センター	東北農業研究センター
小川勝弘	平成20年度園芸流通改善セミナー 「加工・業務用野菜生産導入の考え方」	20. 3. 13	流通課	志戸平温泉
<b>農産部</b>				
<b>水稲育種</b> 木内 豊	岩手アグリフロンティアスクール講師（岩手大学） 農業生産概論（②水稲の栽培と品種の変遷）	19. 10. 5	岩手大学農学部	岩手大学農学部（盛岡市上田）
中野央子	農業大学校 講師（水稲育種技術全般）① 〃 ②	19. 7. 19 19. 9. 26	農業大学校 〃	農業研究センター 〃
阿部 陽	農業大学校 講師（作物増殖）	19. 10. 24	農業大学校	農業大学校
<b>水田作</b> 林尻雄大	農薬管理指導士養成研修講師「雑草防除」	20. 1. 21	農業普及技術課	盛岡市アイーナ
日影勝幸	平成19年度水田農業を元気にする新技術普及戦略検討会講師「水稲湛水直播栽培の出穂期予測と収穫適期市の拡大」	20. 1. 25	中央農業改良普及センター	農業研究センター
日影勝幸	平成19年度水稲湛水直播栽培技術等研修会講師 「直播栽培のいろは～圃場の準備から収穫まで～」	20. 2. 27	いわて直播栽培米研究会	農業研究センター
長谷川聡	岩手ふるさと農業協同組合水沢水稲採取部会研修会 講師「どんびしゃりの品種特性と多収栽培法について」	20. 3. 27	岩手ふるさと農業協同組合	水沢市「リサーチ」四季の抄
高橋政夫	農産物検査員育成研修	19. 5. 17	東北農政局岩手農政事務所	矢巾町農村環境センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
高橋政夫	東京技連会議秋期現地研修講師 「岩手県の水田雑草防除について」	19. 9. 20	東京技連会議	農業研究センター
応用生物学 星 伸枝 佐々木力	農業大学校 講師 (生物学テーマ研究)	19. 5. 14	農業大学校	農業研究センター
	農業大学校 講師 (作物増殖)	19. 10. 18	農業大学校	農業大学校
生産工学 須藤勇人	農地・水・環境保全向上対策 (共同活動支援) に係 る事例発表会	19. 11. 20	県南広域振興局 農林部農村整備 室	奥州市江刺総合支 所
須藤勇人	平成 19 年度 中央地域水田畦畔管理技術情報交換 会	20. 2. 22	中央農業普及セ ンター	農業研究センター
須藤勇人	先進地研修に係る職員の派遣依頼	20. 2. 27	岩手町農業改良 推進協議会	花巻市石鳥谷町 黒西公民館
<b>園芸畑作部</b>				
<b>果樹</b>				
田村博明	りんご病害虫防除研修会	19. 6. 7	全農岩手県本部	農研センター
	りんご病害虫防除研修会	19. 7. 25	全農岩手県本部	農研センター
	果樹共済損害評価講習会	19. 8. 31	岩手県農業共済 連	岩手中部農業共済 組合
	「黄香」収穫指導会	19. 9. 18	農産園芸課	農研センター
	「黄香」収穫指導会	19. 9. 20	農産園芸課	盛岡市
	「黄香」収穫指導会	19. 9. 21	農産園芸課	二戸市
	農業大学校 講師 (作物増殖・果樹)	19. 11. 29	農業大学校	農業大学校
	せん定指導会	20. 1. 11	岩手花巻農協りん ご部会東和支部	花巻市東和町
	盛岡市認定農業者協議会果樹部会研修	20. 1. 24	盛岡市認定農業 者協議会	農研センター
	冬期講習会	20. 1. 25	岩手県青果販売 農協	盛岡中央卸売市場
高橋司	りんご病害虫防除研修会	19. 6. 7	全農岩手	農研センター
	りんご病害虫防除研修会	19. 7. 25	全農岩手県本部	農研センター
	「黄香」収穫指導会	19. 9. 18	農産園芸課	農研センター
	せん定指導会	20. 1. 11	岩手花巻農協りん ご部会東和支部	花巻市東和町
小野浩司	いわて純情りんごセミナー	20. 2. 21	全農岩手県本部	農研センター
	りんご病害虫防除研修会	19. 6. 7	全農岩手	農研センター
	ぶどう栽培流通研修会	19. 6. 20	全農岩手県本部	一関市ダイヤモンド パレス
	農業者のための研修会	19. 7. 5	岩手県果樹協会	農研センター
	りんご病害虫防除研修会	19. 7. 25	全農岩手県本部	農研センター
	普及員専門技術向上研修 (果樹Ⅱ)	19. 8. 2	中央農業改良普 及センター	農研センター
「黄香」収穫指導会	19. 9. 18	農産園芸課	農研センター	

担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
大野浩	大粒ぶどう剪定指導会	20. 2. 19	岩手中央農業協 同組合	紫波町
	いわて純情りんごセミナー	20. 2. 21	全農岩手県本部	農研センター
	りんご病害虫防除研修会	19. 6. 7	全農岩手	農研センター
	ぶどう栽培流通研修会	19. 6. 20	全農岩手県本部	一関市ダイヤモン ドパレス
畠山隆幸	りんご病害虫防除研修会	19. 7. 25	全農岩手県本部	農研センター
	「黄香」収穫指導会	19. 9. 18	農産園芸課	農研センター
	いわて純情りんごセミナー	20. 2. 21	全農岩手県本部	農研センター
	りんご病害虫防除研修会	19. 6. 7	全農岩手	農研センター
野菜畑作	りんご病害虫防除研修会	19. 7. 25	全農岩手県本部	農研センター
	「黄香」収穫指導会	19. 9. 18	農産園芸課	農研センター
	いわて純情りんごセミナー	20. 2. 21	全農岩手県本部	農研センター
	山口貴之	促成アスパラガス栽培研修会	19. 11. 8	農産園芸課
及川一也 高橋拓也 山口貴之	野菜普及員技術向上研修	19. 5. 14 ～18 6. 13	中央農業改良普 及センター	農研センター
及川一也 高橋拓也 山口貴之	平成 19 年度トマト栽培実証成果検討会	19. 12. 25	中央農業改良普 及センター	盛岡市中央卸売市 場第一会議室
高橋拓也	トマト長期安定生産に向けた栽培技術の確立実証に 関する現地検討会	19. 4. 24	中央農業改良普 及センター	奥州農業改良普及 センター会議室・ 現地圃場
高橋拓也 山口貴之	野菜収益性向上対策チーム「トマト主産地連絡会議」	19. 8. 6	農産園芸課	奥州市江刺区佐藤 一氏圃場、奥州農 業改良普及センタ ー会議室
及川一也	大豆 300A 等技術普及定着促進大会	19. 5. 29 19. 9. 4	東北農政局 東北農政局	福島農試 福島農試
	JA こまち大豆 300A 等技術普及定着促進大会	20. 2. 25	JA 秋田こまち	湯沢ロイヤルホテ ル
及川一也 高橋拓也	寒冷地イチゴ公開シンポジウム「東北地域における 夏秋どりイチゴ栽培技術の普及に向けて」	19. 9. 25	東北農業研究セ ンター	盛岡市アイーナ
及川一也 高橋拓也	夏イチゴ栽培情報交換会	19. 11. 21	いわて四季成り イチゴ研究会	北上市（有）北一 農イチゴ圃場、西 和賀町本多氏イチ ゴ圃場、近藤氏イ チゴ圃場、湯本温 泉山田屋旅館
高橋拓也	抑制トマト（リーディングファーム）相互巡回	19. 8. 27	中央農業改良普 及センター	一関市東山実証圃 場、奥州江刺区実 証圃場、農業研究 センター試験圃場、 雫石町実証圃場

担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
高橋拓也	夏どりイチゴの栽培技術対策情報交換会	19. 12. 7	県南広域振興局 北上総合支局農 林部	北上市（有）北一 農イチゴ圃場
高橋拓也	リーディングファーム現地調査	19. 6. 15	中央農業改良普 及センター	奥州市、一関市
高橋拓也	トマト不織布ポット栽培説明会（紫波赤沢営農組合）	20. 2. 13	紫波赤沢営農組 合	農業研究センター 2階小会議室
高橋拓也 山口貴之	いわて四季成りイチゴ研究会研修会	20. 2. 21	いわて四季成り イチゴ研究会	農業研究センター 2階中会議室
高橋昭喜 井村裕一	種子審査員研修会	19. 7. 23	農産園芸課	農業研究センター
井村裕一	大豆の小畦立て播種栽培に関する現地支援	19. 4. 12	中央農業改良普 及センター	北上市
井村裕一	大豆の小畦立て播種栽培に関する現地支援	19. 5. 1	中央農業改良普 及センター	北上市
井村裕一	大豆の小畦立て播種栽培に関する現地支援	19. 5. 16	中央農業改良普 及センター	遠野市
井村裕一	大豆の小畦立て播種栽培に関する現地支援	19. 5. 31	八幡平農業改良 普及センター	岩手町
井村裕一	平成 19 年度普及指導員専門技術向上研修（作物 I 期）	19. 6. 12	中央農業改良普 及センター	農業研究センター
井村裕一	平成 19 年度大豆加入推進協議会	19. 6. 19	東南部農業共済 組合	遠野市
井村裕一	平成 19 年度岩手県産大豆現地検討会	19. 9. 11	農産園芸課	（水害により中止 のため資料提供）
井村裕一	平成 19 年度畑作物共済（大豆）損害評価研修会	19. 10. 11	岩手県農業共済 組合連合会	農業研究センター
井村裕一	盛岡地域大豆栽培技術研修会	19. 10. 18	盛岡地方振興局	紫波町・矢巾町
井村裕一	岩手県大豆づくり懇談会	20. 2. 12	農産園芸課	サンセール盛岡
井村裕一	小麦・普通大豆・黒千石栽培指導会	20. 3. 21	北上市農業協同 組合	J Aきたかみ和賀 町支店
及川一也 高橋昭喜 伊藤信二	県産小麦現地検討会	19. 6. 14	農産園芸課	紫波町・矢巾町
及川一也 高橋昭喜 伊藤信二	水田高度利用研修会	19. 7. 4	農産園芸課	紫波町・矢巾町
及川一也 高橋昭喜	麦づくり懇談会	19. 11. 27	農産園芸課	サンセール盛岡
高橋昭喜 伊藤信二	ゆきちから研究会	20. 2. 20	農産園芸課	サンセール盛岡
<b>花き</b>				
阿部潤	平成 19 年度花き販売対策会議 講師	19. 6. 5	全農いわて	花巻市
阿部潤	花き専門技術研修（スターチス）講師	19. 6. 13	花きセンター	金ヶ崎町
阿部潤	JA 新いわてりんどろ 圃場巡回指導	19. 6. 29	JA 新いわて	八幡平市
阿部潤	いわてフラワーコンテスト 2007 審査員	19. 8. 31	全農いわて	花巻市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
阿部潤 川村浩美	西和賀花き共進会 審査員	19. 9. 11	西和賀農協	西和賀町
阿部潤	小ぎく推進講習会 助言者	19. 9. 27	全農いわて	奥州市
阿部潤	農大 作物増殖 講師	19. 11. 15	農大	金ヶ崎町
阿部潤	りんどう研修会 講師	20. 2. 13	一ノ関普及センター	一関市
阿部潤 川村浩美	平成 19 年度岩手県農協大型花き経営者協議会 鉢物巡回指導 助言者	20. 3. 4 19. 6. 19	全農いわて 花巻鉢物生産部 会	盛岡市 花巻市内
川村浩美	りんどう採種技術指導	19. 5. 17		奥州市江刺区
川村浩美	りんどう採種技術指導	19. 6. 29		奥州市江刺区
川村浩美	鉢物巡回指導 助言者	19. 7. 20	花巻鉢物生産部 会	花巻市内
川村浩美	りんどう採種技術指導	19. 7. 27		奥州市江刺区
川村浩美	りんどう採種技術指導	19. 9. 3		奥州市江刺区
川村浩美 千葉賢一	花きセンター指導者研修 講師 小ぎく育苗指導	20. 1. 21 19. 6. 1	花きセンター 全農いわて	花きセンター 紫波町
千葉賢一	岩手大学植物生産学講座視察研修指導	19. 7. 4	岩手大	センター内
千葉賢一	小ぎく出荷芽揃い会 助言者	19. 7. 11	全農いわて	北上市
千葉賢一	花き技術向上研修（小ぎく）助言者	19. 11. 14	花きセンター	花きセンター
千葉賢一	ふれあい農研センター 講師	19. 11. 21		
中里 崇	JA 新いわてりんどう圃場巡回指導	19. 6. 29 ～30	JA 新いわて	八幡平市
中里 崇	2007 いわいフラワーコンテスト 審査員	19. 9. 14	一ノ関地方農林 業振興協議会	一関市
中里 崇	平成 19 年度東北地域花き研究会りんどう小集会 講師	19. 10. 17	山形県金山町	山形県金山町
中里 崇	平成 19 年度東北農業試験研究推進会議花き分科会 講師	20. 1. 29	東北農業研究セ ンター	東北農業研究セン ター
<b>南部園芸</b>				
佐藤 弘 藤尾拓也	イチゴモデル農家技術指導	19. 5. 22	大船度普及センター	釜石市、陸前高田 市
志田たつ子	花づくり講習会	19. 6. 5	陸前高田市	市総合営農指導セ ンター
佐藤 弘 藤尾拓也	野菜づくり何でも相談会	19. 6. 28 19. 8. 27	陸前高田市総合 営農指導センター	市総合営農指導セ ンター
佐藤 弘 藤尾拓也	野菜収益性向上対策チーム「トマト主産地連絡会議」	19. 8. 6	農産園芸課	奥州市、 奥州普及センター
佐藤 弘 藤尾拓也	四季成りイチゴ情報交換会	19. 8. 21	釜石・大槌地域 農業振興協議会	釜石市
志田たつ子	陸前高田市花いっぱいコンクール審査	19. 8. 31	陸前高田市	陸前高田市
佐藤 弘 藤尾拓也	普及員専門技術向上研修（野菜第Ⅳ期）	19. 9. 11 ～13	中央農業改良普 及センター	南部園芸研究室陸 前高田市、住田町
佐藤 弘 藤尾拓也	四季成り性イチゴ高設栽培研修会	19. 9. 14	農産園芸課	陸前高田市 南部園芸研究室
志田たつ子	農業大学校外研修（花き経営科 2 学年）	19. 10. 9	農業大学校	南部園芸研究室

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
藤尾拓也	高設栽培の設置と四季成りイチゴ栽培指導	19. 10. 9 ～10	宮古普及センター	岩泉町、田野畑村
藤尾拓也	夏イチゴ栽培情報交換会	19. 11. 21 ～22	いわて四季成り イチゴ研究会	北上市、西和賀町
佐藤 弘	J A北いわてきゅうり販売額4億円達成大会	19. 12. 11 ～12	J A北いわて	二戸市
佐藤 弘 志田たつ子	栄養診断による鉢物の安定生産実証ほに係る検討会	19. 12. 14	大船度普及センター	南部園芸研究室
藤尾拓也	農業大学校外研修（野菜経営科1学年）	19. 12. 18	農業大学校	南部園芸研究室
佐藤 弘 藤尾拓也	野菜収益性向上対策チーム実績検討会	20. 1. 16	農産園芸課	生工研
佐藤 弘	岩手県農村振興技術連盟大船度建設部会研修	20. 1. 16	(株)かねまつ建設	南部園芸研究室
佐藤 弘 藤尾拓也	夏秋イチゴ養液栽培研修会	20. 2. 7	釜石・大槌地域 農業振興協議会	陸前高田市 南部園芸研究室
藤尾拓也	いわて四季成りイチゴ研究会研修会	20. 2. 21	いわて四季成り イチゴ研究会	農業研究センター
<b>生産環境部</b>				
<b>環境保全</b>				
折坂光臣	環境保全型農業に係わる試験研究の推進状況	19. 7. 12	農業大学校	農業研究センター
折坂光臣	植物生産学特別講義	20. 1. 25	岩手大学	岩手大学
中野亜弓	岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修	20. 1. 21	農業普及技術課	アイーナ
佐藤千穂子	水田生態系等に関する出前授業	19. 9. 4	紫波第三中学校	紫波第三中学校
<b>土壌作物栄養</b>				
鈴木良則	農業大学校講義（土壌肥料）	19. 10. 16 10. 23 11. 2 20. 1. 29 2. 5	農業大学校	農業大学校
葉上恒寿	平成19年度新技術普及活動検討会（花き部門）	20. 1. 21	中央農業改良普及センター	県立花きセンター
葉上恒寿	花巻農協花き生産部会石鳥谷支部花き勉強会	20. 2. 7	花巻農協	志戸平温泉
鈴木良則	新技術普及指導検討会野菜部門（研究成果）	20. 1. 21	中央農業改良普及センター	農業研究センター
大友英嗣 葉上恒寿	普及員技術向上研修土壌診断	19. 11. 14	中央農業改良普及センター	農業研究センター
多田勝郎	いわて銀河ファーム農業体験塾講師	19. 5. 26 9. 22 12. 8	農業振興課	雫石町南畑
<b>保鮮流通技術</b>				
宍戸貴洋	アスパラガス実績検討会	19. 12. 10	北上市農協	北上市
〃	アスパラ栽培塾	20. 1. 30	中央普及センター	庁内2階中会議室
関村照吉	普及サポートセンター職員加工技術研修	19. 10. 26	普及サポートセンター	ふれあい公園 加工工房

担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>病害虫部</b> <b>病理昆虫</b>				
鈴木敏男	りんどう 高収益栽培研修会	19. 5. 10	盛岡地方農業農村振興協議会 八幡平市農業振興支援センター	八幡平市安代若者総合活動センター
鈴木敏男	ハダニ防除研修会	19. 5. 24	二戸地方農林水産振興協議会	二戸地方振興局
鈴木敏男	岩手県におけるカメムシ類の発生生態及び防除法	19. 5. 22	東北バイエル会	農業研究センター
藤沢 巧 猫塚修一	第 1 回小ぎく収量向上研修会－主要病害虫防除について	19. 5. 30	中央農業改良普及センター	農業研究センター
藤沢 巧	小菊栽培研修会「小菊の主要害虫の防除について」	20. 2. 1	北上市小菊生産振興協議会	農業研究センター
藤沢 巧 猫塚修一	INSV 研修会	20. 3. 4	病害虫防除所	農業研究センター
藤沢 巧	平成 19 年度全国ホップ後継者対策会議「ホップ農薬の登録状況について」	19. 8. 2	全国ホップ連合組合	北上市ホテルニューヴェール
猫塚修一	東北農業研究センター公開シンポジウム「省農薬りんご生産を支える技術と営農戦略としての可能性」	20. 3. 7	東北農業研究センター	東北農業研究センター
横田 啓	岩手県における斑点米カメムシの発生生態と効率的防除法	19. 7. 26	由利本荘市	農業研究センター
横田 啓	水田営農を元気にする新技術等普及戦略検討会「アカスジカスミカメ越冬世代幼虫の密度低減に効果的な草刈時期」	20. 1. 25	中央農業改良普及センター	農業研究センター
横田 啓	久慈地方売れる米づくり研修会「斑点米カメムシの基本と防除対策」	20. 2. 21	久慈農業改良普及センター	久慈地方合同庁舎
横田 啓	江釣子地区農村自然環境推進協議会「田んぼと害虫の話について」	20. 2. 27	江釣子地区農村自然環境推進協議会	北上市江釣子ふれあいセンター
横田 啓	水稻カメムシ被害対策研修会「水稻斑点米カメムシの生態と被害軽減対策について」	20. 3. 12	大船渡農業改良普及センター	釜石・大槌地域産業育成センター
岩館康哉	東北農業研究センター公開シンポジウム	19.12. 7	東北農業研究センター	福島市「コラッセふくしま 4 階（多目的ホール）」
岩館康哉	キュウリホモブシス根腐病防除実演会	18. 4. 3	中央農業改良普及センター	花巻市糠塚
岩館康哉	キュウリホモブシス根腐病防除実演会	18. 4. 27	中央農業改良普及センター	北上市和賀
岩館康哉	キュウリホモブシス根腐病防除実演会	18. 5. 10	中央農業改良普及センター	花巻市東和町石鳩岡
岩館康哉	キュウリホモブシス根腐病現地検討会	18. 7. 29	中央農業改良普及センター	北上市和賀
岩館康哉	きゅうり土壌病害対策研修会	19.12.24	中央農業改良普及センター	農業研究センター

担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>畜産研究所</b>				
<b>家畜飼養</b>				
越川志津	家畜商講習会「牛の品種と特徴」	19. 7. 17	県畜産課	盛岡合庁
越川志津	家畜飼養管理 I 講義「カウコンフォート」	19. 9. 14	農業大学校	農業大学校
茂呂勇悦	研修会「飼料価格の高騰」	19. 9. 7	いわてミルクランド協議会	花巻市
越川志津	人工授精講習会「家畜の栄養生理」	19. 10. 23	県畜産課	農業大学校
茂呂勇悦	人工授精講習会「家畜の飼養管理」	19. 10. 24	県畜産課	農業大学校
茂呂勇悦	研修会「手取りを増やす秘訣」	19. 11. 23	いわてミルクランド協議会青年部	花巻市
茂呂勇悦	家畜飼養管理 I 講義「牛群検定について」	20. 1. 30	農業大学校	農業大学校
越川志津	平成 19 年度家畜生産性向上飼養技術等普及推進事業に係る地域段階勉強会「MUN を活用した飼料給与と簡易診断」	20. 2. 27	畜産協会	奥州市 金ヶ崎町
茂呂勇悦	平成 19 年度家畜生産性向上飼養技術等普及推進事業に係る地域段階勉強会「MUN を活用した飼料給与と簡易診断」	20. 3. 3	畜産協会	一関市
茂呂勇悦	第 2 回畜産技術研修会「破砕処理・黄熟後期トウモロコシサイレージ多給による泌乳牛の飼料代低減効果」	20. 3. 4	岩手県畜産技術連盟	盛岡市
<b>飼料生産</b>				
平久保友美	牧草・飼料作物品種選定ネットワーク推進会議「トウモロコシの不耕起栽培について」	20. 1. 31	東北農業研究センター	サンセール盛岡
	飼料用トウモロコシの不耕起差倍について	20. 3. 4	岩手県畜産技術連盟畜産技術研究会	サンセール盛岡
尾張利行	飼料用イネの給与技術について	20. 2. 18	岩手県飼料増産推進協議会	サンセール盛岡
<b>家畜工学</b>				
細川泰子	供卵牛の飼養管理	19. 6. 26	農業大学校	農業大学校
菊池 雄	体内受精卵移植技術の基礎理論 I	19. 8. 23	農業大学校	農業大学校
菊池 雄	体内受精卵移植技術の基礎理論 II	19. 8. 24	農業大学校	農業大学校
福成和博	核移植等の新技術利用の家畜生産	19. 9. 3	農業大学校	農業大学校
細川泰子	受卵牛の飼養管理	19. 9. 4	農業大学校	農業大学校
佐藤洋一	DNA 解析とその応用	19. 9. 6	農業大学校	農業大学校
細川泰子 福成和博	正常卵率向上のための飼養給与プログラム講習会	19. 10. 19	盛岡振興局畜産課	畜産研究所
細川泰子	家畜人工授精講習会	19. 10. 30	県畜産課	農業大学校
福成和博	家畜人工授精講習会	19. 10. 31	県畜産課	農業大学校
福成和博	受精卵移植実習	19. 11. 12 19. 11. 13 19. 11. 19 19. 11. 20	農業大学校	農業大学校



担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
細川泰子 福成和博	宮古地域人工授精師研修会	19. 11. 21	宮古振興局畜産 衛生課	岩泉町
細川泰子	家畜受精卵移植講習会	20. 2. 7	県畜産課	農業大学校
細川泰子	家畜受精卵移植講習会	20. 2. 21 20. 2. 22 20. 2. 25	県畜産課	農業大学校
福成和博	家畜受精卵移植講習会	20. 2. 19 20. 2. 21 20. 2. 22 20. 2. 25	県畜産課	農業大学校
<b>家畜育種</b>				
安田潤平 吉田 力	畜産飼料の国内自給を高める全国集会	19. 6. 14	実行委員会	盛岡市アイーナ
安田潤平	安代短角牛共進会審査員	19. 7. 19	八幡平市	八幡平市安代
吉田 力	県共進会肉牛の部審査員	19. 10. 20	岩手県畜産協会	岩手畜産流通セン ター
佐々木直	岩手大学獣医学科臨床繁殖学実習	19. 10. 22	岩手大学農学部	畜産研究所
吉田 力	家畜飼養管理「肉用牛Ⅰ」	19. 11. 20	農業大学校	農業大学校
安田潤平	家畜飼養管理「肉用牛Ⅱ」	19. 12. 18	農業大学校	農業大学校
<b>外山畜産</b>				
藤澤牧人	本県の肉用牛の放牧管理について	19. 12. 5	農業大学校	金ヶ崎町
<b>種山畜産</b>				
児玉英樹	平成19年度家畜商講習会 「家畜の特徴の取り方」、「家畜の悪癖及び機能障 害」	19. 7. 18	岩手県畜産課	盛岡地区合同庁舎
藤村和哉	平成19年度家畜人工授精講習会 家畜の審査（肉牛）（実習）	19. 10. 26	岩手県畜産課	畜産研究所
渡辺 彩	精子生理 精液精子検査法（実習）	19. 10. 29 11. 8	同上	同上
児玉英樹 藤村和哉	平成19年度家畜人工授精講習会 精液採取、消毒、器具機械、凍結・液状精液（実習）	19. 11. 5 ～6 11. 12 ～13	同上	同上
藤村和哉 渡辺 彩	県中央地区和牛女性研修会	20. 1. 31	いわて和牛中央 育種組合	花巻市
	県南地区和牛女性研修会	20. 1. 29	県南和牛育種組 合	花巻市
児玉英樹	岩手中央農協畜産部会肉牛専門部会研修会	20. 1. 21	岩手中央農協	紫波町
児玉英樹	平成19年度家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植 （牛）に関する講習会 体内受精卵の処理（講義及び実習）	20. 2. 8 2. 12 2. 14	岩手県畜産課	農業大学校
渡辺 彩	平成19年度岩手ふるさと農協和牛改良組合前沢支 部総会記念講演会	20. 2. 22	岩手ふるさと農 協 同農協和牛改良 組合前沢支部	奥州市前沢区

担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
大森仁 渡辺彩 藤村和哉	家畜市場ワンポイント講習会「今売れている県有種雄牛の紹介」	19. 7. 11 ～12 7. 18 ～20	JA 全農いわて	家畜市場
小松繁樹 渡辺 彩 藤村和哉	岩手県農業大学校講義 家畜飼養管理 I	19. 9. 21 11. 2 11. 16	農業大学校	農業大学校
児玉英樹 渡辺 彩 藤村和哉	家畜市場ワンポイント講習会「県有種雄牛の現状について」	20. 1. 9 ～10 1. 16 ～17	JA 全農いわて	家畜市場
渡辺 彩	江刺授精師会意見交換会「県有種雄牛の現状について」	20. 7. 4	江刺授精師会	奥州市江刺区
藤村和哉	いわてくじ和牛改良組合研修会（市場報告会） 県有種雄牛の紹介	19. 12. 18	JA いわてくじ	久慈市
渡辺 彩 藤村和哉	岩手南農協平泉町和牛生産部会第 37 回通常総会 県有種雄牛の紹介	19. 4. 26	JA 岩手南	平泉町
<b>県北農業研究所</b>				
<b>営農技術</b>				
荻内謙吾	小麦の初冬期播種栽培法について 講師	19. 12. 4	いわてアグリフロンティアスクール（農業普及技術課）	岩手大学
吉田樹史	レタス生産安定対策委員会 講師	20. 2. 14	レタス生産安定対策委員会	一戸町奥中山
	レタス生産安定研修会 講師	20. 3. 24	レタス生産安定対策委員会	一戸町奥中山
<b>産地育成</b>				
佐藤正昭	冬春野菜事業現地検討会	19. 12. 19	東北農研センター	一戸町奥中山
	促成アスパラガス研修会 講師	20. 1. 23	JA 奥中山	一戸町奥中山
川戸善徳	久慈地方フラワーコンテスト審査	19. 9. 10	久慈地方農業活性化推進協議会	久慈市
	小ぎく栽培技術向上研修会 講師	19. 12. 18	J A 北いわて	九戸村
田代勇樹	園芸流通改善セミナー 講師	20. 3. 13	流通課	花巻市
	レタス生産安定対策委員会 講師	20. 2. 14	レタス生産安定対策委員会	一戸町奥中山
	レタス生産安定研修会 講師	20. 3. 24	レタス生産安定対策委員会	一戸町奥中山
目時梨佳	久慈地方ほうれんそうセミナー 講師	19. 10. 29	久慈農業改良普及センター	久慈市
<b>やませ利用</b>				
仲條眞介	雑穀研究会シンポジウム	20. 8. 27	雑穀研究会	軽米町、県北農業研究所

### 3 視察者、見学者の受け入れ状況

区 分	公式来所者数	非公式来所者数	合 計	備 考
本 部	1,710人	3,330人	5,040人	平成19年4月～平成20年3月  【その他】 本部、畜産研究所の非公式来所者数には、 春季一般公開及び参観デー来所者を含 む。
畜産研究所	628人	615人	1,243人	
県北農業研究所	560人	90人	650人	
計	2,898人	4,035人	6,933人	

### 4 春季一般公開及び参観デー

名 称	開催期日	開催場所	参集人員
農業研究センター 春季一般公開	19.4.16～21	農業ふれあい公園「農業科学博物館」	16名
農業研究センター 参観デー（本部）	19.9.7～8	農業研究センター本部	3,330名
” （畜産研究所）	19.8.23～25	岩手県産業文化センター「アピオ」他	4,943名
” （県北農業研究所）	19.8.31	県北農業研究所	260名

### 5 現地ふれあい農業研究センター

開催期日	開催場所	主 な 内 容	参集人員
19.11.14	一関市 川崎公民館	一関地方におけるキュウリホモブシ根腐れ病の発生状況と対策について	46名
19.11.21	一関市 磐井農業共済組合	切り花流通段階における鮮度保持技術について	56名

### 6 一日子供農業研究員

名 称	開催期日	内 容	参集人員
一日子供農業研究員 ～夏休み 蚕の研究～	19.8.2	小学5年生を対象とした蚕の研究 (蚕の観察、飼育体験)	18名

### 7 加工体験

項 目	人 数 (件 数)
加工実習・講習	292人 (23件)

※H16年度から特産品試作の項目は加工実習に含めた。

## 8 研修生の受け入れ

### (1) 海外研修

※H19 受け入れ無し

### (2) 短期研修生

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
紺野 愛美	奥州市江刺区	主要果樹の栽培管理実習	園芸畑作部 (果樹)	H19. 4. 1 ~H20. 3. 31
佐々木 俊洋	花巻市大迫町	果樹の栽培技術の習得	園芸畑作部 (果樹)	H19. 4. 1 ~H20. 3. 31
昆野 喬宏 稲田 寛之 菅原 隼人	岩手中部農業共済組合 胆江地域農業共済組合 磐井農業共済組合	水稻栽培技術研修	農産部 (水田作)	H19. 5. 15 ~H19. 11. 8 (実 10 日)
加藤 和夫 飯森 章弘 工藤 秀一 小野寺 秀治	岩手中部農業共済組合 胆江地域農業共済組合 岩手北部農業共済組合 岩手県農業共済組合連合会	果樹栽培技術研修	園芸畑作部 (果樹)	H19. 6. 12 ~H20. 1. 17 (実 12 日)

### (3) 体験学習の受け入れ

ア 小中学校及び高等学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの

所属	研修内容	人数	受け入れ研究室等	期日
黒沢尻北高等学校	職業・ボランティア体験学習	1 名	野菜畑作研究室	H19. 8. 2
千厩高等学校	岩手県の農業、各研究の見学	39 名	企画情報室、病虫害防除課	H19. 9. 28
北上市立南中学校	総合学習	38 名	保鮮流通研究室	H19. 10. 4
室根中学校	進路学習の一貫	48 名	水稻育種研究室	H19. 10. 30
花巻養護高等学校	リングジュース製造体験学習	50 名	保鮮流通技術	H19. 11. 20

イ インターシップ等に対応したもの

※H19 該当無し

## 9 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手農林研究協議会 (AFR)	副会長	岩手大学農学部	所長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	企画経営情報部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	農産部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	園芸畑作部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	生産環境部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	病虫害部長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	畜産研究所長
岩手農林研究協議会 (AFR)	委員	岩手大学農学部	県北農業研究所長
岩手農林研究協議会 (AFR) 幹事会	幹事	岩手大学農学部	農産部長
岩手農林研究協議会 (AFR) 植物耐冷性研究会	代表	岩手大学農学部	水稲育種研究室長
岩手県施肥合理化協議会	参与	全農岩手県本部	副所長
岩手県施肥合理化協議会	参与	全農岩手県本部	畜産研究所長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	水田作研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	果樹研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	野菜畑作研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	土壌作物栄養研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	飼料生産研究室長
岩手県施肥合理化協議会	幹事	全農岩手県本部	営農技術研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物・水稲)	委員	NOSA I 岩手	水田作研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (任 意)	委員	NOSA I 岩手	生産工学研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (果 樹)	部会長	NOSA I 岩手	果樹研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物・災害収入)	委員	NOSA I 岩手	野菜畑作研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (畑作物)	委員	NOSA I 岩手	主任専門研究員 (野菜畑作研究室)
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (園芸施設)	委員	NOSA I 岩手	花き研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (園芸施設)	委員	NOSA I 岩手	南部園芸研究室長
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (畑作物・蚕繭)	委員	NOSA I 岩手	産地育成研究室長
岩手県植物防疫協会	運営幹事	(社)植物防疫協会	病虫害部長
岩手県植物防疫協会	運営幹事	(社)植物防疫協会	農産部長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	水田作研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	果樹研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	野菜畑作研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	病理昆虫研究室長
岩手県植物防疫協会	事業幹事	(社)植物防疫協会	飼料生産研究室長
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員	日本植物調節剤研究協会東北支部	水田作研究室長
日本植物調節剤研究協会東北支部	監事	日本植物調節剤研究協会	野菜畑作研究室長
岩手県農業気象協議会	委員	農業普及技術課	企画経営情報部長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	水田作研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	果樹研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	環境保全研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	飼料生産研究室長
岩手県農業気象協議会	幹事	農業普及技術課	やませ利用研究室長
「いわて純情産地を守り・育てる運動」推進協議会	委員	農業普及技術課	環境保全研究室長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
「いわて純情産地を守り・育てる運動」推進協議会	委員	農業普及技術課	飼料生産研究室長
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長	農村計画課	副所長
土地改良事業営農推進対策委員会	委員	農村計画課	園芸畑作部長
土地改良事業営農推進対策委員会	委員	農村計画課	県北農業研究所長
土地改良事業営農推進対策委員会	中央幹事	農村計画課	飼料生産研究室長
岩手県農作業安全対策協議会	委員	農産園芸課	副所長
岩手県農作業安全対策協議会	委員	農産園芸課	畜産研究所長
岩手県経営構造対策推進委員会	委員	岩手県農業会議	企画経営情報部長
日本農業経営学会	理事	(独)中央農業総合研究センター	農業経営研究室長
東北農業経済学会	評議員、理事	東北大学農学部	農業経営研究室長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長	農産園芸課	県北農業研究所長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員	農産園芸課	農業経営研究室長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員	農産園芸課	やませ利用研究室長
岩手県果樹産地づくりコンクール	審査委員	農産園芸課	農業経営研究室長
岩手県農業農村整備事業地区担い手育成協議会	委員	農村建設課	農業経営研究室長
土地改良事業営農推進対策委員会	委員	農村計画課	農業経営研究室長
いわて純情米体質強化推進協議会	幹事	全農岩手県本部	農産部長
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定委員会	委員	(社)農産物改良種苗センター	水田作研究室長
岩手県農業共済保険審査委員会	委員	団体指導課	農産部長
いわて純情米需要拡大推進協議会	幹事	流通課	農産部長
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産園芸課	農産部長
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	主任専門研究員 (生産工学研究室)
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	主任専門研究員 (生産工学研究室)
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	主任専門研究員 (生産工学研究室)
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	主任専門研究員 (生産工学研究室)
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱)	農業大学校	技能員 (生産工学研究室)
北上市みどりのまちづくり審査会	審査員	北上市	園芸畑作部長
岩手県果樹産地づくりコンクール	審査委員長	農産園芸課	園芸畑作部長
岩手県果樹産地づくりコンクール	審査委員	農産園芸課	果樹研究室長
2006 いわて純情りんごコンテスト	審査委員長	全農岩手県本部	園芸畑作部長
2006 いわて純情りんごコンテスト	審査員	全農岩手県本部	果樹研究室長
花の国づくり岩手県協議会	会員	流通課	園芸畑作部長
岩手県花き産地づくりコンクール	審査委員長	農産園芸課	園芸畑作部長
いわてフラワーコンテスト 2006	審査委員長	花の国づくり岩手県協議会	園芸畑作部長
いわてフラワーコンテスト 2006	審査委員	花の国づくり岩手県協議会	花き研究室長
北上市小菊生産振興協議会	構成員	J A北上市	花き研究室長
岩手純情野菜産地力強化共励会審査委員会	審査委員	農産園芸課	野菜畑作研究室長
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会	委員	農産園芸課	園芸畑作部長
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会事務局	事務局員	農産園芸課	野菜畑作研究室長
いわての大豆普及推進協議会	委員	流通課	園芸畑作部長
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定委員会	委員	農産物改良種苗センター	野菜畑作研究室長
岩手県麦民間流通地方協議会	構成員	全農岩手県本部	野菜畑作研究室長
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員長	農産園芸課	園芸畑作部長
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	野菜畑作研究室長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	やませ利用研究室長
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員長	農産園芸課	園芸畑作部長
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	野菜畑作研究室長
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員	農産園芸課	やませ利用研究室長
岩手県特産農作物生産振興共進会審査委員会	審査委員	農産園芸課	野菜畑作研究室長
麦・大豆収益性向上対策チーム	構成員	農産園芸課	野菜畑作研究室長
野菜収益性向上対策チーム	構成員	農産園芸課	野菜畑作研究室長
大船渡地方農業振興協議会	幹事	大船渡地方振興局農林部	南部園芸研究室長
大船渡地方農林水産振興連絡協議会	構成員	大船渡地方振興局農林部	南部園芸研究室長
大船渡地区行政連絡協議会	構成員	大船渡地方振興局企画総務部	南部園芸研究室長
陸前高田市総合農政推進協議会	委員	陸前高田市	南部園芸研究室長
住田町農業振興協議会	構成員	住田町	南部園芸研究室長
岩手県農薬管理使用アドバイザー認定委員会	委員	農業普及技術課	環境保全研究室長
岩手県埋設農薬適正管理専門家会議	委員	農業普及技術課	生産環境部長
いわて地産地消推進会議	委員	特定非営利活動法人いわて NPO センター	保鮮流通技術研究室長
岩手県ふるさと食品コンクール	審査員	流通課	保鮮流通技術研究室長
西和賀むらづくりフォーラム・地域特産加工コンクール	審査員	中央農業改良普及センター	上席専門研究員 (保鮮流通研究室)
岩手県獣医師会学術広報委員会	副委員長	岩手県獣医師会	首席兼家畜工学研究室長
岩手県農協大型酪農経営連絡協議会	委員	全農岩手県本部	畜産研究所長
ミルクシステム診断事業推進委員会	委員	(社)岩手県畜産協会	家畜飼養研究室長
岩手県乳用牛群検定推進協議会	幹事	(社)岩手県畜産協会	家畜飼養研究室長
県南和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	専門研究員 (種山畜産研究室)
中央和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	専門研究員 (種山畜産研究室)
第9回全国和牛能力共進会出品対策委員会	委員	畜産課、全農岩手県本部	種山畜産研究室長
全国和牛登録協会登録委員産肉能力検定委員会	委員	全国和牛登録協会	専門研究員 (種山畜産研究室)
和牛改良専門委員会	委員	全国和牛登録協会岩手県支部	種山畜産研究室長
日本短角種集団育種推進協議会	委員	日本短角種集団育種推進協議会畜産課	家畜育種研究室長
いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会	委員	畜産課	家畜育種研究室長
第9回全国和牛能力共進会出品対策委員会	委員	畜産課、全農岩手県本部	家畜育種研究室長
日本短角種研究会	評議員	日本短角種研究会	家畜育種研究室長
盛岡市牧野運営協議会委員	委員	盛岡市	外山畜産研究室長
日本短角種集団育種推進事業協議会	委員	畜産課	外山畜産研究室長
東北草地研究会	幹事	東北大学農学部	飼料生産研究室長
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	畜産課	飼料生産研究室長
岩手県畜産技術連盟	世話人	畜産研究所	畜産研究所長
岩手県飼料増産推進協議会	委員	畜産研究所	水田作研究室長
岩手県飼料増産推進協議会	委員	畜産研究所	飼料生産研究室長
高性能畜産機械等普及促進協議会	委員幹事	新農業機械実用促進(株)	飼料生産研究室長
岩手農林統計協会二戸支部	会員	東北農政局二戸統計情報センター	県北農業研究所長





## VI 職員研修



## 1 大学院派遣

職・氏名	所属部所・研究室	研究内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 濱戸 もえぎ	畜産研究所 飼料生産研究室	環境負荷軽減のための地力評価に基づく施肥法の確立	岩手大学大学院 連合農学研究科	H15年度～
主任専門研究員 猫塚 修一	病害虫部 病理昆虫研究室	リンドウ褐斑病の発生病態の解明	岩手大学大学院 連合農学研究科	H19年度～
専門研究員 阿部 陽	農産部 水稻育種研究室	水稻の重要形質に関与する QTL 遺伝子の単離・同定および機能解析	岩手大学大学院 連合農学研究科	H19年度～

## 2 海外派遣・研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容等	派遣先	派遣期間
上席専門研究員 関村 照吉	生産環境部 保鮮流通技術研究室	りんどう海外輸出に係る鮮度保持調査	台湾	19.10.9 ～10.13

## 3 国内研修への派遣

### (1) 依頼研究員

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 及川 あや	農産部 水田作研究室	水稻の高品質・多収生理機構の解明	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所	19.9.3 ～11.30
専門研究員 安田 潤平	畜産研究所 家畜育種研究室	赤身主体牛肉を中心とした、品質評価手法の習得	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所	19.9.3 ～11.30

### (2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 松浦 貞彦行	企画経営情報部 農業経営研究室	農業生産における技術と経営の評価方法	農林水産技術会議事務局筑波事務所	19.7.2 ～7.6
専門研究員 山口 貴之	園芸畑作部 野菜畑作研究室	農業生産における技術と経営の評価方法	農林水産技術会議事務局筑波事務所	19.7.2 ～7.6
専門研究員 高草木 雅人	農産部 水稻育種研究室	数理統計（基礎編Ⅱ）	農林水産技術会議事務局筑波事務所研究情報計算センター	19.11.7 ～11.9

### (3) 農林水産関係中堅研究者研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
上席専門研究員 鈴木 良則	生産環境部 土壌作物栄養研究室	平成19年度農林水産関係中堅研究者研修	農林水産技術会議事務局筑波事務所研究情報計算センター	19.12.12 ～12.14

(4) 農林水産研究高度化人材育成セミナー (H19 該当なし)

(5) その他

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 仲條真介	県北農業研究所 やませ利用	雑草防除担当者研修会	(独) 農業・食品産業 技術総合研究機構 東北農研センター 大仙研究拠点	19. 4. 19 ～20
主任専門研究員 中野亜弓	生産環境部 環境保全	Waters 分析研修	盛岡市マリオス	19. 7. 11
専門研究員 松浦貞彦	企画経営情報部 農業経営	平成 19 年度自治体農政総合研究会	(社) 農業開発研修 センター	19. 8. 6 ～ 8
専門研究員 阿部直行	企画経営情報部 農業経営	平成 19 年度農産物流通研究会	(社) 農業開発研修 センター	19. 9. 12 ～14
専門研究員 大友英嗣	生産環境部 土壌作物栄養	土壌調査法現地研修会	土壌保全事業全国 協議会、新潟県	19. 10. 4 ～ 5
専門研究員 洞口 博昭	生産環境部 環境保全	第 3 種放射線取扱主任者研修	(独)日本原子力研究 開発機構東海開発 センター	19. 10. 24 ～26
専門研究員 臼井紀子	農産部 応用生物学	第 1 種放射線取扱主任者講習	(独)日本原子力研究 開発機構東海研究 開発センター原子 力科学研究所 原 子力研修センター	20. 1. 21 ～25
技能員 藤根寛道	県北農業研究所 総務課	乾燥設備作業主任者技能講習	(財) 岩手労働基準 協会	20. 2. 5 ～ 6

#### 4 所内セミナー等

名 称	開催期日	内 容	参集人員
〔本 部〕 所内研修	20. 2. 19	「数理統計(基礎編Ⅱ)」 高草木 雅人(水稻育種研究室 専門研究員)	13名
平成 19 年度依頼研究 員研修成果報告会	20. 3. 4	「水稻の高品質・多収生理機構の解明」 及川 あや(水田作研究室 専門研究員)	25名
	20. 3. 10	「赤身主体牛肉を中心とした、品質評価手法の習得」 安田 潤平(家畜育種研究室 専門研究員)	20名
〔農産部〕 農産部ゼミ	19. 4. 26	山羊による水田畦畔の雑草管理について 須藤勇人(生産工学研究室 主任専門研究員)	9名
	19. 6. 1	雑穀の種類について 長谷川聡(水田作研究室 主任専門研究員) 「H19 農産部における行政品質向上のヒントについて」 佐々木力(応用生物工学研究室 室長)	14名
	19. 7. 5	超低温保存について 星 伸枝(応用生物工学研究室 主任専門研究員) 自動車技術の歴史 菅野輝彦(農産部 技能員)	11名
	19. 8. 23	運転免許の仕組み、歴史、交通違反の点数制度と反則金、運転免許の I C カード化、コンプライアンスの遵守と交通三悪について 伊藤勝浩(生産工学研究室 主任専門研究員)	10名
	19. 9. 20	十勝の農業について 阿部陽(水稻育種研究室 専門研究員)	13名
	19. 10. 29	脳内メーカーについて 林尻雄大(水田作研究室 主任専門研究員) 水稻栽培と品種の変遷 木内 豊(水稻育種研究室 室長)	12名
	19. 11. 22	世界が 1 0 0 人の村だったら 農業版 藤原敏(生産工学研究室 主任専門研究員) ジーンズの発明と歴史 菊池徳章(農産部 技能員)	9名
	19. 12. 25	東京の農業探検 及川あや(水田作研究室 専門研究員) 性格分析について 木内 豊(水稻育種研究室 室長)	9名
	20. 2. 21	バイオテクノロジーについて 臼井紀子(応用生物工学研究室 専門研究員) 土木工事などで広く使用されているコンクリートについて 豊坂光弘(生産工学研究室 主任専門研究員) それでもボクはやっていない 高草木雅人(水田作研究室 専門研究員)	16名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
LAMP 法講習会	19. 10. 3	LAMP 法の原理紹介ならびに本法を利用した病害診断法の実習 参加者：本部研究員、防除所、(財)岩手生工研	12 名
所内セミナー	19. 10. 22	「イネゲノム研究成果を活用したイネ育種の展望」 山本 敏央（独立行政法人農業生物資源研究所 QTL ゲノム育種研究センター主任研究官）	20 名
<b>[園芸畑作部]</b>			
園芸畑作部試験圃場 研修会	19. 6. 13	果樹、畑作、野菜、花きの各試験圃場にて研究進捗状況等を研修	47 名
園芸畑作部ゼミ	19. 4. 26	蜜蜂の生態と農業上の価値 小野田和夫（園芸畑作部長） ミミズの分類と生態系に果たす役割 阿部 潤（花き研究室長）	20 名
	19. 5. 30	篤農家から依頼された結実調査で学んだこと 田村博明（果樹研究室長） ブルーベリーの大玉生産を目指して 高橋 司（果樹研究室 主任専門研究員）	20 名
	19. 7. 27	ドリフトに関する試験について 小野浩司（果樹研究室 主任専門研究員） 気候温暖化が落葉果樹の休眠、開花現象に及ぼす影響 大野 浩（果樹研究室 専門研究員）	20 名
	19. 9. 11	世界を知ろう！日本を伝えよう！ 畠山隆幸（果樹研究室 専門研究員） 平均値の差の検定と分散分析 及川一也（野菜畑作研究室長）	
	20. 2. 8	日本語は難しい。外来語はもっと・・・ 高橋昭喜（野菜畑作研究室 主任専門研究員） 沖縄県における地域資源を活用した農産物の商品化と農業経営 井村裕一（野菜畑作研究室 主任専門研究員） 顧客ニーズを捉えた産直組織支援 伊藤信二（野菜畑作研究室 専門研究員） 短根ゴボウの安定栽培技術の検討 高橋拓也（野菜畑作研究室 主任専門研究員）	20 名
	20. 3. 14	国際イチゴシンポジウムに参加して 山口貴之（野菜畑作研究室 専門研究員） りんどうの品種開発の課題 川村浩美（花き研究室 主任専門研究員） 均時差のはなし 千葉賢一（花き研究室 主任専門研究員） りんどうの生態研究について 中里 崇（花き研究室 専門研究員）	20 名
<b>[生産環境部]</b>			
生産環境部ゼミ	19. 6. 8	寒締めほうれんそうの内部成分分析結果と糖の簡易測定法について 宍戸貴洋（保鮮流通技術研究室 専門研究員）	10 名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
	19. 7. 4	有機入り液肥の寒冷地におけるトマト雨よけ普通栽培および水稲育苗に対する施用効果 鈴木良則（土壌作物栄養研究室 上席専門研究員） 肥効調節型肥料を用いたりんどう株養成期間における新規施肥法 葉上恒寿（土壌作物栄養研究室 専門研究員）	8名
	19. 8. 2	生物多様性に関すること 武田眞一（副所長）	12名
	19.10.22	畑作地帯における硝酸性窒素等の動態解明と負荷軽減技術の確立 洞口博昭（環境保全研究室 専門研究員） 水稲有機100%育苗用肥料の検討 大友英嗣（土壌作物栄養研究室 専門研究員）	10名
	20. 2. 7	りんどう切り花の遠距離輸送技術開発 関村照吉（保鮮流通技術研究室 上席専門研究員） 圃場整備予定地区におけるカエル類生息実態 佐藤千穂子（環境保全研究室 専門研究員）	10名
	20. 3.12	「いつも、川をみていた」 ー環境保全研究室・農薬環境影響関連成果ー 中野亜弓（環境保全研究室 主任専門研究員）	11名
<b>【病害虫部】</b>			
病害虫部部内ゼミ	19. 5. 9	防除所、病虫研の行政品質向上のための改善の方向	
	19. 7.31	新たな病害診断手法	
	19. 8.31	部発行資料（特に防除指針）の誤記載防止のためのシステム検討	
	19. 9.18	日本植物病理学会プレ発表	
	19.10.29	今年の病害虫発生実態についての要因解析	
	19.12. 5	成果検討研究成果・防除技術情報の内容検討	
	20. 2. 4	技術研修北日本病害虫研究会プレ発表	
<b>【畜産研究所】</b>			
依頼研究員成果伝達	20. 3.10	赤身肉主体牛肉を中心とした品質評価手法ー理化学分析及び官能評価等による肉質評価ー	40名
繁殖管理研修会	20. 3.14	歩行計測機械(カウメール)による繁殖等管理技術講習会	17名
<b>【県北農業研究所】</b>			
県北農業研究所参観 デーシンポジウム 「公開技術セミナー」 及び「ほ場公開」	19. 8.31	雑穀における雑草管理技術 荻内謙吾（営農技術研究室 主任専門研究員） 主な雑穀加害害虫の発生実態と生態 吉田樹史（営農技術研究室 専門研究員） 発酵鶏ふんを利用した雑穀無化学肥料栽培 漆原昌二（やませ利用研究室 主任専門研究員） 二戸地域雑穀栽培実証展示圃について 木村陽子（二戸農業改良普及センター 農業普及員）	150名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
所内ゼミ（個人発表）	19. 4. 23	土壌分析の実際 松浦拓也（営農技術研究室 専門研究員）	7名
公開技術セミナー（試験状況公開）	19. 5. 21	ほうれんそう安定生産技術について 目時梨佳（産地育成研究室 専門研究員） レタス安定生産技術について 田代勇樹（産地育成研究室 専門研究員） アスパラガス安定生産技術について 佐藤正昭（産地育成研究室長） 小ぎくの安定生産技術について 川戸善徳（産地育成研究室 主任専門研究員） 平成19年度県北農業研究所の取り組み方向 高橋修（次長兼営農技術研究室長）	23名
公開技術セミナー	19. 6. 18	雑穀育種の試験進捗状況 仲條真介（やませ利用研究室 主任専門研究員）	85名
「東北農業試験研究 発表会事前発表会」	19. 6. 22	岩手県北地域の水稲栽培における発酵鶏ふん・発酵豚ふんの利用法 松浦拓也（営農技術研究室 専門研究員） アワ栽培における早期培土を基本とした機械除草体系 荻内謙吾（営農技術研究室 主任専門研究員） 交雑によるもちアワ粒色改良の試み 仲條真介（やませ利用研究室 主任専門研究員） 岩手県北部におけるキビの機械栽培を前提とした播種量及び作期による栽培特性 漆原昌二（やませ利用研究室 主任専門研究員） ハウレンソウケナガコナダニの生態 目時梨佳（産地育成研究室 専門研究員）	16名
場内ほ場相互説明会	19. 7. 31	所内ほ場の巡回と研究員による試験進捗状況の相互説明	13名
所内ゼミ（個人発表）	19. 9. 21	J G A Pの概要 新毛晴夫（所長）	8名
研究課題中間検討会	19. 10. 11 ～12	研究課題の中間状況報告、予定研究成果の所内検討	12名
所内ゼミ（個人発表）	19. 10. 22	アレロパシー（他感物質の作用と利用）について 佐藤正昭（産地育成研究室長） ドライレコーダを利用した農業機械の安全対策について 高橋修（次長兼営農技術研究室長）	13名
所内ゼミ（個人発表）	19. 11. 22	技術文献検索サービス「J Dream II」の利用方法と留意点 大豆品種（山白玉、カルマイなど）の来歴と特性について 田代勇樹（産地育成研究室 専門研究員）	10名
所内ゼミ（個人発表）	19. 12. 25	県財政状況と節約について 作山匠（主幹兼総務課長）	12名



名 称	開催期日	内 容	参集人員
二戸地域雑穀研修会 「公開技術セミナー」	20. 1. 23	<p>早期培土を基本とした機械除草体系はキビにも適用できる 荻内謙吾（営農技術研究室 主任専門研究員）</p> <p>アワノメイガの被害を考慮したアワの適正播種量及び作期 吉田樹史（営農技術研究室 専門研究員）</p> <p>発酵鶏ふんを利用した無化学肥料栽培 松浦拓也（営農技術研究室 専門研究員）</p> <p>雑穀品種育成試験の現状と課題 仲條真介（やませ利用研究室 主任専門研究員）</p>	70名
所内ゼミ（個人発表）	20. 2. 26	<p>ロジカルプレゼンテーションについて 川戸善徳（産地育成研究室 主任専門研究員）</p> <p>メタボリック症候群の予防について 坂田真樹子（総務課 主事）</p>	12名



## VII 試験研究以外の業務概要



## 1 作物の原々種の採種

### (1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (単位)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
水稲 (うるち)	ひとめぼれ	10.3(a)	258(kg)	農業研究センター
	あきたこまち	5.0(a)	78(kg)	〃
	どんぴしゃり	2.5(a)	18(kg)	〃
	ササニシキ	7.0(a)	124(kg)	〃
	ぎんおとめ	8.0(a)	29(kg)	〃
大豆	ナンブシロメ	16.0(a)	選別中	農業研究センター

### (2) その他原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (単位)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
りんどう	AZ系	—	20ml	農業研究センター
	北海道系	—	10ml	〃
	矢巾系	—	20ml	〃
	白系	—	5ml	〃
	ササ系	—	20ml	〃
	その他	—	40ml	〃

## 2 作物の原種の採種

### (1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (面積)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
水稲うるち	いわてっこ	75(a)	2,480(kg)	農業研究センター
	あきたこまち	130(a)	3,720(kg)	〃
	ひとめぼれ	290(a)	11,680(kg)	〃
	どんぴしゃり	30(a)	720(kg)	〃
	ササニシキ	30(a)	1,020(kg)	〃
水稲もち	ヒメノモチ	50(a)	1,966(kg)	農業研究センター
	カグヤモチ	25(a)	695(kg)	〃
小麦	ナンブコムギ	350(a)	4,950(kg)	農業研究センター
	ゆきちから	80(a)	3,240(kg)	〃
大豆	ナンブシロメ	70(a)	選別中	農業研究センター
	スズカリ	70(a)	選別中	〃
	ユキホマレ	20(a)	選別中	〃
	すずほのか	20(a)	選別中	〃

(2) その他原種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (単位)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
小ぎく	アイマムアーリーイエロー	—	20 株	農業研究センター
	アイマムホワイト	—	20 株	〃
	アイマムホワイトピーチ	—	20 株	〃
	アイマムピンク	—	20 株	〃
	アイマムイエロー	—	20 株	〃
	アイマムレモンイエロー	—	20 株	〃
	アイマムオータムホワイト	—	20 株	〃
	アイマムパープルレッド	—	20 株	〃
	アイマムアーリーホワイト	—	20 株	〃
	アイマムオレンジ	—	20 株	〃
	アイマムレッド	—	20 株	〃
りんどう	ENG 他	—	20ml	農業研究センター
	AZ	—	25ml	〃
	IHO	—	20ml	〃
	HO2・1・4	—	20ml	〃
	えぞ早生	—	20ml	〃
	Sen2	—	20ml	〃
	Y5・1・4	—	30ml	〃
	Ma	—	10ml	〃
	Y5・3・1	—	20ml	〃
	OK100	—	10ml	〃
	TO2S	—	10ml	〃

3 種苗等の配布

(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布

種 類	品 種	数 量 (単位)	配 布 先
水稻うるち原種	あきたこまち	3,520(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	どんぴしゃり	520(kg)	〃
	ひとめぼれ	11,160(kg)	〃
	いわてっこ	1,440(kg)	〃
	かけはし	800(kg)	〃
	ササニシキ	340(kg)	〃
	吟ぎんが	60(kg)	〃
	ぎんおとめ	40(kg)	〃
水稻もち原種	ヒメノモチ	1,400(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	カグヤモチ	140(kg)	〃
	もち美人	120(kg)	〃

種 類	品 種	数 量 (単位)	配 布 先
小麦原種	ナンブコムギ	4,110(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ゆきちから	1,620(kg)	〃
	ネバリゴシ	240(kg)	〃
大豆原種	ナンブシロメ	730(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	スズカリ	570(kg)	〃
	青丸くん	20(kg)	〃
	コスズ	10(kg)	〃

(2) その他種苗の配布

種 類	品 種	数 量 (単位)	配 布 先
小豆原種	岩手大納言	17(kg)	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ベニダイナゴン	6(kg)	〃
えだまめ原種	ちゃげ丸	30 $\frac{1}{100}$	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
小ぎく	(平成 19 年度需要なし)	—	
りんどう種子	ENG	0.3ml	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	A Z	0.2	〃
	I H O	0.2	〃
	H O 2 ・ 1 ・ 4	0.1	〃
	M a	0.1	〃
	Y 5 ・ 1 ・ 4	0.2	〃
	Y 5 ・ 3 ・ 1	0.2	〃
	T O 2 S	0.2	〃

#### 4 県有種雄牛の精液の供給

(畜産研究所種山畜産研究室：平成20年3月31日現在)

##### (1) 黒毛和種

(単位：本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第5夏藤		10	5			3					?	?	18
第3原茂		7	10	12	15		10	10			?	?	64
菊安舞鶴	538	576	589	611	592	628	630	628	613	613	?	?	6,018
金菊徳	45	177	150	132	102	160	185	226	265	290	?	?	1,732
糸安菊	103	175	95	76	45	3	55	34	25		?	?	611
菊茂勝	413	362	270	357	283	188	263	199	70	35	?	?	2,360
平茂夏			3								?	?	3
菊福秀	133	175	225	47	135	97	110	90	93	30	?	?	1,135
房平茂	145	145	135	96	95	90	105	75	115	40	?	?	1,041
城乃神		6	45	50	55	30	30	8	15	20	?	?	259
来待招福	45	155	271	421	297	217	271	231	228	75	?	?	2,211
平福国1	310	367	210	132	170	166	221	221	175	120	?	?	2,092
安勝利	15	10	50	20	30	5	10		2		?	?	142
糸景平		5	20		2						?	?	27
第5八雲			5				10	10		10	?	?	35
平北勝1								40	50	50	?	?	140
北真鶴	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	?	?	500
飛良美継		50	5		5	25					?	?	85
美津清			30								?	?	30
桜忠陸					10	10	10	20	10		?	?	60
その他	10	3	2	20						30	?	?	65
計	1,807	2,273	2,167	2,024	1,886	1,672	1,960	1,762	1,711	1,363	?	?	18,625

##### (2) 日本短角種

(単位：本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高福		20											20
辰錦		20											20
良川									50				50
木川12									50				50
山口：研究用											134		134
計		40							100		134		274



## 5 種豚、種鶏等の配布

(畜産研究所家畜育種研究室：平成20年3月31日現在)

### (1) 銘柄鶏の配布

品 種	種 類		配 布 先
	雌 (羽)	雄 (羽)	
南部かしわ	9,590	3,400	岩手しずくいし南部かしわ生産組合他
計	12,990羽		

## 6 寄託放牧

(畜産研究所外山畜産研究室：平成20年3月31日現在)

### (1) 牛

品 種	種 類			計 (頭)
	成牛雌 (頭)	成牛雄 (頭)	子牛 (頭)	
日本短角種	64	0	56	120

### (2) 馬

品 種	種 類			計 (頭)
	成馬雌 (頭)	成馬雄 (頭)	子馬 (頭)	
ブル系等	18	0	7	25



## VIII 人事、予算、財産



1 岩手県農業研究センター予算（H19・2月補正現計）

（単位：千円）

区 分	（内 訳）	予 算 額
<b>【農業費】</b>		
人件費（本部・県北）		868,687
庁舎管理費（本部）		138,439
庁舎管理費（施設整備費）		16,213
ほ場管理費（本部）		56,800
ふれあい公園管理運営費		19,092
庁舎管理費（県北）		27,436
ほ場管理費（県北）		4,691
試験研究費（国庫助成、委託試験 等）		90,175
（1）植物防疫研究費	13,330	
（2）土壌対策研究費	5,033	
（3）農業関係試験研究委託事業費	48,654	
（4）民間委託試験研究費	23,158	
高生産性農業新技術開発促進研究費（県単研究費）		30,287
主要農作物採種管理費		14,737
令達事業（本部）	122,696	62,090
令達事業（県北）		6,309
合 計	1,395,562	1,334,956
<b>【畜産業費】</b>		
人件費（畜産）		482,597
庁舎管理費		59,418
飼育管理費		99,008
種山畜産研究室管理費		150,102
試験研究費（国庫助成、委託試験 等）		10,887
農業関係試験研究委託事業	10,887	
高生産性畜産新技術開発促進研究費（県単研究費）		23,020
令達事業		53,240
合 計		878,272
全 体 計	2,273,834	2,213,228

2 建物・用地の面積及び飼養家畜数 (H20.3.31 現在)

(1) 建物・用地の面積

	用 地 (ha)							建物 (m <sup>2</sup> )		
	耕 地					林 野 等	施 設 用 地	総 面 積	棟 数	延 面 積
	水 田	畑	樹 園 地	採 草 放 牧 地	小 計					
本 部	30.2	28.0	21.3		79.5	15.6	22.8	117.9	79	29,676
北 上	25.8	18.0	21.3		65.1		18.4	83.5	32	19,198
主な施設面積 (内数)										
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査研究棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
ふれあい公園						15.6	1.5	17.1	13	3,431
南部園芸研究室		1.3			1.3		0.4	1.7	6	1,522
旧銘柄米開発研究室	4.4	0.7			5.1		2.2	7.3	25	4,684
その他		8.0			8.0		0.3	8.3	3	841
畜産研究所		136.0		1,534.6	1,670.6	399.4	37.8	2,107.8	181	36,427
滝沢		67.7		14.2	81.9	50.1	32.9	164.9	124	23,299
外山畜産研究室		5.8		1,470.7	1,476.5	241.3	4.5	1,722.3	42	6,676
種山畜産研究室		62.5		49.7	112.2	108.0	0.4	220.6	15	6,452
県北農業研究所	1.0	10.7	0.3		12.0		8.2	20.2	16	6,746
合 計	31.2	174.7	21.6	1,534.6	1,762.1	415.0	68.8	2,245.9	261	62,508

(2) 飼養家畜頭数

(単位：頭・羽)

種別性別		雄	雌	計	品種別頭羽数
乳 用 牛	経産牛		56	56	ホルスタイン種 95
	育成牛 (子牛含む)		39	39	
肉 用 牛	(滝沢)	71	77	148	黒毛和種 37、日本短角種 91、交雑種 20
	(外山)	11 (♂8 去3)	121	132	黒毛和種 88、日本短角種 42、交雑種 2
	(種山)	96	61	157	黒毛和種 142、交雑種 15
牛 計		178	354	532	
豚	種豚	15	40	55	【種豚の内訳】ランドレース種(イワテハヤチネ L2)28、大ヨークシャー種 3、デュロック種 2、雑種 22
	子豚	75	75	150	
計		90	115	205	
鶏	種鶏	288	1,183	1,471	岩手地鶏 300、岩手大型ロード 400、基礎鶏 300、ホワイトロックロード 600、軍鶏 80、ホワイトロック 20、名古屋種 20、その他 51
	試験鶏	100	200	300	
	計	388	1,383	1,771	

### 3 種苗登録、特許等

#### (1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日
りんどう	いわて乙女	第 544 号	S59. 3. 19
りんどう	ジョバンニ	第 1,101 号	S61. 8. 8
りんどう	イーハトーヴォ	第 1,100 号	S61. 8. 8
大豆	緑良	第 2,517 号	H 2.12. 5
大豆	緑翠	第 2,516 号	H 2.12. 5
りんどう	アルビレオ	第 2,553 号	H 2.12. 5
りんどう	マシリイ	第 3,073 号	H 4. 2.29
りんどう	ホモイ	第 3,074 号	H 4. 2.29
ぶどう	エーデルアーリー	第 3,404 号	H 5. 3.10
りんご	きおう	第 3,947 号	H 6. 3.14
りんどう	アルタ	第 4,085 号	H 6. 8.22
稲	かけはし	第 4,410 号	H 7. 3.23
稲	ゆめさんさ	第 4,411 号	H 7. 3.23
りんどう	ポラーノ ホワイト	第 4,999 号	H 8. 3.18
りんどう	あおこりん	第 7,713 号	H12. 2.22
りんどう	ももこりん	第 7,714 号	H12. 2.22
りんどう	ポラーノ ブルー	第 7,715 号	H12. 2.22
大豆	星めぐり	第 7,756 号	H12. 2.22
稲	吟ぎんが	第 10,471 号	H14. 9. 4
スターチス	アイスター モーブ	第 10,673 号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ラベンダー	第 10,674 号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ライラックブルー	第 10,675 号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ロージーピンク	第 10,676 号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ライラック	第 10,677 号	H14. 9.30
稲	ぎんおとめ	第 10,963 号	H15. 2.20
大豆	ちゃげ丸	第 11,099 号	H15. 3.17
大豆	ぷっくらこ	第 11,100 号	H15. 3.17
稲	いわてっこ	第 12,177 号	H16. 8.18
きく	アイمامアーリーイエロー	第 13,034 号	H17. 3.23
きく	アイمامホワイト	第 13,035 号	H17. 3.23
きく	アイمامピンク	第 13,036 号	H17. 3.23
きく	アイمامイエロー	第 13,037 号	H17. 3.23
きく	アイمامホワイトピーチ	第 13,038 号	H17. 3.23
稲	もち美人	第 13,295 号	H17. 9.13
りんご	黄香	第 13,771 号	H18. 2.27
きく	アイمامレモンイエロー	第 13,800 号	H18. 2.27
きく	アイمامオータムホワイト	第 13,801 号	H18. 2.27
きく	アイمامパープルレッド	第 13,802 号	H18. 2.27
きく	アイمامアーリーホワイト	第 13,803 号	H18. 2.27
きく	アイمامオレンジ	第 15,952 号	H19.12.18
きく	アイمامレッド	第 15,953 号	H19.12.18
稲	どんびしゃり	第 16,604 号	H20. 3.17
りんどう	マジエル	第 16,725 号	H20. 3.17
りんどう	キュースト	第 16,726 号	H20. 3.17
スターチス	アイスター ソフトピンク	出願番号第 18,507 号	出願 (H17. 7. 8)
きく	アイمامピュアホワイト	出願番号第 19,610 号	出願 (H18. 4. 5)
きく	アイمامオータムイエロー	出願番号第 19,611 号	出願 (H18. 4. 5)
きく	アイمامオータムレッド	出願番号第 19,612 号	出願 (H18. 4. 5)
りんご	岩手7号	出願番号第 22,294 号	出願 (H20. 3.14)

## (2) 特許、実用新案

名 称	出願・公開番号 (年月日)	登録番号 (年月日)
米を原料とした飲料の製造方法	特開平 03-272671 (H 3. 12. 4)	1990534(H 7. 11. 8)
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	特開平 10-276514 (H10. 10. 20)	(公開・拒絶査定)
マクロシードペレットの散布装置	特開平 10-276516 (H10. 10. 20)	(公開・拒絶査定)
遺伝子組換えりんご及びその作出法	特開 2000-270700 (H12. 10. 3)	(公開・審査請求中)
果樹の成育状態評価方法	特開 2004-147539 (H16. 5. 27)	4026684(H19. 10. 19)
土壌用有機成分の推定装置	特開 2005-017115 (H17. 1. 20)	3902160(H19. 1. 12)
ハトムギ食品の製造方法	特開 2005-040104 (H17. 2. 17)	3842253(H18. 8. 18)
家畜用胚移植器	特開 2006-181078 (H18. 7. 13)	(公開・審査請求中)
降霜予測装置	特開 2006-189403 (H18. 7. 20)	4053544(H19. 12. 14)
有機肥料の製造方法及び有機肥料	特開 2006-265027 (H18. 10. 5)	(公開・審査請求中)
物質の成分推定方法及び物質の成分推定装置	特開 2007-187486 (H19. 7. 26)	(公開・審査請求中)

## (3) 一般に公開しているプログラム等

名 称	公開 (年月日)	バージョン	開発研究室 (担当)
「生産技術体系」及び「営農計画作成支援シート」	平成 18 年 2 月 22 日	Ver. 1. 2	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
集落営農組織化効果試算シート	平成 18 年 6 月 9 日	Ver. 0. 1	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
作業可能日数率算出支援シート	平成 19 年 3 月 30 日	Ver. 1. 0	生産工学研究室 (主任専門研究員 大里達朗)



#### 4 表彰

表彰内容（表彰団体）	表彰の対象者（組織）	表彰の対象となった研究成果等	年 月 日
実績顕著者表彰 ※平成19年度該当無し			
（農林水産部長表彰） 平成19年度第1回農林水産部長表彰	主任専門研究員 前山 薫	インターネットを活用した農業技術体系データベース・システム	H19.10.1
平成19年度第2回農林水産部長表彰	上席専門研究員 細川 泰子	血液検査指標を活用した正常卵率向上のための牛の飼料給与プログラム	H20.2.6
（内部表彰） 平成19年度第1回農業研究センター所長表彰	主任主査 阿部 均	農業科学博物館入館料収納事務の簡素化について	H19.7.30
	主任専門研究員 前山 薫	インターネットを活用した農業技術体系データベース・システム	
	専門研究員 阿部 陽	イネいもち病圃場抵抗性遺伝子の集積によるいもち病抵抗性の向上	
	専門研究員 大野 浩	りんごの開花予測に係る定数計算プログラムの開発と定数見直しによる予測精度の向上	
	専門研究員 高橋 拓也 野菜畑作研究室長 及川 一也 産地育成研究室長 佐藤 正昭	アスパラガス年内どり促成作型における1年養成根株の掘取り時期	
	専門研究員 葉上 恒寿 専門研究員 及川 あや	玄米タンパク質含有率を考慮した「ひとめぼれ」の栄養診断指標の策定	
	上席専門研究員 関村 照吉	ミルクジャムの新製造法と県産農産物入り商品の開発	
	上席専門研究員 細川 泰子	血液検査指標を活用した正常卵率向上のための牛の飼料給与プログラム	
平成19年度第2回農業研究センター所長表彰	専門研究員 阿部 直行 専門研究員 松浦 貞彦 農業経営研究室長 小川 勝弘	加工・業務用野菜・りんご、おうとうの競争ポジショニング分析と振興方向の提案	H19.11.26
	主任専門研究員 須藤 勇人 花き研究室長 阿部 潤	グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウの法面被覆効果	
	専門研究員 佐々木 直子 主査 千葉 克彦	MBI-D 剤耐性イネいもち病菌の発生実態の解明とその対策	
	主任専門研究員 児玉 英樹 専門研究員 渡辺 彩	ラクトフェリン添加による牛凍結精液の製品化率向上	
	主任専門研究員 仲條 眞介	水田栽培用ヒユ「達磨」の無化学肥料一貫栽培体系の実用化	

表彰内容（表彰団体）	表彰の対象者（組織）	表彰の対象となった研究成果等	年 月 日
（内部表彰） 平成19年度第3回農業研究センター所長表彰	主任専門研究員 稲田 聖児	農業研究センター試験研究推進要綱見直しによる試験研究推進システムの改善	H20. 2. 25
	水稻育種研究室 水田作研究室	新形質米品種 「岩手紫 76 号」、「岩手酒 79 号」、「岩手 80 号」、「岩手香 84 号」、「岩手巨胚 87 号」の開発	
	主任専門研究員 高橋 司	ブルーベリー優良品種の選定	
	土壌作物栄養研究室長 多田 勝郎	農業科学博物館における宮沢賢治関連展示コーナーの整備	
	専門研究員 宍戸 貴洋	寒締めほうれんそうの簡易な糖度測定法の確立	
	主任専門研究員 猫塚 修一 主査 千葉 克彦 花き研究室長 阿部 潤 主任専門研究員 川村 浩美	施設花きに発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス（INSV）の伝搬様式の解明と防除指導による被害拡大防止への取組み	
	専門研究員 佐藤 洋一 主任専門研究員 児玉 英樹	乳頭数不足の主要原因遺伝子の排除のための DNA マーカー診断の精度とその産肉能力への影響について	
	主任専門研究員 漆原 昌二 専門研究員 吉田 樹史	機械化栽培を前提とした雑穀（アワ・キビ）の適正播種量及び作期の明確化	

5 職員名簿

(平成20年3月31日現在)

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
所長	太田 義信	技能員	菅野 輝彦	技師	佐藤 由美子
副所長	武田 眞一	園芸畑作部長	小野田 和夫	技師	齋藤 智子
総務部長	八重樫 良	果樹研究室長	田村 博明	技師	佐藤 美和子
総務課長	小山 武彦	主任専門研究員	高橋 司	技師	菅 広和
主任主査	阿部 均	主任専門研究員	小野 浩司	病理昆虫研究室長	鈴木 敏男
主査	照井 博幸	専門研究員	大野 浩	主任専門研究員	藤沢 巧
主査	小野 演彦	専門研究員	畠山 隆幸	主任専門研究員	猫塚 修一
主事	須賀 美奈子	野菜畑作研究室長	及川 一也	専門研究員	横田 啓
主事	小林 慶幸	主任専門研究員	高橋 昭喜	専門研究員	佐々木 直子
主事	古舘 奈奈	主任専門研究員	井村 裕一	専門研究員	岩舘 康哉
企画経営情報部長	川嶋 明澄	専門研究員	高橋 拓也	技能員	猪澤 哲哉
企画情報室長	小田原 和弘	専門研究員	山口 貴之	畜産研究所長	三浦 牧夫
上席専門研究員	渡辺 芳幸	専門研究員	伊藤 信二	次長	笹村 正
主任専門研究員	稲田 聖児	技能員	小黒澤 清人	次長	小沢 幸雄
主任専門研究員	鈴木 元	技能員	中軽米 徳典	次長	小松 繁樹
主任専門研究員	伊勢 智宏	花き研究室長	阿部 潤	主幹兼総務課長	古舘 昭次
農業経営研究室長	小川 勝弘	主任専門研究員	川村 浩美	主任主査	柳本 登
主任専門研究員	昆野 善孝	主任専門研究員	千葉 賢一	主任	吉田 由美子
主任専門研究員	前山 薫	専門研究員	中里 崇	主事	西山 富士子
専門研究員	松浦 貞彦	南部園芸研究室長	佐藤 弘	運転技師兼技能員	吉田 正弘
専門研究員	阿部 直行	主任専門研究員	志田 たつ子	主任技能員	関村 武志
農産部長	鶴田 正明	専門研究員	藤尾 拓也	主任技能員	小笠原 幸一郎
水田作研究室長	高橋 政夫	生産環境部長	千葉 泰弘	主任技能員	岩崎 春見
主任専門研究員	長谷川 聡	環境保全研究室長	折坂 光臣	主任技能員	石川 勝美
主任専門研究員	日影 勝幸	主任専門研究員	中野 亜弓	主任技能員	小林 雄二
主任専門研究員	林 尻雄大	専門研究員	洞口 博昭	主任技能員	米沢 健治
専門研究員	及川 あや	専門研究員	佐藤 千穂子	主任技能員	右京 隆二
技能員	西野 哲仁	技能員兼運転技師	佐藤 広昭	主任技能員	工藤 明彦
水稻育種研究室長	木内 豊	土壌作物栄養研究室長	多田 勝郎	主任技能員	荒木田 俊一
主任専門研究員	中野 央子	上席専門研究員	鈴木 良則	主任技能員	佐藤 洋貴
専門研究員	阿部 陽	専門研究員	大友 英嗣	主任技能員	竹田 政則
技師	高草木 雅人	専門研究員	葉上 恒寿	技能員	菅原 薫
技能員	菊地 徳章	保鮮流通技術研究室長	伊藤 公成	技能員	永洞 俊司
応用生物学研究室長	佐々木 力	上席専門研究員	関村 照吉	技能員	細野 貴樹
主任専門研究員	星 伸枝	専門研究員	穴戸 貴洋	技能員	鷺見 義信
専門研究員	阿部 弘	専門研究員	氏橋 明子	技能員	畠山 博文
専門研究員	臼井 紀子	病虫害部長	赤坂 安盛	技能員	水澤 博征
生産工学研究室長(部長兼務)	鶴田 正明	病虫害防除課長	飯村 茂之	技能員	上澤 賢輝
主任専門研究員	伊藤 勝浩	主査	千葉 克彦	技能員	谷地舘 透
主任専門研究員	須藤 勇人	主査	熊谷 拓哉	技能員	荒屋 康之
主任専門研究員	藤原 敏	技師	阿部 亜希子	技能員	西野 聖
主任専門研究員	豊坂 光弘	技師	羽田 厚		

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
家畜育種研究室長	吉田 力	営農技術研究室長(次長兼務)	高橋 修		
上席専門研究員	佐藤 直人	主任専門研究員	荻内 謙吾		
専門研究員	安田 潤平	専門研究員	松浦 拓也		
専門研究員	佐々木 直	技師	吉田 樹史		
家畜飼養研究室長	加藤 英悦	産地育成研究室長	佐藤 正昭		
主任専門研究員	茂呂 勇悦	主任専門研究員	川戸 善徳		
専門研究員	越川 志津	専門研究員	田代 勇樹		
家畜工学研究室長	菊地 雄	専門研究員	目時 梨佳		
主任専門研究員	細川 泰子	やませ利用研究室長	大清水 保見		
専門研究員	佐藤 洋一	主任専門研究員	漆原 昌二		
専門研究員	福成 和博	主任専門研究員	仲條 眞介		
首席専門研究員兼飼料生産研究室長	佐藤 宏				
主任専門研究員	堀間 久巳				
専門研究員	平久保 友美				
専門研究員	尾張 利行				
外山畜産研究室長	砂子田 哲				
主任専門研究員	藤澤 牧人				
主任専門研究員	濱戸 もえぎ				
専門研究員	小野寺 真希子				
主任技能員	中村 長悦				
主任技能員	藤原 時夫				
主任技能員	上野 由克				
技能員	鳴海 茂揮				
技能員	葉木澤 一也				
種山畜産研究室長(次長兼務)	小松 繁樹				
上席専門研究員	大森 仁				
主任専門研究員	児玉 英樹				
主事	豊岡 広伸				
専門研究員	渡辺 彩				
専門研究員	藤村 和哉				
主任技能員	斎藤 和一				
主任技能員	中村 健				
技能員	松本 徹				
技能員	後藤 克明				
県北農業研究所長	新毛 晴夫				
次長	高橋 修				
主幹兼総務課長	作山 匠				
主事	千葉 真樹子				
運転技師兼技能員	日山 千代司				
技能員	清水 賢一				
技能員	藤根 寛道				

## 沿革

- 明治 31 年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治 34 年 農事試験場（3 部制：庶務・種芸・分析）を本宮村向中野（現盛岡市）に設置。  
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治 35 年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治 36 年 農事試験場に園芸部（4 部制）を新設。
- 大正 2 年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町（現奥州市水沢区）に設置。
- 大正 8 年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村（現奥州市江刺区）に設置。
- 大正 11 年 原蚕種製造所を蚕業試験場（4 係制：庶務・蚕種・試験・桑園）と改称。
- 大正 12 年 農事試験場に病虫害部（5 部制）を新設。  
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村（現盛岡市玉山区）に移転（滝沢は支場となる）。
- 昭和 2 年 種鶏場を岩手郡巻掘村（現盛岡市玉山区）に設置。
- 昭和 5 年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。  
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和 10 年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎村（現遠野市）に設置。
- 昭和 12 年 種畜場本場を滝沢村に移転、玉山は外山支場となる。  
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和 13 年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和 15 年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和 21 年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村（現一戸町）に設置。
- 昭和 22 年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和 23 年 種鶏場を紫波郡日詰町（現紫波町）に移転。
- 昭和 25 年 農事試験場を農業試験場（4 部制：総務・営農・農産・畜産）と改称。  
農業試験場畜産部を種畜場と併設。  
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町（現花巻市大迫町）に設置。  
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村（現久慈市）、下閉伊郡豊間根村（現山田町）及び  
気仙郡小友村（現陸前高田市）に委託設置。
- 昭和 26 年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村（現陸前高田市）に設置。  
農業試験場に遠野試験地が国から移管。  
農業試験場に農業経営研究部門設置。  
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和 28 年 蚕業試験場を水沢市（現奥州市水沢区）龍ヶ馬場に移転。
- 昭和 30 年 農業試験場本場機構改革（8 部制：庶務・種芸・化学・園芸・病虫害・経営・農機具・畜産）。  
蚕業試験場機構改革（4 部制：庶務・栽桑・養蚕・病理化学）。
- 昭和 32 年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和 36 年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和 37 年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びぶどう試験地を分離して園芸試験場（3 部制：庶務・果樹・蔬菜花  
卉）を北上市に設置。南部試験地及びぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫圃場と改称。  
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。  
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。  
農業試験場遠野試験地及び沿岸作物試験地を廃止。  
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和 38 年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村へ移転。
- 昭和 39 年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和 41 年 農業試験場本場機構改革（4 部制：庶務 2 係・技術・環境・経営）。
- 昭和 44 年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和 46 年 農業試験場本場機構改革（科制導入。技術部：水田作科・畑作科・作業技術科、環境部：施肥改善科・土  
壤改良科・病虫害科、経営部：経営科・流通経済科）。  
農業試験場県南分場及び県北分場に分場次長を設置。  
農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場となる。  
園芸試験場に環境部を設置。  
園芸試験場大迫圃場を大迫試験地と改称。  
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。

- 昭和 47 年 園芸試験場南部分場を陸前高田市米崎町から同市高田町へ移転。
- 昭和 48 年 蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
- 昭和 51 年 農業試験場作業技術科を農業機械科に改称。
- 昭和 53 年 蚕業試験場六原試験地を廃止。  
蚕業試験場養蚕部、病理化学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
- 昭和 56 年 園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改称。
- 昭和 57 年 蚕業試験場整備計画実施（～昭和 58 年）。
- 平成 3 年 農業試験場に水稻育種科を設置。
- 平成 8 年 畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
- 平成 9 年 農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。  
農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設置。  
農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。  
農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農業研究所を設置。  
畜産試験場を畜産研究所に改組。  
畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。  
県北農業研究所に専門技術員を配置。
- 平成 10 年 園芸畑作物蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置（繭検定所を廃止）。  
センター本部に専門技術員を配置。
- 平成 11 年 企画経営情報部マーケティング研究室を農業経営研究室に統合。
- 平成 13 年 病害虫部を新設し、病害虫防除課及び病理昆虫研究室を設置。  
銘柄米開発研究室、蚕桑技術研究室及び同研究室繭品質評価分室を廃止。  
南部園芸研究室を陸前高田市高田町から同市米崎町へ移転。
- 平成 16 年 総務部管理課を同部総務課に統合。  
県北農業研究所にいわて雑穀遺伝資源センターを設置。  
企画経営情報部内にいわて農林水産知的財産相談センターを設置。
- 平成 17 年 病害虫防除課県北農業研究所駐在を廃止、病害虫防除所（本部）へ統合  
専門技術員（県北農業研究所勤務）を専門技術員室（本部）へ勤務振り替え
- 平成 18 年 専門技術員室を廃止（中央農業改良普及センターへ勤務振り替え）

< 所 在 >

<u>岩手県農業研究センター</u>		
本 部	〒024-0003	岩手県北上市成田 20-1 Tel. 0197-68-2331 FAX. 0197-68-2361 ホームページ <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/">http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/</a> Email : CE0008@pref.iwate.jp (本部) Email : CE0001@pref.iwate.jp (病害虫防除所)
(南部園芸研究室)	〒029-2206	岩手県陸前高田市米崎町字川崎 101 Tel. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-2093
畜産研究所	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村字砂込 737-1 Tel. 019-688-4326 FAX. 019-688-4327 Email : CE0010@pref.iwate.jp
(外山畜産研究室)	〒028-2711	岩手県盛岡市玉山区藪川字大の平 40 Tel. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012
(種山畜産研究室)	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字飼沢 30 Tel. 0197-38-2312 FAX. 0197-38-2177 Email : CE0034@pref.iwate.jp
県北農業研究所	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内 23-9-1 Tel. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011 Email : CE0009@pref.iwate.jp

**平成19年度 岩手県農業研究センター年報**

平成21年2月 発行

岩手県農業研究センター

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1

TEL (0197) 68-2331 FAX (0197) 68-2361

IWATE-AGRICULTURAL RESEARCH CENTER

20-1Narita,Kitakami Iwate 024-0003,Japan

